

# 紹興宝卷研究2 付「双英宝卷」校注影印

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-10-05 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://doi.org/10.24517/00034668">https://doi.org/10.24517/00034668</a>

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.



# 紹興宝卷研究 2

## 付「双英宝卷」校注影印

課題番号：17083019

平成20年度科学研究費補助金  
特定領域研究／東アジアの海域交流と日本伝統文化の形成  
散楽の源流と中国の諸演劇・芸能・民間儀礼に見られる  
その影響に関する研究（演劇班）・研究成果報告書

平成21年3月

研究分担者 **上田 望**  
金沢大学人文学類准教授

# 目次

序	1
「双英宝卷」解題（上田 望）	3
付録	
「双英宝卷」校注及び影印（上田 望・施 凱盛・林 志英 校注）	19

# 序

本報告書は、平成 20 年度科学研究費補助金特定領域研究「東アジアの海域交流と日本伝統文化の形成」の「散楽の源流と中国の諸演劇・芸能・民間儀礼に見られるその影響に関する研究」（演劇班）の成果の一部をまとめたものである。

この数年、浙江東部の寧波や紹興地域で重点的に調査をおこなってきており、紹興の芸能「宣卷」については、平成 18 年度の報告書でも詳しく報告し、あわせて紹興県福全鎮下兪村（当時）で入手した「双状元宝卷」を校訂し、原本の写真とともに公表している。その後の調査で、さらに紹興県漓渚鎮の張大斯氏所蔵の 2 種類の宝卷資料を兪邦民氏を通じて入手したので、本報告書ではそのうちの一つである「双英宝卷」について解題を作成し、前回と同様に注釈を加え校訂テキストと写真を公表することとした。

「双英宝卷」の内容等については解題で詳述することにしたいが、中華民国期に石印本「梅花戒宝卷」が出ており、これについては古屋明弘、氷上正、王福堂三氏の詳細な注釈を加えた校訂テキストが早稲田大学古籍文化研究所・説唱文学研究所から刊行されている。読み物として販売されていた石印本のテキストと、今回、世に問う上演用テキストとの精密な比較対比によって、今後さらに芸能研究の発展が期待できるであろう。紹興方言を含む手抄本であるため、誤読もあろうかと思われるが、影印と校注本の公開を通して大方のご批評を願う次第である。

最後になったが、本研究では校注作成に関し林志英氏（当時、北京大学中文系碩士課程在籍）、施凱盛氏から協力を得た。特に施氏には呉方言のネイティブスピーカー（寧波市出身）としていろいろと貴重なご助言を賜った。また、「梅花戒宝卷」の翻字並びに注釈からは先行業績として多くの教示を受けている。ここに改めてご支援・ご教示を賜った方々のお名前を記し、謹んで感謝の意を表したい。

2009 年 3 月 22 日

上田 望 記





# 「双英宝巻」解題

上 田 望

## 1. 「双英宝巻」の梗概

上本

大唐永徽年間（650 - 655 年、高宗）、浙江省寧波府定海県に王応文という 16 歳の若き書生がいた。応文の父、王廷貴はかつて首相をつとめたほどの人物であったが、父も母親張氏もすでに世を去り、王徳という奴僕が応文に仕え、世話をやいていた。

覺門に入り、勉学に打ち込んでいた応文であるが、思うように志を遂げることができない憂さを晴らそうと、書童の王興とともに 8 月 18 日の大潮を觀に行く。潮が来る前に潮神廟を參觀していた応文は、善男善女が参詣しているのを見て、自分が功成り名を遂げた暁にはこの廟を焼き捨てさせると言い、潮神を邪神よばわりして潮神の怒りを買う。

応文が文曲星の生まれ変わりであり、また彼の伴侶となるべき女性が福建泉州府にいることを知っている潮神は、夜叉に命じて応文を潮に巻き込み無傷で晋江県に運ばせる。

書童は屋敷に帰って難を王徳に知らせ、王徳は河辺に駆けつけるが遺体を見つけることもできず、応文の位牌を設けて供養する。

潮に流された応文は晋江県の海で漁師阿二、阿三の網にかかり、砂浜にうち捨てられる。気がついた応文は通りがかりの老人に自分が今いるところが泉州府晋江県だと教えらるる。

近くの川で水浴びをして身を清めていた応文は、洗って乾かしていた服をこそ泥の白望光に盗まれてしまう。

そこへ、母親の命で米をとぎに楊完英がやってくる。楊完英はこの地で食堂を営む楊天標と紹興府山陰県出身の妻との間に生まれた娘で十六歳。彼女は一時期、隣の駱府のお嬢様と姉妹のように一緒に暮らしていたが、このとき実家に帰ってきていたのであった。応文のあらねない姿におろおろするばかりの娘に代わって楊媽媽が応対し、応文に自分のお古の衣裳を着せ、家に連れてくる。応文は完英の部屋に通され、そこで食事を持って来てくれた完英に身の上を語り、彼女に結婚を申し込む。完英も承諾し、誓いのしるしとして梅花戒を応文に贈る。

楊天標は文房具を取るために完英の部屋に入った時、眠っていた応文を見つけ女芸人（鳳陽婆）と勘違いし、虎にでも喰われるとばかりに東門外の山に担いでいって棄てる。それを見て楊媽媽や完英は悲しむがなすべがなかった。

目を覚ました応文は一文無しでどうすることもできないため、山を下りて城内の四つ辻で物乞いをする。（祈福の唱詞 44 句）

晋江県に住む首相の駱賓は、夫人李氏のとの間に七人の息子と一人の娘をもうけ、息子たちはいずれも役人になり結婚していた。一人娘の駱姣英は十六歳で、皇帝の仲立ちで潼関を守る平西王沈崇の息子沈標と婚約していたが、沈標が醜くて乱暴者との噂を耳にし、母親の李氏は行く末を気に病んで身罷り、娘も一日泣き暮らし自ら命を絶とうとする始末で、ほとんど困り果てて引退を考えていた。

ある日、駱賓は侍女たちに姣英を街へ気晴らしに連れて行くように命じ、娘が笑ったら

褒美を取らせると約束する。

姣英は部屋に閉じこもって自分の不幸を嘆いていたところに、七人の兄嫁たちが来て、彼女を花園へ連れ出す。桂花を見ても姣英の心は鬱々として楽しまず、尼になりたいと言うため、今度は海棠、梨花を見せるがやはり喜ばない。

そこで、侍女たちは花園の外に連れ出そうと門を開けたところ、女装した狂女のような応文が通りかかり、姣英は思わず笑い出す。侍女から報告を受けた駱賓は、なぜ男の応文が女装しているのか問いただす。

応文は自分の身元を隠し、元の主人に殺されそうになったため、女装して逃げ出してきたのだと偽りを述べる。駱賓は応文の挙措が典雅なのを見て気に入り、書童として「新来」という名を与え屋敷に置くことにする。応文は奥に入って、七人の若夫人や姣英たちに挨拶をすませる。

さて、沈栄は天下を奪おうと企み、黒元帥を使わして高麗国から十万の兵を借りようとしていた。さらに駱家も味方につけようと、息子の沈標を泉州府晋江に行かせて駱姣英と婚礼を挙げるよう命ずる。船で泉州にやって来た沈標は、城内で適当な屋敷を見つけ公館として借り上げ、下僕を駱府へ使わし婚礼を催促する。

下本

駱賓のもとへ沈標からの書き付けが届く。駱賓は沈標が逗留する西街の屋敷に挨拶へ赴く。沈標が無礼なだけでなく、学のない乱暴者であることを知り、また皇帝を盾に婚姻を迫るのを見て駱賓は腹を立てて帰ってしまう。

さて、応文は姣英の才識がどれほどのものかを確かめようと、姣英の部屋に潜り込むが、姣英に見とがめられる。姣英は応文が身につけている梅花戒が、以前、自分が楊完英に贈ったものと同じであることに気づき、真相を確かめようと応文から借り受ける。

侍女から沈標が晋江にやってきたことを聞いた姣英は自分の悲運を嘆いているところに、応文が口をはさむ。姣英は梅花戒の出所について詰問し、応文は完英との婚約のしるしであることを明かす。姣英は完英の幸せをうらやみ、それに引き替え自分の不運を嘆く。

完英の不幸に同情している応文を見て駱賓は訝しみ、彼の素性を問いただす。応文は事情を包み隠さず話す。駱賓は応文が自分と旧交のあった亡き王廷貴の息子であることを知って驚き、喜ぶ。そして応文が科挙を受験するために上京できるよう支度を調えさせ、応文は出立する。

さて、姣英は沈標との結婚を嫌がり、夜中に自殺をはかるが、兄嫁たちによって助けられる。

沈標は変装して駱府の花園へ潜り込んで様子を窺う。姣英の看病のために花園で遊ぶ機会のなかった侍女たちは、姣英や兄嫁たちに化けて花園で気晴らしをしようとする。姣英に化けた侍女が「結婚の初夜に洞房で酒に酔った沈標を刀で刺してやる」と言っているのを盗み聞きした沈標はびっくりして潼関に急ぎ帰る。沈標の報告を受けて怒り心頭の父はすぐさま婚約破棄の書状をしたため、武官に晋江の駱府へ届けさせる。駱賓は息子の嫁たちと協議し、急ぎ上京する。

破談になったことで元気を取り戻した姣英は、完英を駱府へ招く。やって来た完英に姣英は自分が贈ったあの梅花戒はどうしたかと尋ねる。嘘をつく完英に、姣英は梅花戒を取

り出して見せ、観念した完英は経緯を語り、梅花戒を贈った応文とはその後連絡が取れないと話す。姣英はそれを聞いて、事情を説明し、応文が科挙のため上京したことを告げ、完英をうらやむ。

唐の朝廷では朝議が開かれ、沈栄は駱賓が勝手に婚約を破棄しようとしたと訴えるが、駱賓は反駁し沈栄が寄越した婚約破棄の書状を証拠として提出する。さらに黒元帥も沈栄の謀叛の企みを示す書状を提出したため、沈栄、沈標父子は辺境へ流罪となる。

さて、考場では吉天祥の監督のもと、試験が実施されていたが、応文は見事な成績で状元となる。もう一人の受験生は下品な解答をして考場からたたきだされる。

皇帝は殿中で叩頭する応文に面を上げさせて、彼が容姿端麗であることを認め、また彼の上奏を許し、楊天標を七品の官、王徳を八品の官、楊完英を二品淑徳夫人とし、さらに皇帝が媒酌人となって駱姣英を一品淑徳夫人として娶らせることとする。

この吉報を得た晋江の駱府では、すぐに楊天標夫婦を招いて状況を語り、ともに喜び合う。応文は寧波の家を訪ね、応文がすでに亡くなっていると思っていた王徳を驚かすとともに、彼のこれまでの恩義に感謝する。

応文はさらに定海県の鄭知県に潮神廟を修理するよう要請する。数日後、修理が完了し応文は参拝して願ほどきをすませる。

駱家の父娘、楊家の親子が定海県の王宅を訪れ、婚儀が執り行われる。

月日が経ち、姣英、完英それぞれの夫人は一男一女を産む。ある日、二夫人は来世のために修行の道に入りたいと話し合う。そこへたまたまやって来た夫にも、はやく俗世と縁を切り修行の道へ入るよう勤める。応文も同意し、任期が満了すると夫婦三人で修行につとめる。

楊天標夫妻も子供たちにならい仏道修行に励み、寿命が尽きると病に苦しむこともなく世を去る。三十年後、太白金星が玉皇大帝の聖旨を持って訪れ、応文は文曲星、姣英、完英は月宮仙女の生まれ変わりであったが、彼らがもとの位に戻ることが許され、彼らの二人の息子たちも皇帝のそばに仕えて出世し、子孫は繁栄した。

## 2. 「双英宝巻」と「梅花戒宝巻」

「双英宝巻」（以下、「双英」と略）は、上本の冒頭に「恭聞双英宝巻名曰梅花戒……」とあるように、「梅花戒宝巻」（以下、「梅花戒」と略）のふたつ名もある。

「梅花戒」については、民国期に出版された石印本が多く存し、これらについては車錫倫『中國寶巻總目』（北京燕山出版社，2000年，以下『車目』と略）第176頁に著録されている（「双英」については第257頁に著録）。

また、「梅花戒」の校注本としては、古屋明弘、氷上正、王福堂共編『梅花戒寶巻 影印・翻字・注釈』（中国古籍文化研究所単刊3 2004年）があり、同書の氷上正著「解題」でも「梅花戒」の書誌情報が『車目』から転載されているのでここでは取り上げないことにする。

では、「双英」と「梅花戒」は同じ鑄型から作った同一の作品なのかということそうではない。筆者の見るところ、8割方は同内容の唱詞や説白であるが、細部にわたっては異同が見られる。唱詞と説白でそれぞれ例を挙げてみる。

双英宝卷上本

〔完〕咳，我好命苦嚇：

完英無奈便抽身 手執筐籃走出門 將身來到河埠口 只見男兒水中浸  
心中發慌紅了臉 慌忙回轉店堂門 關了房門呆了立 〔丑〕走出媽媽問原因

梅花戒宝卷卷上第3葉 a

〔旦〕阿吓，我好苦吓。

完英無奈便抽身 滿面淒涼暗傷心 想起當初在相府 梅香伏侍甚殷勤  
今日洗菜來粗做 怎當丫嬛使用人 母親之命難違逆 無奈勉強往外行  
手執淘籬筐籃走 玉指尖尖就開門 行來已是河埠口 抬頭只見有人身  
滿面含羞紅了臉 慌忙移步退轉身 關門進內呆呆坐 走出楊媽媽問分明

母親の楊媽媽の言いつけで米を研ぎに行く楊完英の不満と、彼女があられのない姿の王応文に出くわして逃げ帰る場面を描写する唱詞である。「双英」、「梅花戒」ともに同系統のテキストに拠っていることは明白であるが、一方で「双英」はかなり唱詞が少なく、これは伝承の過程で省かれたか、欠落したのではないかと考えられる。

双英宝卷上本

〔丫〕嘎咦，小姐已要發惡亂者，噲，少夫人喂，看小姐 心事勿寧，侪丫頭倒有個主意  
來帶，勿如開之園門，外面是條小街， 有走索個，嬉罐個，嬉彩瓶個，變大戲法個，  
起看看街景也好消愁解悶。

梅花戒宝卷卷上第6葉 a

〔雜〕 噲，夫人。 小姐他有心事， 丫嬛倒有個主意  
在此。勿如開了園門， 是個小街。鬧中取靜，走索 嬉缸弄罐，多少鬧熱。  
看看 也好消愁解悶。

沈標との縁談を嫌がり、気分のすぐれないお嬢様を笑わせるために、侍女が花園から外へ気晴らしに出てはどうかと若夫人に提案するせりふである。両者にやはり若干の相違が見られるが、「双英」のほうが、紹興方言の第一人称複数形式の「侪」、虚詞化した「個」、これまた虚詞の「帶」（近指）など、このケースに限れば口語（方言）をより多く用いていると言える。

これは「双英」が上演本であるために、特にせりふの部分に就いては、絶えずより生き活きとした口語を使用せざるをえないためであろう。

ちなみに、「双英」で呉方言のせりふがあるのは、王徳（王応文の奴僕、但し彼は王応文とは普通話で対話）、王興（王応文の書童）、大衆（観潮時）、漁師の阿二、阿三、白望光（こそ泥）、楊天標、楊媽媽（丑）、駱府の侍女たち、沈標（丑）、科挙の受験者（丑）、婚礼の介添え役であり、節目ごとに彼らが登場し、方言で滑稽なやりとりを展開し場を和ませる働きをしている。

このほか、ストーリーの展開にも関わってくる大きな違いとしては、以下のような個所

が指摘できる。

・祈福の唱詞：「双英」上本

一文無しで放り出された王応文が四つ辻で物乞いをする場面で、「哀求開店開廠老闆們發財銅錢丟幾文」以下、道行く様々な職業、階層の人々に喜捨を請う唱詞が延々と続く。

これとほぼ同様の唱詞が「双状元宝巻」でも見られ、実際に上演される宝巻には予祝芸能としての性格が元来あったと考えられる。「梅花戒」にはこの唱詞は全くないが、石印本として刊行する際に、読み物には不必要ということで削除された可能性が高い。

・沈標が潼関に戻ったあと

「双英」では沈標が怒って潼関に戻った場面のもと、すぐに潼関の沈栄の話に場面が切り替わるが、「梅花戒」では、駱賓と駱姣英がこの問題について相談し、姣英が破談になるのを喜ぶ唱詞がある。「双英」ではこのところに「宣到此處停三回」という句があり、一つの区切りとなっているので、上演時間の都合などで省かれてしまった可能性がある。

・沈栄父子の末路

朝議の場で謀叛の企みを暴かれた平西王沈栄と沈標は、「梅花戒」では「斬首示衆」という結末になるが、「双英」では、めでたい席や葬儀の場でも上演されるため、「死」という結末を忌避し、罪一等を減じて辺境へ流罪という処分になっている。

・試験場の場面

王応文は上京して科挙に応じるが、試験場での試験官とのやりとりなどが「双英」にはあるのに対し、「梅花戒」には何もない。「双状元」にも「双英」とほぼ同じ描写があり、試験官の名前まで同名である。この場面には応文だけでなく道化役も受験生として登場し、笑いを取るところでもある。おそらく紹興の宝巻では欠かせない一幕なのであろう。

・婚礼の介添え役（儻相）

「梅花戒」でも「双英」でも王応文と駱姣英、楊完英が婚礼を挙げる際に介添え役が登場してくるが、「梅花戒」のほうがりふがかなり少なくなっている。「双英」と似た言い回しは「双状元」にも見られる。これは石印本の「梅花戒」が刊行される時点で、不必要な部分と判断され一部カットされたか、反対に紹興の芸能者が自分と同じ儀式進行役だということで介添え役のせりふを水増ししたかであろう。

・婚礼のあと

「双英」と「梅花戒」では婚礼を挙げたあとの描写に顕著な違いがある。

「梅花戒」のほうがりふが詳しく、二人は応文が夜休む部屋を互いに譲り合い、応文は毎日部屋を変える。父親駱賓は婚礼の1ヶ月後に寧波から上京する。しかしこれらの描写は「双英」には全くない。

・結末（団円）

楊夫妻についてはともに記述があるが、「梅花戒」では駱賓、奴僕の前徳らがどうなったのかは記されていないのに対し、「双英」では駱賓は修行を積んで西天に上り、前徳は天寿を全うしたとある。

また、「梅花戒」では王応文夫妻の間に誕生したのは男の子二人だけだが、「双英」ではそれ以外に娘にも恵まれている。このほか、「梅花戒」では二十年後に太白金星が来るが、「双英」では三十年後となっている。

これらは些細な違いではあるが、「双英」のほうがより「完美」な結末を強調する終わり方となっている。読み物であればこれらは余計な潤色になるが、上演用テキストとしての「双英」では、「雙英寶卷前後四回，恩怨分明，忠孝雙全，大聚團圓，拜謝皇恩天地也。」というコンセプトに合わせた締めくくりとして不自然さはない。

以上、「双英」には紹興で実際に用いられる上演用テキストとして、「梅花戒」とは異なる、上演の場により相応しい特徴を持ったものと言えるであろう。

### 3. 「双英宝卷」のことばと文体

さらにもう少し詳しく、モノグラム・バイグラム<sup>1</sup>を使って「双英」の文体的特徴をしてみる。

【表1 「双状元宝卷」「双英宝卷」で使用頻度の高い単漢字（上位30字）】

	双状元		双英	
1	我	397	來	375
2	人	348	我	281
3	兒	262	人	234
4	來	259	生	225
5	不	206	相	206
6	你	204	一	190
7	二	199	不	188
8	娘	193	小	179
9	是	176	有	178
10	上	162	者	178
11	子	155	姐	173
12	生	152	個	158
13	老	152	得	156
14	有	139	是	142
15	親	137	丫	129
16	心	135	嚇	129
17	家	134	家	129
18	個	120	看	126
19	母	118	到	123
20	日	117	起	122

<sup>1</sup> N-gram のプログラム（極悪氏が morogram の Windows 用実行ファイル）によって使用頻度の高い文字、2 字から構成される語彙を算出している。

21	<u>在</u>	115	<u>你</u>	113
22	爲	111	<u>大</u>	113
23	保	110	<u>子</u>	112
24	見	108	<u>在</u>	111
25	<u>了</u>	105	好	108
26	<u>去</u>	103	<u>心</u>	100
27	<u>大</u>	102	<u>去</u>	99
28	悲	102	花	99
29	<u>到</u>	99	<u>了</u>	97
30	官	98	<u>上</u>	96
字数	17833		19438	

【表2 「双状元宝卷」「双英宝卷」で使用頻度の高い2字熟語（上位30語）】

	双状元		双英	
1	<u>状元</u>	69	小姐	105
2	嬌娘	62	相爺	54
3	<u>夫人</u>	54	應文	51
4	今日	45	<u>夫人</u>	49
5	母親	45	相公	44
6	孩兒	44	姑娘	39
7	母子	40	新來	37
8	大人	39	丫環	36
9	天保	38	完英	32
10	親生	38	世子	29
11	我兒	36	曉得	29
12	老爺	33	大姐	28
13	官人	32	小生	27
14	素珍	32	嫂嫂	26
15	萬歲	30	沈標	26
16	<u>不表</u>	29	來者	25
17	兒子	29	七位	24
18	未知	27	<u>不表</u>	24
19	如此	26	<u>媽媽</u>	24
20	<u>媽媽</u>	26	<u>状元</u>	23
21	張媽	26	看潮	23



22	爹爹	26	終身	23
23	先生	25	阿伯	23
24	王爺	25	來到	22
25	老夫	25	花園	21
26	一個	24	姣英	20
27	保佑	24	書童	20
28	瑞祥	24	起者	20
29	娘親	23	梅花	19
30	老身	23	阿囡	19
字数	17833		19438	

単漢字、熟語それぞれ「双英」と「双状元」で共通するものに下線を付している。また、「七位」のような数詞+量詞である程度固定化された組みあわせや、「來到」のような動詞+補語もランクから除外しなかった。

単漢字では上位 30 字のうち、19 字が共通しており、使っている字からだけ見ればこの両者はかなり似たタイプの作品と言える。「我」「你」などの人称代名詞や、「一」、「人」、「不」（呉語の作品では「勿」）が上位に来るのは、他のジャンルの作品にも見られる普遍的な傾向である。「双英」で、「相」、「小」、「生」、「姐」、「丫」が上位にランクしているのは、これらが役柄を示す記号がわりに多用されていたということも関係しているが、一方でこれらの役柄のせりふや登場場面がいかに多かったかということも表している。

また、「双状元」では「娘」193 回、「親」137 回、「母」118 回など母子関係に関わる字が多用されたのに対し、「双英」では「娘」は 61 回、「親」は 37 回、「母」に至っては 13 回と少なくなっている。ただ、それに代わるものとして「媽」が専ら熟語で 52 回使われているが、それでも「双状元」には遠く及ばない。

続けて熟語のほうを見てみると、「双状元」、「双英」で共通する語彙は、わずかに「夫人」、「不表」、「媽媽」、「状元」の 4 語しかない。これは、バイグラムを調べると、どうしても自称詞や呼びかけ語が上位に来るため、作品の主題が異なれば、当然これらの言葉も変わるために一致する率が低くなるのではないかと考えられる。

さて、この「双英」の語彙の中でいくつか気付いたことを指摘しておく。

・ 状元のタイトルはおまけ

「双状元」では「状元」の使用回数がトップの 69 回なのに対し、「双英」ではその三分の一の 23 回と少ない。これは、「双状元」では科挙に及第して母親を救うというのが一つのテーマであり、二人の息子が状元になるということもあって、使用回数が出たのであろう。それに対して、「双英」では、主人公はもともと天界の神仙であり、最終的な目標は仏道修行を通じて天界復帰を果たすことであるため、状元に「双状元」ほどはウエイトを置かなかったのであろう。

・ 主役はお嬢さん？

「双状元」で最も使われた語彙が「状元」であり、それがその作品のテーマの一つを表しているのだとすると、「双英」で最も多用されたのは「小姐」であり、「双英」のテーマは駱姣英を軸とした結婚、恋愛問題ということになる。「双状元」ではランクインしない「終身」（夫婦の間柄）という語彙が繰り返し用いられているという事実も、この推定を裏付けてくれる。もっとも、男性の主人公王応文は立場によって自称詞や呼びかけ語が、「小生」、「相公」、「新來」、「応文」、「状元」、「下官」などめまぐるしく変わっており、やはり本当の主役は彼だという見方ももちろん可能である。

・父と母

「双英」では、駱首相を指す「相爺」が2番目に多く用いられているのに対し、「双状元」では、「嬌娘」が第2位にランクされているという事実はなかなか興味深い。

「双英」では、主役級の三人のうち、王応文、駱姣英ともに母を亡くしており、明るいキャラクターの楊媽媽を除けば母の影は薄い。その分、娘の縁談の問題で父親が矢面に立ち、悩みを抱えながらいくつもの問題を処理するため、このように頻度が高いのであろう。

・場面の切り替え

両者ともに多用される語彙に「不表」があり、これは場面を切り替える際に使われる言葉で、たいていは「再表」「提表」などと呼応関係を構成する。この特徴は、江蘇の靖江宝巻などにもよく見られるという<sup>2</sup>。

「双英」では、「不表」以外に、「慢表」も使われるので、この二つの語彙と呼応関係をなす言葉を表に整理してみる。

【表3 「双英宝巻」に見える「不表」「慢表」の呼応関係】

	不表	慢表
再表	9	4
提表	6	0
要表	2	2
另表	2	0
另有	2	0
無	3	1
	24	7

これにより、「不表」「慢表」を使って非常にパターン化されたやり方で、「双英」では少なく見積もっても32の場面が作り出されていることがわかる。「双英」は全篇で2万字弱であるから、およそ600字ごとに場面の転換がある計算になる。また、これを時間で考えると、紹興の宣巻はおよそ3時間で一種類の作品を唱っているので、毎分100字強のペースで、ほぼ6分ごとに違う場面が変わっていくことになる。演劇と違って宣巻はパフォーマンスが全くといっていいほど無く、視覚的刺激に乏しいため、聴衆（読者）を飽きさせないという意味でも、高速の場面転換は非常に効果的と言えよう。

<sup>2</sup> 陸永峰、車錫倫共著『靖江宝巻研究』第6章「靖江宝巻的口頭文学特徴（一）」「2. 切

#### 4. 「双英宝巻」の物語構造

「双英」の物語がどのようにして作り出されたのかを考える前に、この物語の内容を時系列に沿って場所と登場人物について整理してみよう。

【表4 「双英宝巻」のタイムテーブル】

		寧波	晋江	晋江(楊家)	晋江(駱府)	潼関	京城
1	開場	王応文、王徳					
2	観潮遇難	王応文、王興、潮神、夜叉					
3	救命		阿二、阿三				
4	問路		王応文、老人				
5	盗衣		白望光				
6	救難			楊天標、王応文、楊媽媽、楊完英			
7	求婚			王応文、楊完英			
8	遺棄			楊天標			
9	漂泊			王応文、楊完英			
10	擔憂				駱賓、侍女		
11	悲嘆				駱姣英、嫂、侍女		
12	開顔				駱姣英、侍女、王応文		
13	留仕				駱賓、王応文		
14	引見				嫂、駱姣英、王応文、侍女		
15	圖謀					沈栄、沈標	
16	下榻		沈標、奴僕				
17	接信				駱賓		
18	逼婚		沈標、駱賓				
19	借戒				駱姣英、王応文、		
20	受驚				侍女、王応文、駱姣英		
21	討戒				王応文、駱姣英		
22	認姪				駱賓、王応文		
23	自尽				駱姣英、嫂、侍女		
24	私訪				沈標		
25	喬装				侍女		
26	帰潼				沈標、奴僕		
27	写退書					沈栄、沈標	
28	退婚				家将、駱賓、嫂		
29	質問				駱姣英、楊完		

換套語」 pp155-158 参照。

					英、嫂、侍女		
30	朝議						皇帝、沈榮、駱賓、黒元帥
31	進府				駱賓、楊天標、楊媽媽		
32	考場						王応文、吉天祥、拳子
33	見駕						皇帝、王応文
34	回府	王応文、王徳					
35	還願	王応文、鄭知県					
36	婚礼	王応文、駱姣英、楊完英、駱賓、楊天標、楊媽媽、債相					
37	生子女	王応文、駱姣英、楊完英					
38	求道致仕	王応文、駱姣英、楊完英					
39	同帰原位	太白金星、王応文、駱姣英、楊完英					
40	団円	王徳		楊天標、楊媽媽	駱賓	沈榮、沈標	王公子

この物語の時代は、唐永徽年間（650年～655年 高宗）に設定されている。主人公の王応文は天界の文曲星が寧波府定海県の首相王廷貴の息子に生まれ変わったことになっている。

王応文の物語の中での動きを見てみると、2の「観潮遇難」で故郷寧波を離れ、22の「認姪」までは、福建省泉州府晋江県の各地を放浪しながら辛酸をなめることになる。そしてそのあとは一旦、物語から姿を消し、32の「考場」において再び都に登場し、34、35で故郷寧波に錦を飾ったあと、元月宮の仙女であった駱姣英、楊完英と結婚する。

王応文が晋江県に流されたのは、観潮のときに潮神を冒瀆したためであり、その罪を償うためにこのように苦難の旅をしなければならなかった（だからこそ35の「還願」の段が存在する）訳であるが、そもそも彼と赤い糸でむずばれていた二人の女性が晋江県にいるために、彼女たちと邂逅するための必然的な流浪の旅であったとも言えよう。

そして王応文とともに重要な役割を果たすのが、駱姣英と楊完英である。王応文が出てこない場面は、沈榮父子を除けば、彼女たちがスポットを浴びる場面が多い<sup>3</sup>。

裕福な名家に育った駱姣英は、かえってそのために皇帝が決めた不幸な婚約によって苦しみ、自殺を図るまで追いつめられる。一方、楊完英は庶民の家の娘として生まれ変わったために、駱姣英とは別の苦しみを味わう。

物語には書き込まれていないが、これらの試練は彼女たちが文曲星とともに下凡するに際して犯した罪と関わりがあり、贖罪の意味もあるのかもしれない。

<sup>3</sup> 南戯の大多数の作品が「一生一旦」であり、生と旦がおのこの主役として複線的に語りの構造を作り出していることを想起させられる。郭英徳著『明清伝奇戯曲文体研究』第6章「開放與内斂 - 明清伝奇戯曲の叙事方式（下）」p294 参照。

通常の才子佳人小説であれば、37で子宝にも恵まれてめでたしめでたしなのであるが、あらかじめ「天仙下凡」という設定になっているため、引き続き39で彼らが帰天する場面で用意される。また40の「団円」は蛇足の感が否めないが、宗教芸能である「宝巻」という性格上、みなが仏の道に帰依し成仏するという予定調和の上に物語全体が成り立っているととも考えられる。

さて、この「双英」の物語は何か別の作品に拠って改作されたものなのであろうか。

まず考えられるのは、周縁にある他の演劇や講唱芸能から物語が移植された可能性である。

講唱芸能については、譚正璧、譚尋『弾詞叙録』（上海古籍出版社、1981）、譚正璧、譚尋『木魚歌、潮州歌冊叙録』（書目文献出版者、1982）、譚正璧、譚尋『評彈通考』（中国曲芸出版社、1985）、李豫等編著『中国鼓詞綜目』（山西古籍出版社、2006）、盛志梅『清代彈詞研究』（齊魯書社、2008）などにこれと同名、同内容の作品は著録されていない。

演劇では越劇との関連が容易に予想されるところであるが、趙潔編『新編越劇小戯考』（上海文芸出版社、2003）、銭宏主編『中国越劇大典』（浙江文芸出版社、浙江文芸音像出版社、2006）にも「梅花戒」は収録されていない。ところが、不思議なことに「梅花戒」と題する越劇は存在しており、VCD（浙江音像出版社発行）も発売されている。

それによれば、越劇「梅花戒」の梗概は以下のようである。

貧乏書生の陸国章と武生の周孔通は挙試のため上京するが、宿を取りはぐれ、施家荘の花園でそれぞれ休むことになる。その花園で陸国章と施家の千金、施秀英は出会い、お互いに一目ぼれして、将来を誓い合い、施秀英は陸国章に三百銀両と梅花戒を贈り、侍女に命じて陸国章を案内させ花園から送り出す。周孔通はこの話を暗闇で立ち聞きし、機を見て施秀英の操を汚す。

数ヶ月後、陸国章は状元に及第し、施家に求婚にやってくるが、秀英が身ごもっているのを見て、彼女がすでに別の人に嫁いだと勘違いし、梅花戒を返して去る。秀英は泣きたくても声も出せず、潔白を表すために血書をしたため、梅花戒を呑み込んで死ぬ。侍女の秋江は陸に真相を告げ、陸は血書を読んで後悔するも及ばず、周孔通を捉え法に照らして処し、秀英のために恨みを雪いだ。

「一見鍾情」あり、「姦汚」あり、「雪冤」ありと越劇らしい生々しい作品であるが、残念ながら「双英」や「梅花戒」とは同名異物であり、「双英」に関しては越劇と宝巻との間に直接的な継承関係はないと断じてよからうと思う。

## 5. 「双英宝巻」の地域性

では、結局「双英」はどこで作られたのであろうか。筆者は「双英」の中の次の3点に注目したい。

### 1) 潮神廟（殿） - 寧波、泉州、杭州を結ぶもの

王応文が潮神の怒りを買って、夜叉に風で「江」に落とされ、福建泉州府晋江県に流されることから物語が展開していくことはすでに何度も述べた通りであるが、ではこの潮神廟

とはどこにあるのであろうか？

「我在寧波把潮看，因何來到福建城」（王応文）と唱われ、また、王応文が登科後、寧波府定海県の鄭知県に潮神廟を修理するよう要請しているため、作品の中では寧波にある廟と理解してよいであろう。

一方、「梅花戒」ではこの「我在寧波把潮看」句がなく、また「潮神廟」に「八月十八」、「觀潮」と来れば、杭州錢塘江の觀潮と杭州の東北にある鹽官鎮の海神廟が有名であり、澤田瑞穂博士がこれを杭州にあるものと考えたのはあながち間違いとも言えない<sup>4</sup>。

筆者が想像するに、これは作者や読者、視聴者の中で寧波と杭州の潮神（海神）廟の残像が重なり合ってしまったためではないかと考える。

寧波府定海県の海神廟についてはまだ確認できていないが、寧波の海神廟ではなんと言っても、媽祖が有名である。黄漸蘇氏<sup>5</sup>に拠れば、宋の紹熙2年（1191）、すなわち媽祖が「妃」に昇格した翌年、福建の船主、沈法詢が明州（寧波）に最初の天妃宮を建てた（遺跡はいまの市内の華聯商厦の南側にある）。浙東地区の大多数の天后宮はみなこの時期（康熙乾隆）に創建されたもので、寧波市だけでも大小40の媽祖廟があるという。また、錢路氏<sup>6</sup>に拠れば、媽祖文化と寧波とのつながりについて、当時、次第に陸路から海上交通にシフトしていくなかで、気象条件などコントロールできないことが多い海路への恐怖心から、福建莆田発祥の外来の神「媽祖」に頼るようになったのだと説明する。

王応文が福建泉州府に流された理由を考えると、潮神の怒りに触れて媽祖信仰の伝播ルートを逆戻りし媽祖の故郷（より厳密に言えば泉州府晋江县ではなく興化府莆田県）へ流されたのだと見れば辻褄があう。

しかしながら、澤田博士も杭州の廟と考えられたように、寧波で「觀潮」とは到底考えにくい。杭州湾の奥で、かつ錢塘江河口という地理的な条件がそろっているからこそ、昔から「觀潮」の名所だったのであり、「双英」の潮神殿は間違いなく海寧の海神廟をイメージしたものと見てよからう。海寧の潮神として祭られているのは、伍子胥である。錢塘江の怒濤は伍子胥が巻き起こすという伝説があり、夜叉に命じて波に王応文をさらわせる潮神のイメージは伍子胥とぴったりである。

寧波 - 泉州と、寧波 - 杭州が媽祖と伍子胥という二人の海神（潮神）と觀潮を通じて結びつき、それが多少混乱を生みつつも、この物語の大きな枠組みを形成しているのではないか。

## 2) 楊媽媽の出身地

「双英」の中で具体的に三個所の地名が出てくる。二つはすでに論じてきた浙江寧波府定海県と福建泉州府晋江县であるが、もう一つは、「浙江紹興府山陰県」である。これは、「討之一個家主婆，乃是浙江紹興府山陰縣人氏」（妻を一人娶ったのですが、それが浙江紹興府山陰県の出で……）とあり、楊完英の母、楊媽媽の出身地とされる。なぜ、ここで

<sup>4</sup> 澤田瑞穂著『増補寶巻の研究』第2部宝巻提要「梅花戒宝巻」p195参照。

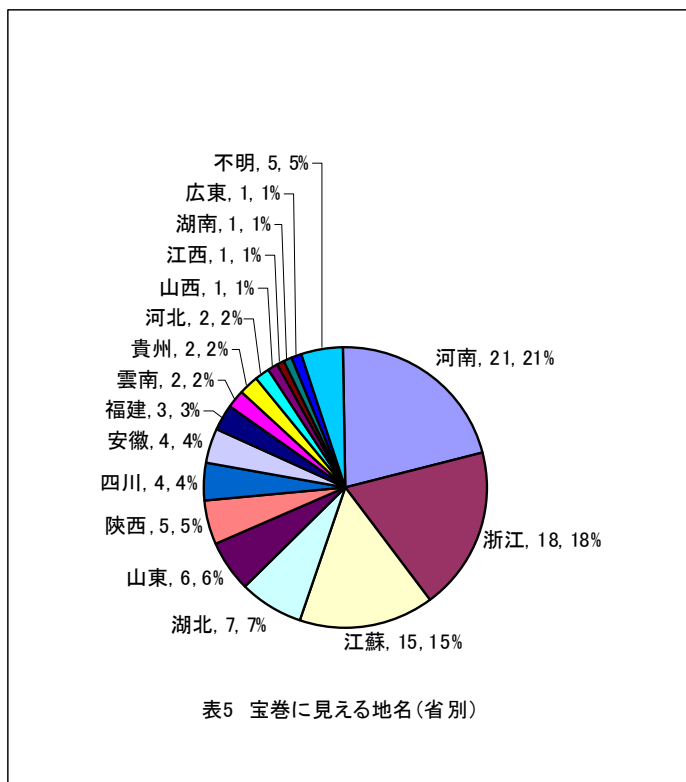
<sup>5</sup> 黄漸蘇「從慶安會館看清中期媽祖文化地域化的演進」（『浙東文化』第2輯，上海古籍出版社）所収，pp503-504参照。

<sup>6</sup> 錢路「慶安會館世媽祖文化」（許勤彪主編『寧波歷史文化二十六講』寧波出版社，2005）所収，p262参照。

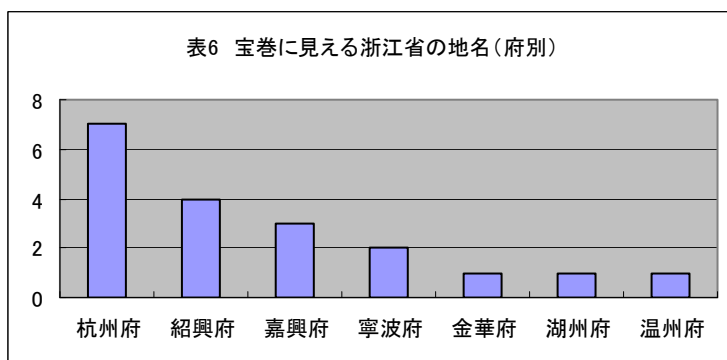
突然、紹興府山陰県という地名を持ち出す必然性があるのだろうか。

そこで、宝巻の作品中にどれくらい具体的な地名が登場するのかを確かめるため、試みに澤田博士の『増補寶巻の研究』の宝巻提要を基に、中国の具体的な地名が記されている82種類の作品について、出てくる地名を省別に整理したものが以下の表5である。提要には作品に見える地名が全て記されているとは限らず、不完全な統計ではあるが、おおまかな傾向を把握するには十分と考える。

これを見ると、浙江の地名が出てくる宝巻は全部で18作あり、出てくる地名は19、これは地名の総数の約18%に相当し、省別では河南に次ぐ第2位である。河南が首位を占めるのは東京（開封）を舞台とする宝巻が多いためであるが、そのなかで江蘇を抑え、2位となっている事実は目を引く。



浙江の地名をさらに府別に分類したのが以下の表6である。



これらのうち、さらに寧波と紹興に絞って詳しく見てみることにする。

寧波が多少関係してくる作品は、この「双英」( = 「梅花戒」 ) 以外には、普陀山が出てくる「普陀宝巻」しかない。普陀山はもちろん仏教の聖地であるが、宝巻の中では特別な象徴ではなかったようである。

一方、紹興がからむ作品としては、「双英」を除けば以下の通りである。

1. 「烏窩禅師度白侍郎回心向善修行帰西(白侍郎宝巻)」 紹興府李長者が登場。
2. 「英台宝巻」 梁山伯の出身地が紹興府諸暨県(祝英台は越洲会稽杏花村出身)。
3. 「歡喜宝巻」 紹興顕聖寺湛然和尚は実在の人物(澤田瑞穂)。
4. 「百花台宝巻」 紹興府山陰県の莫桂が登場。

典型的な物語宝巻である「英台宝巻」や、弾詞に基づくと推定される「百花台宝巻」は、特に「紹興」ということに特別な意味を付与している訳ではないかもしれない。

しかしながら、1の「白侍郎宝巻」では羅漢の提那が紹興府李長者に「投胎」するという設定であり、また澤田博士が考証するように烏窠道林禅師が杭州秦望山の松の上に棲んだことが『景德伝燈録』巻4に見えることから、仏教の盛んなこの地名をあえて出したのに違いない。3の「歡喜宝巻」においても、陳善という漁夫が紹興で修行し、かつ紹興顕聖寺の明末に実在した人物、湛然和尚に師事したことになっており、ここでも紹興は仏教との関わりを示唆していると考えられる。

楊媽媽は最後には、「楊天標夫婦，見兒婿們修行，也覺回心轉意，同修佛道，壽數已盡，無疾歸天。」という結末を迎える。この「双英」が紹興で成立したのだとすれば、紹興の婦人たちに仏教の功德を説く際、楊媽媽の物語は共感を以て受け止められたことであろう。

### 3) 鳳陽婆

鳳陽婆とは、鳳陽花鼓という楽器を用いる女性の遊芸人を指す。鳳陽花鼓は同時に芸能のジャンル名でもあり、安徽鳳陽に由来するものと言われ、女性が花鼓、男性が小鑼をもち、民間小曲を歌いながら物乞いをする。

蔡湘江氏の研究<sup>7</sup>に拠れば、「《打花鼓》は泉州鯉城、晉江、南安、德化などの地に流行し、宋代に北方の移民が泉州にもたらしたものと伝えられる。《打花鼓》と北方の《鳳陽花鼓》は演技についてはだいたい同じものである。」とある。これによれば、北方の移民によって泉州にもたらされたものが鳳陽花鼓であるとは書いていないが、演技が同じものであるので、似通った芸能と見てよいであろう。

「双英」では、女物の服を着た王応文は、楊天標から「鳳陽婆」扱いされ、虎の出る山に棄てられる。外地からやって来た遊芸人がまともな扱いを受けていなかったことが推し量られるのと同時に、泉州と安徽など北方との芸能を通じた交流を伺い知ることができ、興味深い。

## 6. 結びにかえて

以上、「双英」をめぐる諸問題について論じてきたが、「双英」を神々の物語として見た場合、文曲星たちが地上に流されて試練を味わい、最後には天に帰るという構造を持って

<sup>7</sup> 蔡湘江著『泉州民間舞蹈』(福建人民出版社, 2006)「打花鼓」p159 参照。



おり、神話や民間伝説、そして宝巻などでもお馴染みのパターンと言えよう<sup>8</sup>。最後に太白金星が登場するのも、「双英」「双状元」や多くの宝巻に共通するお約束である。

また、「双英」から人間、特に若い男女の愛情をめぐる物語を読み取ることも可能である。明清の伝奇の中で「風情類」と分類される作品群について、田仲一成氏は「男女の愛情を主題とした戯曲。このテーマは普遍的なもので、特に平素、忍従を強いられている宗族社会の女性観客の間において、もっとも人気の高いものであった。」と男女の愛を主題とする作品群が女性たちの支持を得ていたことを指摘するが<sup>9</sup>、「双英」もこの「風情類」の性格をそなえている。

「双英」がいったいどのように作られたのかについてはまだ明らかにし得ていないが、主人公の死（自死、仮死）と蘇生、主人公が状元になる結末、仏道修行に励んで帰天する話、一夫多婦の団円などの話柄は多くの宝巻に見られ、これらの基本的な要素をどこからか借用してきたのであろう。主人公が奴僕に身をやつし、ヒロインと出会う話も「沈香扇宝巻」や「双珠鳳宝巻」などに見えることから、やはり他の作品から趣向を借りてきた可能性もある。

しかし、仏法を説く宝巻でありながら、潮神信仰を背景とする物語の展開は異彩を放っており、もともと（どこの地域のという問題はさておいて）潮神廟という民間信仰の磁力が作用する場で生み出されたものだったかもしれない。（完）

---

<sup>8</sup> 靖江宝巻では、神仙の物語は、神仙下凡 - 修行 - 証道 - 顕聖という流れを辿り、神仙と彼らの法術はの中で情節を動かす重要な要素であるという指摘がある。注2 前掲書 pp160-183 参照。

<sup>9</sup> 田仲一成著『明清の戯曲』第6章「社祭演劇における宗族の戯曲選好」第5節「風情類」 pp223-224 参照。

# 雙英卷 上本

上田 望 施 凱盛 林 志英 校訂

雙英寶卷初展開 恭請神聖降壇前

善男信女虔誠聽 增福延壽永無災

恭聞雙英寶卷名曰梅花戒，出在大唐永徽年間，提表浙江省，寧波府，定海縣，卻說一人。**生**<sup>1</sup> 小生姓王名應文，在年二八，父親廷貴，在日官居首相，母親張氏，誥受皇封，不幸雙親去世，單生<sup>2</sup>小生一人，幸喜身入黌門<sup>3</sup>，這也不在話下，且喜家財豪實、田園廣闊，小生立志攻書，不能上達，心中煩悶，想今日那是八月十八大潮日期，不免去到江邊看潮一回，待我與王德說明而去，王德哪<sup>4</sup>裏？**外** 來了。忽聽相公叫，上前問分曉，相公在上，老奴叩頭。**生** 起來。**外** 叫老奴出來有何吩咐？**生** 叫你出來非爲別事，今日大潮日期，我意欲要到江邊看潮一回。**外** 嚇，相公，本該不去才好，想相公未曾見過潮水，況且終<sup>5</sup>日愁悶書房，就去看看倒<sup>6</sup>也使得，須要早去早回，以

---

<sup>1</sup>角色符號，均係原有，非校注者所加。

<sup>2</sup>“生”字，似有誤。石印本『繪圖梅花戒寶卷』（古屋明弘、氷上正、王福堂共編『梅花戒寶卷』、中國古籍文化研究所單刊 3，中國古籍文化研究所，2004，以下簡稱石印本）（第 1 頁）云：“單留小生一人”。

<sup>3</sup>黌門，學校也。原寫作“洪門”，同音而誤。石印本作“身入黌門”，今正。

<sup>4</sup>“哪”，原寫作“那”，今正，下同。

<sup>5</sup>“終”，原寫作“總”。石印本作“終”，今正。

<sup>6</sup>“倒”，原寫作“到”，以意正。

免老奴在家懸念。 生 這個自然，王興隨我往江邊一走。 淨<sup>7</sup> 嘔，曉得者。

生 應文移步出門庭 興 王興書童隨後跟

生 路上行人多熱鬧 人挨人擠鬧盈盈

老人扶杖緩緩走 年少力壯向前行

不覺來到大江邊 興 書童啓口把話論

喂，相公，江邊到者，看潮時辰還勿到，偌<sup>8</sup>到潮神殿<sup>9</sup>去遊玩遊玩，

才話<sup>10</sup>潮頭起來者，我會來嘔<sup>11</sup>偌個。 生 如此你在此等候，我到廟

內去遊玩一番便了。 興 嘔。

生 應文進了潮神殿 只聽男女許多言

觀看神前多供奉 人人許願與求籤<sup>12</sup>

潮神菩薩何靈感<sup>13</sup> 盡是泥塑木雕全<sup>14</sup>

內中必定有緣故<sup>15</sup> 請出廟祝問原因

廟祝哪裏？ 什 來者來者，相公叫貧道出來有何吩咐？ 生 我來問

你，潮殿大王有何靈驗，百姓們因何如此誠敬？ 什 啓稟相公，潮神

大王十分靈驗，求男得男，求女得女，故而善男信女都來叩求許願<sup>16</sup>。

---

<sup>7</sup> “淨”，原寫作“𦉳”，以意正。下同。淨，按下文疑當作“興”。

<sup>8</sup> 偌，第二人稱，指你。紹興方言。或作諾。紹興越城地區第二人稱一百多年不斷變化。請參看吳子慧《吳越文化視野中的紹興方言研究》（浙江大學出版社，2007年，以下簡稱《紹興方言研究》）第70頁。

<sup>9</sup> “殿”，原寫作“戾”，以意正。下同。

<sup>10</sup> 才話，如果。吳方言。

<sup>11</sup> 嘔，動詞。叫，喊。

<sup>12</sup> “籤”，原寫作“𦉳”，今正。

<sup>13</sup> “感”，原寫作“恁”，今正。

<sup>14</sup> “全”字，疑有誤。石印本作“裝”（第1頁）。

<sup>15</sup> “故”，原寫作“古恁”，以意正。下同。

<sup>16</sup> “願”，原寫作“戾”，今正。下同。

生 有這等事來？嗚，可惱可惱，想神明也貪人願，非是真神也。

應文聽說氣咆哮 兩太陽中火直冒

官府貪賊<sup>17</sup>該有罪 何況神聖掌天曹

小生有日功名就 就將此事奏當朝

管叫泥身來拆毀 又將大殿火來燒

正在廟中重重<sup>18</sup>怒 興 王興書童叫看潮

喂，相公，潮來者快，看潮起<sup>19</sup>者。生 邪神嚇邪神，待我看潮以後，

再來訓誨與你。興 噲，相公，伊是<sup>20</sup>泥塑木雕個，罵他也是無用個。

生 吶，狗才多講，我們看潮去吧。興 嘔，曉得。

生 主僕雙雙出廟門 觀看潮頭密<sup>21</sup>層層

不表應文看潮事 提表神聖顯威靈

手執生死簿，坐起攝魂臺，兼理民間事，執掌我為先，吾乃潮神是也。

奉玉帝勅旨，執掌三界，上管風雲雷雨，中察水府神祇，下詢民間禍

福，夫妻姻緣，這也不在話下，今有王應文在吾殿下，褻瀆吾神，實

在<sup>22</sup>可惱<sup>23</sup>，若不顯聖，他哪曉得吾神靈驗，嚇，想王應文乃是文曲星

君下凡，他的姻緣落在福建泉州府，不免喚出夜叉，夜叉何在？鬼

在。神 今有王應<sup>24</sup>文乃是文曲星下凡，你將他隨潮帶到福建泉州府

<sup>17</sup> “賊”字，原寫作“桩”。石印本作“賊”（第2頁），今正。

<sup>18</sup> “重重”，疑有誤。石印本作“冲冲”（第2頁）。

<sup>19</sup> “起”字，疑當作“去”，按吳方言中“去”與“起”同音，不分處頗多。

<sup>20</sup> “是”，原寫作“實”，今正。石印本作“他乃是個”（第2頁）。因“實”“是”音近而誤。

<sup>21</sup> “密”，原寫作“蜜”，今正。

<sup>22</sup> “在”，原寫作“才”。吳方言“才”與“在”同音，今正。

<sup>23</sup> “惱”，原寫作“腦”，今正。下同。

<sup>24</sup> “應”，原寫作“英”，同音而誤，今正。下同。

晉江縣地界，身落沙灘，不准傷他性命，速來復旨。鬼領<sup>25</sup>法旨。

慢<sup>26</sup>表潮神安<sup>27</sup>排定 生 再表書生王應文

站立江邊來觀看 遠望潮頭白如銀<sup>28</sup>

鬼 夜叉一陣狂風起 將他吹落江中心

生 應文身在波浪內 隨波逐流不知情

興 王興唬得魂飛散 救命救命叫連聲

嚇勿<sup>29</sup>好者，嚇勿好者，岸上衆位叔叔伯伯噲，我裏相公翻<sup>30</sup>落海裏者，被潮水尪<sup>31</sup>得起者，求求衆位大叔救救，若還救起重重有賞。衆吓，介<sup>32</sup>個大江之中，海浪滔滔，如何救得，救勿起個，救勿起個。興嚇，相公噯，嚇，相公噯，嚇，且住，想我在此啼也是枉然，還是報與王伯知道便了。

王興啼哭轉<sup>33</sup>回程<sup>34</sup> 報與王伯伯得知情

一徑<sup>35</sup>來到府門者 王伯伯王伯伯叫連聲

王伯伯，王伯伯，勿好者，勿好者。外 爲何？興 相公看潮被潮水尪得起者。外 你待怎講。興 相公被潮水尪得起者。外 當真<sup>36</sup>？

興 當真。外 果然？興 果然。外 嚇啲！興 王伯伯蘇醒蘇醒。

<sup>25</sup> “領”，原寫作“令”。石印本作“領法旨”（第2頁），今正。

<sup>26</sup> “慢”，原寫作“曼”。石印本作“慢表潮神安排定”（第2頁），今正。下同。

<sup>27</sup> “安”，原寫作“按”。石印本作“慢表潮神安排定”（第2頁），今正。下同。

<sup>28</sup> “銀”，原寫作“艮”。石印本作“白如銀”（第2頁），今正。下同。

<sup>29</sup> 勿，不。紹興方言。

<sup>30</sup> “翻”，原寫作“番”，今正。

<sup>31</sup> 尪，紹興的俗字。人、物浮在水上，或人、物被大水沖走。（《紹興方言研究》第272頁）。

<sup>32</sup> 介，指代詞，這麼。紹興方言。

<sup>33</sup> “占”，義不通。石印本作“轉”（第2頁），今正。紹興方言中“占”與“轉”音同，疑爲方便而用“占”字。下同。

<sup>34</sup> “程”，原寫作“呈”，今正。下同。

<sup>35</sup> “徑”，原寫作“經”。石印本作“一徑來到家門首”（第2頁），今正。

<sup>36</sup> “當真”，原寫作“當正”。據石印本正。下同。

外 嚇，

不好了：

聽得此言魂膽驚 相公淹死好傷心

曾記相爺托咐我 叫我撫養小主人

不該今日看潮去 皆因老奴少主心

誰知看潮起禍端 主僕頃刻兩離分

想你王門香火何人接 老奴枉費<sup>37</sup>一片心

思想情由心悲泣 啼啼哭哭叫主人

且住，想我相公身傷<sup>38</sup>潮中，待我去到江邊，收其屍首歸家，王興隨  
我來。 興 嘔。

帶了王興往前行 一路啼哭到江邊

觀看屍首無蹤跡 心中好似滾油煎

相公呀你好好在家攻書讀 乃曉看潮傷黃泉

哭罷無奈回身轉 設立魂牌在廳前

早供茶飯夜供水 孤單寂寞淚連連

不表王德老頭事 鬼 再表夜叉來復旨

進殿報與大王曉 神 潮神大王笑開顏

不表浙江潮神事 二 另表福建捕魚人

一生無活計 三 柯<sup>39</sup>魚當生意 二 但願生意好 三 勿會餓肚皮 二 今

朝潮頭退 三 大家柯魚起 二 大魚柯一條 三 大家笑喜喜

<sup>37</sup> “費”，原寫作“弗”，今正。下同。

<sup>38</sup> “傷”字，俟校。疑當作“喪”，因音同而誤。

<sup>39</sup> “柯”，抓。（《紹興方言研究》第115頁）。石印本云“捕魚做生意”（第3頁）。

二 我叫王阿二。三 我叫王阿三。喂，阿哥，今朝是八月十八大潮<sup>40</sup>汛，潮頭退者，伢<sup>41</sup>柯潮頭魚起者。二 好阿弟讓來扎網，儂起搖船，阿弟對面匯水塘裏有個大漩渦<sup>42</sup>帶<sup>43</sup>，一定有大魚冬<sup>44</sup>，讓我來扎一網，來帶<sup>45</sup>者着力抽起來，喂，阿弟勿對，勿是魚，是個人。三 阿哥甩落起、甩落起。二 阿弟，有句話：“人命關天。”才話好<sup>46</sup>救，救伊活來，能造福萬代，我看伊個人，手裏個脈還來帶跳來，伢不伊沙灘裏起拖起吭<sup>47</sup>。三 嘔，我劃過起。二 伢把伊拖起沙灘，一定爲<sup>48</sup>活個，拖來拖起帶者，伢還是再柯魚起。

不表兄弟兩人柯魚起 生 再表應文來蘇醒

睜開雙目來觀看 猶如夢中一般形

嚇，且住，想我明明在寧波看潮，因何來到沙灘之上？身上盡是咸水泥沙，看那旁有位老人家在此，待我前去問來，前面老丈請了。淨 請了。生 我要借問一聲，此地什麼地方？淨 此地是福建泉州府晉江縣地界，往這裡進去，就是西門了。生 承蒙老丈指教。淨 好說。生 嚇，且住，我明明記得在寧波看潮，因何來到福建地界，這又<sup>49</sup>奇了。

---

<sup>40</sup> “潮”，原寫作“朝”，今正。

<sup>41</sup> 伢，紹興方言。複數第一人稱，己方。即我們。參看楊葳、楊乃浚編著《紹興方言》（國際文化出版公司，2000年，以下簡稱《紹興方言》）第203頁。

<sup>42</sup> “漩渦，原寫作“旋窩”，今正。

<sup>43</sup> 帶，助詞。紹興方言。

<sup>44</sup> 冬，猶寫咚，用於句末作語氣助詞。有時與“哉”連用。（《紹興方言》第21頁）

<sup>45</sup> 來帶，這裡。紹興方言。（《紹興方言》第21頁）

<sup>46</sup> 好，可以，能。吳方言。參看吳連生等編著《吳方言詞典》（漢語大詞典出版社，1995年）第191頁。

<sup>47</sup> 吭，待考。根據整句話的意思，應該爲句末語氣詞，發音爲“杭”，表示徵求對方意見。

<sup>48</sup> “爲”字，似當作“會”，因音同而誤。待校。

<sup>49</sup> “又”，原寫作“有”，今正。

我在寧波把潮看 因何來到福建城

莫非我把潮神罵 難道神聖顯威靈

將我滾到泉州地 神聖護佑命留存

雙膝跪在塵埃地 深深四拜告神明

保佑弟子回家轉 重修廟宇佛裝金

且住，想我身上盡是咸水泥沙，看前面有條清水小河，看四下無人，待我將衣衫脫下，趁着紅日當空，將衣衫曬在橋上，等到曬燥，穿着再走，待我來脫下衣衫便了。

應文即便脫衣衿 曬在橋邊去洗身

不表應文來洗身 白 卷中另有不良人

我做偷兒本事高，剪綵挖包勿用刀，偷來銀<sup>50</sup>子撒在腰，吃酒吃肉勿匯鈔、勿匯鈔，自家非別，白望光便是，想我爹娘遺落帶家當嘍<sup>51</sup>有勿少，被我今朝賭，明朝嫖，弄得滑禿精光<sup>52</sup>，昨日子又輸得一票，我終<sup>53</sup>究起<sup>54</sup>弄些生意來個，好做反賭本錢，咦，望帶過起，萬年橋高頭<sup>55</sup>，有簇嶄全新<sup>56</sup>衣裳曬帶，一定是老天爺菩薩道我銀子輸光者，來不<sup>57</sup>我做賭本個，仰<sup>58</sup>我走帶過起，拿得伊來是者。王 嚇，妙呀，好清水，好快活。白 嘻，葛息辰光<sup>59</sup>，偌倒<sup>60</sup>快活。停息要不<sup>61</sup>偌勿

<sup>50</sup> “銀”，原寫作“良”，今正。

<sup>51</sup> “嘍”，待考。疑當寫作“也”。吳方言中，表示“也”字意思的有兩種發音，一與“野”同，另一則與“鞋”字音同，疑因此用此俗字，以示發音。

<sup>52</sup> 滑禿精光，石印本作“滑撻精光”。石印本注云(第4頁)：“一點兒也不剩下”。

<sup>53</sup> “終”，原寫作“總”，今正。下同。

<sup>54</sup> 起，去。

<sup>55</sup> 高頭，上面。

<sup>56</sup> 簇嶄全新，俗語。非常新。(《吳方言詞典》第586頁)。

<sup>57</sup> 不，與“撥”同，介詞，給，吳方言。

<sup>58</sup> 仰，石印本注云：“仰，讓”。

<sup>59</sup> “葛息辰光”，石印本作“介个時光”，石印本注云(第4頁)：“這樣的時候”。



快活者。生 岸上你位仁兄，這套衣服是我的，你勿要動它，曬燥我要穿的。白 佢好穿，我也好穿個。生 你莫非是賊？白 賊倒勿是<sup>62</sup>賊，不過是個三隻手<sup>63</sup>，我戲賭輸極者，問佢借借，做做賭本，贏來還佢是者。生 嚇不好了。

白 佢落<sup>64</sup>勿好，我落曼<sup>65</sup>好，我挖<sup>66</sup>得起末是者<sup>67</sup>？

望光挖衣喜歡欣 走到賭場來反本

不表望光賭場事 生 再表應文好傷情

可恨賊子傷良心 害得我出身露体難見人

只見前面有河埠 速速前去求救星

不表應文河埠浸 天 另表天標當場人

門前高掛三尺布，飄來飄起招顧主，舊年做得十缸酒<sup>68</sup>，倒有九缸酸如醋，自家非別，楊天標便是。一向住在福建泉州府晉江縣，討之<sup>69</sup>一個家主婆，乃是浙江紹興府山陰縣人氏，夫妻倆<sup>70</sup>介頭<sup>71</sup>指望生個白白胖胖倪子，大起來好替我做做廚房、跑跑店堂，乃<sup>72</sup>曉得介主婆肚皮勿漲氣<sup>73</sup>，生得個囡片片<sup>74</sup>，我想太人家生個囡倒勿要緊，啲<sup>75</sup>總經

---

<sup>60</sup> “倒”，原寫作“到”，今正。

<sup>61</sup> 不，與“撥”同。

<sup>62</sup> “是”，原寫作“實”，今正。

<sup>63</sup> 三隻手。猶云充手。指扒手。紹興方言。

<sup>64</sup> 落，語氣助詞，用來舒緩語氣，引出下文。此句意為：你呢，不好，我呢，蠻好的。

<sup>65</sup> “曼”應作“滿”，或作“蠻”。待考。

<sup>66</sup> 挖，拿。

<sup>67</sup> 是者，與“是哉”同，句末語氣詞。

<sup>68</sup> “酒”，原寫作“汎”，今正。

<sup>69</sup> 之，石印本注云(第5頁)：“之，了”。

<sup>70</sup> “倆”，原寫作“兩”，今正。

<sup>71</sup> 倆(兩)介頭，兩個，尤指關係親密者。

<sup>72</sup> 乃，哪兒。紹興方言。

<sup>73</sup> 漲氣，爭氣。音同而用別字。

<sup>74</sup> 囡片片，對女孩子的蔑稱。

濟人我生個因，直腳完者，所以我不佻阿因取名叫阿完，我在駱相府隔壁開爿<sup>76</sup>飯堂，生意倒也勿息<sup>77</sup>，相府有七位少爺在京裏做官，家裏有七位少夫人，還有一位小姐，常來遊玩花園，我個家主婆嘴口生得活動，問長問短，一走二走相府挖來走熟者，葛位小姐見咁阿因有幾分齊正，留在相府陪伴陪伴，問咁阿因有多少年紀，叫啥<sup>78</sup>個名字？咁阿因話，叫阿完，今年有十六歲者，小姐話者，大姑娘叫阿完，難聽個，小姐話，完字下底加個英字，嘔起就好聽者，小姐話我個名字叫姣英，嘍兩個都是<sup>79</sup>英，變成雙英，不如結拜姐妹，同小姐同吃同住，同學針線，外加同學文章，我裏阿因前日子居來者，駱小姐送伊滿房擺設，樣樣齊全，真真有緣，看得咁阿因也斯文一脈者，人品生得越加漂亮者，究得人家還勿許，媒人先生門檻都要踏斷者。正是乃高來勿配，低來勿對，我話阿因噲要不偌住大門者<sup>80</sup>，閒話少說，天已經昷<sup>81</sup>者，讓我要做昷時面者<sup>82</sup>，嘔佻家主婆淘米洗菜<sup>83</sup>起者，阿完拉個娘噲，天已經昷者，偌好淘米洗菜起者。丑 偌個老冤家，我剛剛搖得盆水來帶洗腳，嘔我乃葛立得起，還是嘔咁阿因起，阿因噲。

---

<sup>75</sup> “咁”，俗字。我，我們，我的，我這個。應是與“外”讀音相近之字，此處應為紹興方言中第一人稱複數或第一人稱作定語時的發音。紹興方言的“捱”（第一人稱複數代詞），發音與“外”同。

<sup>76</sup> 紹興方言的量詞。工廠、商店一家叫一爿。（《紹興方言》第308頁）

<sup>77</sup> 石印本注云（第5頁）：“勿息，不錯”。

<sup>78</sup> “啥”，原寫作“舍”，今正。下同。

<sup>79</sup> “是”，原寫作“實”，今正。

<sup>80</sup> 我話，意為“我說”，不，與“撥”同，整句可理解為：阿因啊，要給你住大門了。大門，在紹興方言中的含義不明。

<sup>81</sup> 昷，石印本注云（第5頁）：“昷，晏的誤寫”。

<sup>82</sup> 此句疑有誤。時面應為“市面”，此處乃指“晏市面”，晚上的生意。石印本作“要做昷市哉”。

<sup>83</sup> “菜”，原寫作“𦉳”，今正。下同。

完 噯則啥<sup>84</sup>? 丑 阿因噲做娘個剛剛舀得盆水來帶<sup>85</sup>洗腳，乃爹嘔我要淘米洗菜起者，我一時立勿起，偌代娘個去洗洗來。完 女兒曉得，嚇苦嚇。丑 偌應來帶應眼裏水<sup>86</sup>脫脫，葛來帶<sup>87</sup>流出來者。完 咳，我好命苦嚇：

完英無奈便抽身 手執筐籃走出門

將身來到河埠口 只見男兒水中浸

心中發慌紅了臉 慌忙回轉<sup>88</sup>店堂門

關了房門呆了立 丑 走出媽媽問原因

阿因偌淘米洗菜奈葛咚者 完 母親外面有這個。丑 這個乃個，偌河沿頭淘米洗菜到勿起，屁股朝得裏，臉孔紅一陣白一陣，實介立帶咚<sup>89</sup>，難道米會得白個？菜會得清爽個？完 母親外面有。丑 有啥個東西咚，做娘個來看。王 苦嚇。丑 呸，有偌個小賊骨頭帶來，白條條葛別我個河埠頭浸帶咚來咚則啥<sup>90</sup>? 難怪啲阿因要逃進來者，我老太婆都難看殺者。生 嚇，媽媽，小生一言難盡。丑 呵偌來咚摸面眼鏡。生 嚇，我一言難盡。丑<sup>91</sup> 介偌道話話看。生 嚇，媽媽嚇：

媽媽在上聽原因 小生一一告知聞

我住浙江寧波府 定海縣內王家門

爹爹名叫王廷貴 官居極品在朝廷

---

<sup>84</sup>則啥，做啥。

<sup>85</sup>來帶，副詞，正在。

<sup>86</sup>眼裏水，眼淚。

<sup>87</sup>來帶，正在。

<sup>88</sup>“轉”，原寫作“占”，以意正。

<sup>89</sup>此句石印本作“寔個立帶”。注云(第5頁)：“寔個，這樣。立帶，站著”

<sup>90</sup>此句義未詳。待考。

<sup>91</sup>原缺“丑”字。今補。

爹娘不生多男子 單生小生一個人

今年年方十六春 三字名叫王應文

丑 媽媽啓口來動問 你光着身体爲何因

小書生既然你是寧波定海縣人氏，又是官家之子，怎麼會來到福建呢？ 生 嚇，媽媽有所未知，只因我看潮失水，洗盡衣服，曬在橋上，

被賊子偷去了，還望媽媽發發慈悲，相救于我，日後圖報大恩。 丑 介末偌來帶，我起挖得衣裳來。 生 多謝媽媽。 丑 嚇啲，想啲老老野

貓過世，究得一張皮個，有者有者，我有件古老十八代個海青咚，褲末究得我條布裙，仰伊繫繫，我還有一雙鬧堂鞋，嘔伊拖拖，咳者，

喂，阿因。 完 母親。 丑 河渠頭是<sup>92</sup>個宰相公子，做娘個要起救得起來者，究得救帶進來，嘔伊噉裏頭坐坐呢。 完 母親房中。 丑 我

個房裏，乃爹穿進穿出咚走，還是到偌個房裏起坐坐。 完 女兒房中如何使得？ 丑 阿因呀，做好事怕伊啥，仰我起救得進來是者。

媽媽拿衣到河沿 擡頭見了後生面

即忙啓口把後生叫啫快快穿衣進內邊

喂，小後生，啫可動蹲冬冬，立起來實難看各，啫葛條布裙繫帶冬，海青披帶冬，鞋末拖帶冬。 生 多謝媽媽，請媽媽站過一邊，小生上岸來了。

應文上岸便穿衣 一條布裙當褲繫

同了媽媽來行走 進門即便忙施禮

媽媽在上小生奉揖。 丑 相公勿敢勿敢，啫河裏浸得冷殺咚者，快快

---

<sup>92</sup> “是”，原寫作“實”，今正。

到叻阿囡房裏坐坐。停息<sup>93</sup>我搬酒飯來，仰啫吃得熱落落<sup>94</sup>好走。 生  
多謝媽媽了。

丑 媽媽說罷到店堂 生 王應文移步入內房

只見擺設多精雅 四面團團掛斗方  
兩邊四把象牙椅 楠木茶几分兩旁  
上方一張春臺桌 四大美女掛中堂  
西施溪水把紗浣<sup>95</sup> 貂蟬拜月咒奸黨  
心悶醉酒楊貴妃 昭君出塞<sup>96</sup>號淒惶<sup>97</sup>  
一副<sup>98</sup>對聯分左右 古人提詩有名堂  
左寫偶落花千點 右寫飛舞蝶成雙  
楠木妝<sup>99</sup>台窗前擺 紫檀<sup>100</sup>鏡架水磨光  
桂花床岩<sup>101</sup>秋羅帳 白銅帳鈎<sup>102</sup>掛香囊  
銀紅夾被鑲金緞<sup>103</sup> 鴛鴦花枕遠芬芳  
應文看罷多歡悅 滿房擺設不尋常

嚇妙嚇，我道平常之家，原來擺設如此幽雅，且住，有現成床帳在此，  
想我身子困倦，不免待我下帳安睡片刻便了。

應文安睡養精神 心中暗暗喜十分

<sup>93</sup> “停”，原寫作“仃”，今正。石印本注云(第6頁)：“停息，過一會。”。

<sup>94</sup> “熱落落”，亦作“熱絡絡”。

<sup>95</sup> “浣”，原寫作“統”，今正。

<sup>96</sup> “塞”，原寫作“寨”，今正。

<sup>97</sup> “惶”，原寫作“惶”，今正。

<sup>98</sup> “副”，原寫作“付”，今正。

<sup>99</sup> “妝”，原寫作“椿”，今正。

<sup>100</sup> “檀”，原寫作“椴”，今正。

<sup>101</sup> “岩”，義不通。或改作“沿”。待校。石印本(第7頁)作“葵花床內”。

<sup>102</sup> “鈎”，原寫作“勾”，今正。

<sup>103</sup> “緞”，原寫作“段”，今正。

慢<sup>104</sup>表書生安睡事 丑 再表楊媽叫完英

阿囡噲，喏四盤一湯、酒一壺、飯菜一桶，偌搬得進起，仰伊吃得好走。完 女兒不去。丑 做好事怕伊啥？標 阿完賴娘噲，快快來收銅錢者。丑 嘔，阿囡喏快快搬得進去，做娘個要到店堂裏收銅錢起者。

媽媽說罷走匆匆 完 完英送飯滿臉紅

無奈搬進房中去 嚇不見書生王相公

只見羅帳來放下 想必安睡奴床中

奴也不顧羞和恥 勉<sup>105</sup>強起口叫相公

相公起來請用酒飯了。生 啊啊，我道是誰，原來是一位大姐，嚇，大姐，小生多多失禮了。完 好說好說。

生 應文起身坐床沿 只見大姐美嬌<sup>106</sup>顏

今日小生多失禮 身子困倦在床眠

多虧媽媽來相救 又勞大姐費心田

嚇，大姐小生奉揖。完 奴家有禮奉還，請問相公，府居何處？尊姓大名？乞道其詳。生 大姐聽道：

家住在 浙江省 寧波府內

我爹爹 王廷貴 身居極品

難生<sup>107</sup>我 十六春 取名應文

只因爲 去看潮 寧波失水

蒙蒼天 飄到此 不傷殘身

<sup>104</sup> “慢”，原寫作“曼”，今正。

<sup>105</sup> “勉”，原寫作“免”，今正。下同。

<sup>106</sup> “嬌”，原寫作“喬”，今正。

<sup>107</sup> 難生，石印本注(第7頁)云：“遇難的人，應文自稱。”。

虧大姐 送酒飯 難報你恩

嚇大姐，難生多虧媽媽相救，承蒙大姐送飯，此恩日後圖報，請問大姐芳名，方才救我的乃位恩媽媽是你大姐何人？完 相公聽道：

完英姑娘說原因 就把相公叫一聲

相公嚇爹爹名叫楊天標 開爿飯店過時光

救你之人非別個 就是奴的老娘親

若要問我奴的名 三字名叫楊完英

生 應文聽說暗思忖 好位大姐伶俐人

我把大姐看靈清 容貌堂堂無批評

頭上青絲烏雲照 蟠龍結上放光明

眉似春天柳初放 一雙秋波水淋淋

小腳金蓮長三寸 猶如仙女下凡塵

應文正在呆呆看 完英偷偷看書生

我把書生看端正 一表人才美少年

相貌堂堂多英俊 眉清目秀一書生

天庭飽滿世無雙 好似潘安轉還魂

羞羞答答相公叫 快請相公酒飯吞

生 多謝大姐 嚇，大姐 小生有言不敢啓齒。完 相公但說何妨。生

嚇，大姐，小生多蒙你們母女相救，感恩非淺，意欲與你結為百年偕伴，望大姐應允。完 嚇，相公嚇：

你是官家豪門後 奴是貧我女釵裙

相公前程多錦繡 奴家不敢許終身



生 大姐嚇小生不是負心漢 大姐只管放寬心

大姐若是不信，小生就可對天盟誓也。

雙膝跪在地埃塵 祝告乃過往神聖在上聽

我與完英定終身 海枯石爛不變心

小生若還負完英 五雷擊頂不超生

完 相公言重了：

相公嚇，今日與你終身訂 奴家無物來相贈

奴有一隻梅花戒 送你王生作為聘

生 應<sup>108</sup>文接戒心歡喜 多謝大姐許終身

小生有日功名就 鳳<sup>109</sup>冠霞帔報你恩

不表私訂終身事 標 提表天標叫完英

阿完 完 爹爹，啥事体？

標 我有筆帳，偌來撥<sup>110</sup>我寫寫咯帳簿裏。 完 女兒等息<sup>111</sup>來寫。 標

咳，還是<sup>112</sup>快些來寫，做爹個記心曼曼，息個等息<sup>113</sup>要忘記個。偌筆

墨紙硯挖得來，快些來寫。 完 筆墨紙硯在女兒房中，待女兒到房中

去拿來。標 仰我起挖起，偌腳迷迷小<sup>114</sup>葛，跌得跤要討債者<sup>115</sup>。完 爹

爹你年紀老了，還是女兒去拿好。標 仰我起。完 女兒去。標 偌話

偌起，我話我起，偌個房裏有啥個古董寶貝？ 哼，勿許做爹個走進

<sup>108</sup> “應”，原寫作“英”，今正。

<sup>109</sup> “鳳”，原寫作“風”，今正。下同。

<sup>110</sup> “撥”，介詞。《紹興方言》(第23頁)云：“‘撥’有時可作動詞用，相當於‘給’”。

<sup>111</sup> 等息，與“停息”同，等一會，過一會兒。

<sup>112</sup> “是”，原寫作“實”，今正。

<sup>113</sup> 等息，待查。

<sup>114</sup> 迷迷小，形容很小，極小。

<sup>115</sup> 討債，麻煩；糟糕。參看李榮主編《寧波方言詞典》(江蘇教育出版社，1997年)第78頁。

此句意為：要是跌了一腳，就麻煩了。



起，我今朝偏偏要走帶進起帶來，喂，青天大白日，帳子爲啥勿上起，仰我來上起，喂，棉被都勿折好<sup>116</sup>，還動動來帶動，我揭帶開來看看帶來，嚇，我道啥西，乃曉得還是個鳳陽婆<sup>117</sup>，介個小花娘帶來，我道葛兩日，米介勿禁吃者<sup>118</sup>，柴介勿禁燒者，都不葛個鳳陽婆吃光個，我今朝勿來打喏，也勿來罵喏，東門外青山高頭老虎來咚作亂，仰我來背得伊起，飼老虎起末罷者。

楊天標拉住鳳陽婆 上前一把握緊拖

將伊背出房門外 高聲大罵老乞婆

房裏關得鳳陽婆 偏偏做弄我老人家

急急忙忙背了走 丑 楊媽一見淚如梭

完 完英此刻難分捨 有口難言沒奈何

噯王生王生 丑 嚇，阿囡，介好個宰相公子，不葛老冤家當鳳陽婆，背到青山高頭飼老虎起者，做娘個正當肉痛殺者，倘若傷了性命，我以<sup>119</sup>來帶做惡事者。完 嚇，母親，嚇王生噯噯。

完英姑娘淚紛紛 有口難言說不清

王生若有長和短 奴家終身靠何人

我與王生終身訂 爹娘乃裏會知情

但願蒼天來保佑 保佑他無災無難脫逃生

不表完英心悲泣 標 再表天標上山林

喂，到者，到者，撥若來帶飼老虎，我要落山起者。

<sup>116</sup>勿折好，方言中稱壘被子爲“折棉被”，棉被都勿折好，謂“被子都沒壘好”。

<sup>117</sup>鳳陽婆，石印本注(第8頁)云：“鳳陽花鼓的女藝人。”

<sup>118</sup>“米介勿禁吃者”，石印本作“米勿徑吃哉。”。注(第8頁)云：“勿徑，經不起。”

<sup>119</sup>以，又。方言中，音“以”。

楊天標怒氣冲冲下山轉家門 要與娘因道理評

宣到此處停頭回 相府賣身下回云

生 離別家鄉有數旬 未知何日返家庭

小生王應文，寧波定海縣人氏，自從乃日看潮失水，漂到此地，誰知衣衫鞋襪被賊人竊去，多虧媽媽相救，與我身上穿了女人衣服，藏<sup>120</sup>在香閨，與完英大姐私訂終身，楊天標將我錯認鳳陽婆，背到此山，喜得機關未露，不然性命難保，看離城不遠，待我下山去吧。嚇，且住，想我身無分文，如何是好，只得去到街坊沿街求乞，待到有了銀子，就可回家，我來此已是十字街口，前去求乞便了。

王應文移步向前行 腹中飢餓好難禁

行走來到十字街口 只得跪地求善人

哀求開店開廠老闆們 發財銅錢丟幾文

保佑出門順利保平安 順風駛舵保太平

保佑四面貴人相照應 八方財寶進門庭

保佑生意興隆多茂盛 一年四季賺黃金

哀求吃素念佛太太們 慈悲銅錢丟幾文

保佑福也增來壽也增 壽比南山老壽星

保佑眼目清亮腳手健 兒孫滿堂鬧盈盈

哀求賢良好心大娘們 賢德銅錢丟幾文

救救我王應文落難人 保佑夫妻和睦情義深

---

<sup>120</sup> “藏”，原寫作“芒”，今正。下同。

保佑早生貴<sup>121</sup>子跳龍門 白頭到老福壽增  
哀求漂漂亮亮姑娘們 加班銅錢丟幾文  
保佑有福有壽多福分 配個老闆做夫人  
哀求年青力壯叔伯們 辛苦銅錢丟幾文  
救救我個落難人 保佑一年四季賺黃金  
哀求讀書趕考官官們 聰明智慧銅錢丟幾文  
保佑連科高升步步進 大學考進穩篤<sup>122</sup>定  
保佑做中央幹部<sup>123</sup>接班人 轎車進出耀<sup>124</sup>門庭  
保佑增福延壽保長生 一家團圓<sup>125</sup>笑盈盈  
哀求種田下地叔伯們 辛苦銅錢丟幾文  
保佑身體健康福壽增 田稻<sup>126</sup>年年好收成  
今日我討得銅錢有千文 謝謝各位善心人  
可憐我半男半女好羞人 叫我何處去安身  
不表應文情由事 相 卷中另表一公卿  
不如意事常八九，可與人言無二三，老夫駱賓，官拜首相，執掌朝綱，  
夫人李氏，生下七子一女，孩兒具在朝中爲官，七位媳婦在家，我女  
姣英在年二八，當初萬歲爲媒，許配潼關沈榮之子沈標爲室，如今聞  
得沈標醜陋不堪，而且倚勢橫行，夫人聞知憂鬱得病身亡，我女終<sup>127</sup>  
日啼哭不止，一爲娘親亡故，二爲錯配婚姻，每欲自盡，多虧七位賢

<sup>121</sup> “貴”，原寫作“桂”，以意正。

<sup>122</sup> “篤”，原寫作“督”，以意正。

<sup>123</sup> “部”，原寫作“𠂔”，今正。

<sup>124</sup> “耀”，原寫作“躍”，以意正。

<sup>125</sup> “圓”，原寫作“園”，今正。下同。

<sup>126</sup> “稻”，原寫作“秣”。《雙狀元寶卷》云：“田稻年年好收成，今從之。”

<sup>127</sup> “終”，原寫作“總督”，今正。下同。

媳解勸，爲此者老夫無心伴駕，告老還鄉，思想起來，好不憂慮人也。

相爺悶坐在書廳 只爲女兒錯配親

害得夫人身亡故 害得女兒哭悲疼

不該將他來錯配 如今懊悔也無門

想沈標雖然他父是千歲 惡勢橫行不成文

本該將他婚來退 違逆聖旨罪非輕

幸虧賢者多淑德 終日解勸女兒身

進退兩難真無奈 因此告假轉家門

心中思想多煩悶 有了忽生巧計把話論

且住，我女兒終日煩悶不樂，心事不寧，需要與他解愁消悶，啊，是

了，不免叫丫環出來，與他解愁消悶爲妙，衆丫環乃裏？ 丫 來者來

者，太師在上，衆丫環叩頭。 相 起來。 丫 叫丫環出來，有何吩咐？

相 非爲別事，你們進去，哄得小姐一笑，賞銀子一刃。 丫 兩笑呢？

相 就是兩刃。 丫 三笑呢？ 相 三刃。 丫 十笑呢？ 相 就是十刃。

丫 倘若小姐笑得胃口開者，嘴巴笑得閉勿弄者，太師賞銀<sup>128</sup>子多少

者？ 相 呢<sup>129</sup>小賤胡說。 丫 阿姐，阿妹噲，太師發惡亂者，佢大家

還是哄小姐起笑起。 丫 嘔大家走咯。

一衆丫環往內行 前去哄笑貴千金

不表丫環情由事 且 提表姣英哭悲啼

綉閣春深晝日長，佳人無意綉鴛鴦，奴家駱氏姣英，年方二八，爹爹

---

<sup>128</sup> “賞銀子”，原寫作“償良子”，今正。下同。

<sup>129</sup> 促，疑“呢”之誤。石印本(第11頁)作“呢，賤人胡說。”。注云：“呢，嘆詞。”。今正。下同。

駱賓，官拜首相，母親李氏，不幸去世，七位兄長，在朝伴駕，嫂嫂們在家，十分賢德，這也不在話下，想奴終身由萬歲為媒，許配潼關沈千歲之子沈標為室，聞得他相貌醜陋，道理全無，依勢橫行，奴的終身如何是好？思想起來，好不傷心人也。

姣英小姐暗傷心 奴奴命運苦十分  
可恨君王太無理 將奴錯配沈家門  
沈標為人全無理<sup>130</sup> 況且醜陋不成文

倘若日後來迎娶 叫奴如何做得人  
本欲早早來傷身 七位嫂嫂勸奴身  
蒼天為何作弄人 偏偏許配這廢人  
思思想想心頭悶 眼淚汪汪好傷心

姣英姑娘心悲泣 嫂 來了七位少夫人

姑娘請來見禮。旦 各位嫂嫂，小妹有禮奉還，請坐。嫂 請坐，嚇，姑娘，見你悶悶不樂，何不去到花園遊玩一番，以消悶懷，況且園中百花齊放，桂花盛開，十分清香，請姑娘觀看花景，意下如何？旦 嫂嫂欲要遊玩，小妹當得奉陪<sup>131</sup>。嫂 如此姑娘，請。旦 嫂嫂請。嫂 丫環前面引路。丫 嘔，曉得者。

嫂 姑嫂移步出閨房 丫 一衆丫環走得忙

嫂 一齊來到花園內 觀看花景甚軒昂

旦 七位嫂嫂觀花景 我姣英只是暗悲傷

<sup>130</sup> “無理”，或改作“無禮”。《雙英寶卷下本》云：“沈標禮儀全無”。待考。

<sup>131</sup> “陪”，原寫作“倍”，今正。下同。

想到奴奴終身事 哪有心思花景賞<sup>132</sup>  
秋天無樹枝多殘敗 梧桐葉落好淒惶  
將身行到花亭上 嫂 夫人啓口把話講  
嚇，姑娘，桂花亭上請坐。 旦 嫂嫂們請坐。 嫂 嚇，姑娘，你看桂  
花十分茂盛，請姑娘折幾枝桂花，可做蟾宮折桂。 旦 嚇，嫂嫂呀：  
奴見桂花淚連連 維<sup>133</sup>有奴命苦十分  
有福之人做夫人 蟾宮折桂步步升  
哥哥在朝爲官職 七位嫂嫂受皇恩  
小姑配與廢人身 乃能爲官在朝庭  
奴奴乃有皇恩受 怎做蟾宮折桂人  
說起此事心悲泣 嫂 夫人重又說原因  
嚇，姑娘，你看半天鴻雁飛來作字成對，倒也看得。 旦 嚇，嫂嫂嚇：  
奴看鴻雁哭啼啼 對對成雙排字飛  
成對可比兄和嫂 孤雁可比薄命人  
小姑哪有成雙日 心中思想好孤淒  
可憐終身不樂意 不如削髮爲僧尼  
說罷轉過假山去 嫂 夫人啓口把話提  
嚇，姑娘，海棠亭上請坐。 旦 眾位嫂嫂請坐。 嫂 姑娘你看海棠，  
對着梨花，倒也好看。 旦 嚇，嫂嫂，想乃種花之人，好生無理，想  
海棠乃是姣嫩之花，梨花乃是粗蠢之花，如何對種，小妹倒要提詩一  
首。 嫂 倒要請教，丫環取筆墨過來。 丫 曉得。

<sup>132</sup> “賞”，原寫作“償”，今正。下同。

<sup>133</sup> “維”，石印本(第11頁)作“惟”。

旦 詩曰：

二八佳人巧梳妝 紅顏薄命配醜郎

世間多少不平事 可恨梨花對海棠

嫂 嚇，姑娘，你不愛梨花，可以砍掉。丫 喂阿姐，阿妹，佢小姐真當<sup>134</sup>聰明，海棠姣嫩比得自者，梨花粗蠢比得沈姑爺者，梨花看勿入眼，可以砍掉，難道沈姑爺也好砍掉勿成麼？ 旦 呢，賤人胡說。 丫 嘎嘆，小姐已要發惡亂者，噲，少夫人喂，看小姐心事勿寧，佢丫頭到倒有個主意來帶，勿如開之園門，外面是條小街，有走索個，嬉罐個，嬉彩瓶個<sup>135</sup>，變大戲法個<sup>136</sup>，起看看街景也好，消愁解悶。 嫂 嚇，且住，本該是使不得的，如今小姐心事勿寧，你們要去開了園門看看街景。 丫 嘔阿姐，阿妹，哄得發有得搭<sup>137</sup>，哄得笑，大家有得巧，大家動手。

丫環忙把園門開 嫂 姑嫂移步往外來

姑嫂站在園門口 生 王應文大步走過來

今朝好像<sup>138</sup>癡女樣 丫 哈哈丫環一見笑起來

噲，少夫人，呆婆<sup>139</sup>來者，呆婆來者。 少 怎樣的呆婆？ 丫 喏，風來者末，蹲倒者，風起者伊立起者，喏喏，呆婆來者，呆婆來者，大家來看呆婆來個。

旦 小姐聽說把頭擡 哈哈無意之中笑出來

<sup>134</sup>真當，的確（《紹興方言研究》第188頁）。

<sup>135</sup>此兩句，石印本（第11頁）作“嬉缸弄鑿”。注云：“嬉，玩兒。”

<sup>136</sup>變（大）戲法，表演魔術。

<sup>137</sup>石印本注云：“哄得發有得搭，如果奉承得人家發了財，咱們也可以沾點光。”

<sup>138</sup>“像”，原寫作“象”，今正。下同。

<sup>139</sup>呆婆，石印本注云（第11頁）：“呆婆，傻女人，痴婆子。”



丫 丫環一見多歡喜 報與相爺賞錢財

阿姐阿妹，小姐笑過者，叻問相爺領賞起。 丫 大家走咯，來至高廳，啓稟相爺，小姐被丫環哄笑了。 相 什麼？被你們哄笑了？ 丫 哄笑者。 相 怎樣笑的？ 丫 還要還點頭帶來，相爺喏，佢想小姐心事勿寧，到花園去看看花景，小姐仍然勿高興，後來丫環開之園門，看看街景，勿曉得來得個呆婆，風來者蹲到者，風起者，立起者，小姐一見，實介<sup>140</sup>笑者，佢丫環前來領賞。 相 少刻領賞。 丫 賞錢也要欠欠個。 相 小賤胡說，我卻不信，待我去看個明白。 丫 嘔，一徑來到花園，衆位少夫人、小姐，相爺來看呆婆者。 少 什麼？公公來了，我們迴避了吧，姑娘請。 旦 嫂嫂請。

不表姑嫂回房去 相 再表相爺到園亭

行來已到花園門 舉目擡頭看分明

一見此人心疑惑 男扮女妝爲何因

書童。 什 喏。 相 叫那人轉來。 什 曉得，叻，那人轉來，我家相爺有話。 生 嚇，且住，聽他口說相爺，諒必當朝一品，想我也是宰相公子，如此形狀，倘若真情說出，豈不慚愧，不如哄他一哄，來比園門，嚇，相爺，叫難人轉來有何吩咐？ 相 叫你非爲別事，想你男子扮作女子，敢是哄動<sup>141</sup>人心，是何道理？ 生 啓稟相爺，難人一言奉告：

相爺嚇非是難人哄人心 只爲七歲遇拐人

將我騙到貴鄉地 賣與陳府做書童

<sup>140</sup>實介，這樣；這麼。吳方言。（《吳方言詞典》第309頁）

<sup>141</sup>“動”，原寫作“同”。石印本（第12頁）作“敢是哄動人心”，今從之。



只爲玉硯來打碎 主人取我命殘生

多虧乃燒飯媽媽來釋放 男扮女裝去逃生

難人句句真情話 還望相爺恕罪名

相 相爺聽了言和語 腹內暗暗自思忖

乃相爺把此人上下打量一番，心中暗想，他雖男扮女裝，舉止<sup>142</sup>行動穩重，出言吐語文雅，老夫十分喜歡，便道，想你家主人氣量太小，一方玉硯打碎，就要取你一死，想別人道你來歷不明，老夫倒不怕你的主人生事，你不如在我府中做一名書童，你道如何？ 生 難人思忖回話，且住，想我也是宰相公子，況且鬢門秀士，豈肯與人當作書童，但我一來盤費全無，二則衣衿沒有，待我有了盤費衣衿，再作計較便了，嚇，相爺，既蒙擡愛，無不遵命。 相 未知你要多少身價？ 生 相爺容稟：

相爺你且聽分明 身價不要半毫分

賣身文契我不寫 伏望相爺納此情

相 相爺聽說來應允 好個聰明伶俐人

待我與他取個名字，把他取名新來，好從今以後，就叫你新來，不分內外進出，好生服侍，以後老夫重重有賞。 生 多謝相爺。 相 書童。

什<sup>143</sup> 喲。 相 命你領了新來到書房改換衣衫，進內去見過七位少夫人與小姐。 淨<sup>144</sup> 曉得。新來哥隨我來。 生 是來了。

書童領了進書房 生 新來即便換衣裳

<sup>142</sup> “止”，原寫作“子”，以意正。

<sup>143</sup> 什，石印本(第13頁)作“雜”。在此應寫作下面的“淨”。

<sup>144</sup> “淨”，石印本作“丑”。

丫 丫環聽了多明白 急急回身走得忙

將身進了閨房內 一見夫人把話講

今朝有件新聞<sup>145</sup>事 特來稟告女紅妝

少 丫環有什麼新聞事？

丫 啓稟夫人小姐，方才因門外來個勿是呆婆，實個呆公。 少 什麼？

他是男的嗎？ 丫 嗯，我裏相爺問伊個，伊話是陳家書童，只爲玉硯

打碎，主人將伊衣衫剝落，取伊一死，多虧媽媽相救釋放出門，如今

相爺留進府中，當作書童，勿分內外，任憑使喚，取名新來，就要進

來叩頭領賞咚者。 少 如此叫他進來。 丫 嘔，新來哥哥，快快進來，

見過各位少夫人與小姐。 生 是。 丫 喏，葛個七位是少夫人，當中

是小姐，喏要端端正正碰幾個頭，夫人小姐有賞個。 生 曉得。

新來即忙跪埃塵 叩見七位少夫人

低下頭來暗思忖 見他們個個貌超群

七位夫人都叩過 當中再叩女千金

總道完英容貌好 誰知他更比楊氏勝幾分

小姐花容多絕色 未知金蓮有幾寸

低下頭來看靈清<sup>146</sup> 妙嚇好似一對水紅菱

新來叩頭身不動 丫 呔旁邊丫環喝一聲

噲，新來哥哥，喏爲啥碰頭連帶牢會叩個，我來帶不倂數剛剛叩得十

六個半。 生 嚇，大姐，怎麼會有半個頭呢？ 丫 喏喏剛剛要碰落起

---

<sup>145</sup> “聞”，原寫作“文”，以意正。

<sup>146</sup> 靈清，紹興方言。清醒，清楚（《紹興方言研究》第126頁）。石印本（第14頁）作“低下頭來看个清。”。

者，我吹葛？得聲，撥僮標得半個。 生 嚇大姐，想七位少夫人時常可見，乃小姐在香閨綉閣難得見的，所以我要多叩幾個。 丫 介末僮只管叩咚咚。 旦 小賤胡說，叫他出去。 丫 嚇小姐已要發惡亂者，新來哥哥走出起者。 生 是。 少 嚇姑娘，見新來書童文質彬彬，相貌非凡。 旦 嚇嫂嫂，我家有這樣的俊秀書童帶了出門，主人的面上也有多少光彩。

少 嚇姑娘嚇：

奴見新來貌傾城 不像書童另有因

舉止端方多穩重 好似途中落泊人

回言便把丫環叫 你且聽我說原因

丫環你取銀子十四刃，松江小布七疋賞與新來。 丫 嘔。 旦 丫環取銀子四刃，紡綢兩疋賞賜與他，速去速來。 丫 嘔阿姐噲，阿妹噲，吓帶新來哥哥裏起者，東西挖得起，行來已到書房，喂，新來哥哥見禮者。 生 有禮奉還，二位大姐到此，莫非小姐叫我有事麼？ 淨 僮聽我息得，小姐嘔僮則啥？喏葛個實少夫人賞銀子十四刃，松江布七疋。 丫 喏葛個實小姐賞僮個銀子四刃，紡綢兩疋，喏挖得起，想僮總後生家勿可浪吃、浪用，要做人家<sup>147</sup>些個。 生 這個自然，還望二位大姐與我代謝少夫人與小姐。 丫 謝謝末總是吓者。 丫 噲，新來哥哥僮今年幾歲者？ 生 一十六歲了。 丫 介末僮新來嫂嫂討勿討噶<sup>148</sup>噶來？ 生 沒有。 丫 介末吓來撥僮做媒者。 生 休得取笑。 丫 看伊介大年紀者，還怕羞帶來，走得進起者，外還是回稟夫人小姐知道便

<sup>147</sup>做人家，勤儉節約。吳方言。（《寧波方言詞典》第 183 頁）

<sup>148</sup>“噶”，原寫作“噶”。石印本注云（第 14 頁）：“噶，助詞。”。

了。

慢表丫環稟小姐 生 再表書童王應文

本該收入回家去 難捨小姐女千金

按下應文來自嘆 千 再表潼關一段情

身受爵祿心不寧，未知何日坐龍庭，本藩沈榮，奉旨平西有功，蒙恩封我平西王之職，永鎮潼關，吾心不服，欲要登其大寶，奪取錦繡江山，如今差黑元帥往高麗借兵十萬，前來攻打，至今借兵未回，好生掛念，這且不表，本藩單生一子，取名沈標，乃年聖上為媒，是福建泉州府、晉江縣駱賓之女，名曰姣英，配與我兒為室，想乃駱賓有七個兒子，在朝為官，如何是好？嗻有了，不免叫我兒去到他家完其花燭，日後興兵之時，亦有內助之力，有道自親必顧，自鄰必護，本藩何愁大事不成，來。 什 喲。 千 叫後堂世子爺出來。 什 世子爺有請。 丑 來者來者，忽聽堂上叫，眉毛別別跳，若還來遲到，要吃栗子泡<sup>149</sup>，平西王阿伯爹在上，做倪子個拜揖者。 千 兒嚇，罷了，一旁坐下。 丑 咳阿伯爹，做倪子個一向歡喜蹲椅子個，葛息毛我蹲帶者，阿伯爹喺叫倪子出來，有啥屁放<sup>150</sup>？ 千 唔比方<sup>151</sup>，叫你非為別事，為父叫你到福建泉州府晉江縣，與駱氏完姻，可作內助一臂之力，為父不怕大事不成了。 丑 好個好個，難得我裏個長氣個阿伯爹<sup>152</sup>。 千 畜生胡說。 丑 喂，阿伯爹，如今偌是千歲，我是世子爺，才話偌做皇帝，我做太子者，早末偌死還，我好做皇帝者。 千 畜生多講，

<sup>149</sup>石印本注(第15頁)云：“吃栗子泡，彎曲食中二指敲擊頭部。”。

<sup>150</sup>“屁放”，原寫作“庇方”，義不通。石印本(第15頁)作“有啥屁放”，據改。

<sup>151</sup>“唔屁放”，原寫做“唔比方”，據上下文意思，應為“唔屁放”，即“無屁放”，是針對上句的回答。

<sup>152</sup>長氣，爭氣。音同而誤。整句意思為：難得我這個爭氣的爹爹。

來。什 咱。千 擺酒與世子爺餞行。淨 是。

千 千歲吩咐忙擺酒 丑 世子爺得意喜悠悠

千 千歲重又開言說 兒嚇爲父有言說情由

嚇兒嚇，你此去駱府招親，他家用事須要留意，處處須要謹慎，牢牢

記住。丑 有數者。千 家人。什 咱。千 好生服侍世子爺，回來

重重有賞。淨 曉得。丑 阿伯爹偌放心，做倪子個拜別去者。唎

吶<sup>153</sup>。淨 咱。丑 撥我搭跳，我要落船起者。

世子即便就登程<sup>154</sup> 要到泉州去成親

吩咐水手忙開船 撐起一張大風篷

發起一頭大順風 不覺來到泉州城

淨 啓世子爺，泉州到者。丑 乃啥泉州到者，將船停泊，扶我上岸

唎吶。淨 咱。丑 佢前去遊玩一番。淨 曉得。

丑 嗶泉州果然好一片繁華景致也。

世子爺，上街坊，閑游消悶，話不盡，泉州府，繁華一片。

走大街，穿小巷，香風撲面，這些乃，年少婦，勝似天仙。

進茶坊，並酒樓，合群談天，只見乃，西街上，輻輳<sup>155</sup>福湊人煙。

一路上，來行走，風吹柳舞，有幾間，高大樓，意欲人眼。

且住，來到此地，有幾間高大房屋，未知可作公館？唎吶。淨 咱。

丑 不知啥人我個房屋，我世子爺，意欲要做公館。淨 曉得，裏面可

<sup>153</sup>唎吶，對小孩子的稱呼，一般女孩子寫作囡，男孩子寫作囡。音同（nan1）。石印本（第16頁）作“囡”，注云：“孩子，這裡指書僮。”。

<sup>154</sup>“程”，原寫作“呈”，今正。下同。

<sup>155</sup>“輻輳”，原寫作“福湊”，今正。

有人麼？ 什 來者來者，你到來何事？ 淨<sup>156</sup> 噲，老人家，偌這幾間房屋，可肯租作公館？ 什 可以租得，你問他什麼？ 淨 我裏潼關世子爺，要到駱府成親，你的房屋要租用數月，每月租金多少？ 什 既然是駱府貴親，就不用講房金，請世子爺前來安寓。 淨 啓世子爺，房主言道，駱府貴親，勿用講房金，請世子爺安寓好者。 丑 唎吶，將行李搬進起是者。 淨 曉得。 丑 唎吶，想我來到此地，本當要去拜望老駱，想伊無非是個宰相，我是個世子爺，難道我世子爺起拜望伊，嘎，有者有者，難爲伊是我個丈人阿伯，我就用名帖一個，唎吶。 什 喏。 丑 偌起通報一聲，叫話世子爺到者，嘔老駱撥我早些做親拜堂，勿得有誤。 淨 嘔，曉得者。

家人奉命不留定 手拿名帖往前行

一路行程無耽<sup>157</sup> 攔 不覺來到駱府門

門上可有人在？ 什 來了是乃一個？ 淨 望你門官前去通報相爺，我奉伢，潼關世子爺之命，前來你駱府招親，有名帖呈上。 什 嘔，曉得者。

家人接帖身進內 稟告相爺得知情

宣到此處停半本 盤戒<sup>158</sup>揚名下回聽

---

<sup>156</sup> “淨”，原寫作“什”，以意正。

<sup>157</sup> “耽”，原寫作“擔”，以意正。下同。

<sup>158</sup> 盤戒，待查。石印本(第16頁)作“露戒”。或爲“盤問”之意。

## 雙英卷 下本

前蒙聖恩作冰人 誰知我女不稱心

老夫駱賓，只爲我女終身錯配，聞得沈標禮義全無，相貌醜陋，我女心中不服，日夜啼哭，皆因聖上爲媒，出于無奈。淨報啓相爺，潼關世子爺到者，住在西街公館，有名帖呈上。相待我看來，嘎嚇，他竟不來拜望老夫，好生無理<sup>159</sup>，且住，待我前去看他相貌，情形如何，言之有理，來。什甯。相打轎公館。什嘎嘎。

相爺打轎往街坊 去到公館看情常

行來已到公館首 淨家人即便報事忙

門上乃一個在？什是乃一個？淨駱相爺前來看望世子爺，有名帖呈上，相煩通報。什候着，啓世子爺，外面駱相爺前來看望，有名帖呈上。丑乃啥老駱到者，做伊話我世子爺本應出來迎接，只因路上受了風霜之苦，不能迎接，嘔伊自介跑進來罷者。什曉得。啓相爺，我裏世子爺言道，因路上受了風霜之苦，勿來迎接，請偌自介進去。相有這等事來，真真豈有此理！

太師無奈出轎，將身進內，擡頭一看，大吃一驚，勉強叫聲賢婿。

丑偌葛位莫非是丈人阿伯，做女婿個本該拜偌一拜，我想偌必須要回我一回，倘若做偌腰骨酸帶還，多有勿便，還是大家兩折<sup>160</sup>者。相唔，賢婿請坐。丑丈人阿伯偌老實咚，我向<sup>161</sup>來喜歡蹲椅子個。相

<sup>159</sup> “無理”，此處改寫“無禮”比較合適。但方言中用“無理”做形容詞，形容爲人處事蠻橫、不講道理，但究竟用哪個字，未有定論。如改寫作“無禮”，似乎涵義縮小。

<sup>160</sup> 兩折，兩結，互相抵消。

<sup>161</sup> “向”，原寫作“相”，今正。



嚇，賢婿一路上可平安否？ 丑 我有啥勿平安呢？ 相 嚇，賢婿在府十三經中讀過幾經了？ 丑 我落讀過個多者，喺有三官經，觀音經，血盆經，受生經，金剛經，彌陀經，楞嚴經<sup>162</sup>，蓮花經，高王經，華嚴經，太陽經，心經，還有陀羅尼多經，不是十三經嗎？ 相 不是釋家之經，是儒家之經。 丑 乃啥讀書叫唸經？ 丈人阿伯，我書勿用讀者個。 相 爲何？ 丑 丈人阿伯喺：

窮人讀書富來求 只爲金銀<sup>163</sup>滿門樓

富人讀書貴來求 只想朝中做公侯<sup>164</sup>

想我富也有貴也有 何用讀書掛心頭

阿伯爹在朝千歲做 富貴雙全勿用求

偌還是快快與我完花燭 早早撥我結並頭

相 相爺聽得心頭怒 果然形狀習下流

想在家既不讀書，你做些什麼？ 丑 我大年初一到三十日，夜一息都勿空個。 相 你有什麼可忙？ 丑 我吹<sup>165</sup>遊遊四景，高興者末殺殺人，放放火，好看好看，所以以息勿空個。 相 如此行爲，你令尊多多失訓，只怕你死無葬身之地也。 丑 乃啥死無葬身之地？ 分明話我

天勿容者，偌直結<sup>166</sup>放乃娘個狗屁，拖帶進來，佬三佬四<sup>167</sup>葛勿話起撥我成親，反來咒罵我世子爺，偌想賴婚勿成。 相 我就賴婚何妨？

天勿容者，偌直結<sup>166</sup>放乃娘個狗屁，拖帶進來，佬三佬四<sup>167</sup>葛勿話起撥我成親，反來咒罵我世子爺，偌想賴婚勿成。 相 我就賴婚何妨？

<sup>162</sup>原寫作“侖言經”，未詳。應改寫“楞嚴經”。石印本(第17頁)所列舉的十三經是：“三官經，觀音經，楞嚴經，彌陀經，花花經，高王經，血盆經，華嚴經，救苦經，妙沙經，陀羅經，還有般若波羅蜜多心經”。稍有異同。

<sup>163</sup>“銀”，原寫作“艮”，今正。

<sup>164</sup>“侯”，原寫作“候”，今正。

<sup>165</sup>“吹”，義未詳。待考。

<sup>166</sup>“直結”，“接”與“腳”同音，應改作“直腳”。石印本(第18頁)作“直腳”。注云：“直腳，實在”。

<sup>167</sup>佬三佬四，《寧波方言詞典》寫作“老三老四”，形容說話口氣大，傲慢不虛心。



丑 呸，佷個老賊，我有大笠帽<sup>168</sup>蓋頂，皇帝阿伯作媒，只怕佷個吃飯家伙<sup>169</sup>要撥儂分家者。

想我媒人是君皇 勿怕佷賴婚起心狠

倘若逆了萬歲旨 滿門抄斬吃刀亡

相 嘎嚇，真真氣死我也。

相爺此刻怒心窩 聽他言語有蹉跎

閑時冷眼觀螃蟹 看你橫行到幾何

吩咐家人忙打轎 一路之上淚如梭

不表相爺回家去 丑 世子口內罵囉嗦

有介個老勿死帶來，太歲頭上來動土<sup>170</sup>者。 吶。 什 唷。 丑 乃撥我大些毛竹火梢挖一把，把老賊趕出起，快快擺酒與我消氣消氣。 什 嘔，曉得者。

丑 世子爺此刻怒沖沖 飲酒消氣寬寬胸

不表沈標氣殺人 生 再表新來小書童

埋藏在天羅，何日見姣娥，小生王應文，如今在駱府做了書童，取名新來，見小姐花容艷色，未知才能如何，今日七位少夫人與小姐花園飲酒賞月<sup>171</sup>去了，想我內外不忌，不如大膽走到小姐房中，假意送茶，偷看小姐的詩賦，就可知道小姐的才學也。

應文想罷進房門 偷看詩賦便知情

<sup>168</sup> “帽”，原寫作“幘”，疑俗字。石印本(第 18 頁)作“大箬帽”，注云：“比喻權威最大的皇帝。”今正。

<sup>169</sup> “吃飯家伙”，石印本注(第 18 頁)云：“佷個吃飯個傢伙，你的腦袋。”亦稱為“吃飯家生”。《吳方言詞典》(第 158 頁)云：“吃飯家生，指頭顱(談諧的說法)。”

<sup>170</sup> “太歲頭上動土”，成語。比喻觸犯凶惡強暴的人，將會招致禍殃。

<sup>171</sup> “飲酒賞月”，石印本(第 18 頁)作“飲酒賞菊”。

心中暗想往前走 旦 小姐后面進房門

嚇新來，你在此做什麼？ 生 呀<sup>172</sup>，小姐，我是送茶來的。旦 因何丫環不來送呢？ 生 因大姐們不在，所以我代送來的。旦 想你內外不忌，亦可代送。 生 正是，小姐請用茶。

應文得意喜歡 香茗送與女千金

手中露出梅花戒 旦 嚇小姐一見突然驚

觀看此戒多奇異 爲何落在此人身

啓口便把新來叫 戒子與我看分明

嚇，新來，你的戒子<sup>173</sup>讓我看。 生 這是梅花戒子，請你小姐觀看。

丑 待奴看來。 丫 噲，新來哥哥，相爺客口<sup>174</sup>有事。 生 小姐我去了。梅花戒子是要還我的。 旦 好，你去罷，少刻還你。 生 曉得。

新來移步出房門 旦 小姐見戒暗疑心

奴奴想起梅花戒 贈與完英兩離分

難道他在飯店住 完英見了喜歡心

梅花戒子私相贈 終身許配兩相親

等他來討梅花戒 問明情由放我心

不表小姐心疑猜 生 再表應文進內來

小生王應文，送茶已畢，進去向小姐討還梅花戒子，二來探聽小姐的姻親，主意已定，走嚇。 丫 噲，阿姐阿妹，噲，今朝小姐個催命鬼到者。 生 什麼催命鬼，嚇，二位大姐，這句話是什麼意思？可否對

<sup>172</sup> “呀”，答應聲（《吳方言詞典》第22頁）。石印本（第18頁）作“嚇”。或疑“嚇”之誤。

<sup>173</sup> 戒子，戒指。

<sup>174</sup> 此字漶漫，待考。石印本（第18頁）作“相爺有客，嘔悟送茶去。”。

我說說？ 丫 嚇，新來哥哥，不佻聽見者，佻勿曉得細底<sup>175</sup>個，我就同佻講講，喏我裏小姐個終身，有皇帝阿伯做媒個，許配潼關沈千歲之子，名叫沈標，勿想伊個人，禮義全無，相貌醜陋，小姐勿稱心，難末<sup>176</sup>沈標來冬者，西街上打公館住哼，嘔啲相爺安<sup>177</sup>排花燭，我裏小姐，前番有話，話過個<sup>178</sup>，若還沈標到來做親，一定要尋死者個，豈非是小姐個催命鬼到者？ 生 呀，有這等事來？ 丫 噲，新來哥哥，早佻外頭勿可七搭八搭<sup>179</sup>起話，要害佻淘氣個，才話淘氣，要做佻着個。 生 是。 丫 阿姐阿妹，你我快快報與小姐知道便了。 生 嚇可惜、可惜。 丫 小姐噲，勿好者、勿好者。 旦 爲何？ 丫 沈姑爺到者，西街打公館住哼。 旦 有這等事來？ 嚇，不好了，嚇。 丫 小姐蘇醒、小姐蘇醒。

曉得我三魂不在身 正好比萬把鋼刀刺我心

罵聲昏君太無禮 不該將奴錯牽線

奴奴冤氣難伸訴 只得靠窗告青天

推開半窗告明月 只見月光照窗前

你是廣寒嫦娥女 明月清風自安然

怎生學得嫦娥女 無憂無慮在青天

惟有姣英多命苦 看來要屈死傷黃泉

<sup>175</sup>細底，內情、根源。（《紹興方言》第 318 頁）

<sup>176</sup>石印本注云（第 19 頁）：“難末，如今”。

<sup>177</sup>“安”，原寫作“按”，今正，下同。

<sup>178</sup>“前反有話，話過個”，石印本作“番話過個。”。注（第 19 頁）云：“番話，宣布。”。“反”字應寫作“番”，意謂“前番有說，說過了。”

<sup>179</sup>七搭八搭，一作“搭七搭八”，隨便跟人拉扯或發生關係。（《紹興方言》第 288 頁）

小姐對月心悲泣 生 窗外王生淚珠漣<sup>180</sup>

爲人怎好比明月 令人聽得更慘然

旦 小姐聽了言和語 呢<sup>181</sup>何人前來多插言

促住了，奴家窗前講話，何人前來插嘴？ 生 嚇，小姐，是我新來。

旦 新來，你在此做什麼？ 生 我前來向小姐討還梅花戒子。 旦 新

來你的戒子從何而來？不須隱瞞，細細說來。 生 小姐容稟：

小姐在上聽原因 新來細細告知聞

家住浙江寧波府 定海縣內王家門

爹爹廷貴爲極品 小人三字王應文

今年年方十六春 去年入泮在黌門

看潮失水到泉州 洗盡衣服被賊偷

楊媽媽相救贈衣衿 完英姑娘送飯臨

我與完英終身訂 梅花戒子私相贈

旦 小姐聽了言和語 原來官家後代根

嚇，原來是宰相公子，奴奴失敬了，既是官之後，何不早早回去？ 生

小姐嚇：

小生心想回家門 身無分文難起程

腹中飢餓身寒冷 無奈只得走街心

行過你府來留進 見了小姐貌超群

誰知小姐豪門配 小生枉費一片心

---

<sup>180</sup> “漣”，原寫作“連”，石印本(第19頁)作“淚漣漣”，今從之。

<sup>181</sup> “呢”，原寫作“促”。石印本作“呢”，今正。石印本注云(第20頁)：“呢，嘆詞”。

進來討還梅花戒 見戒元如見完英

不久就要回家去 意欲上京求功名

承蒙小姐來動問 小生句句是真情

旦 小姐聽了更心酸 即便啓口叫王生

嚇，王生，聽你說來，你與楊氏完英，結爲佳偶，想奴與完英結拜姐妹，勝似同胞，這梅花戒子原是奴奴贈送與他的，嚇。

小姐此刻淚汪汪 悲悲切切靠紗窗

完英當初也在此 結拜姐妹伴閨房

那日姐妹來分別 奴奴難捨女紅妝

梅花戒子分兩處 一隻贈他占家邦

但願姐妹重相會 一對戒子再成雙

誰知賢妹贈了你 見物思情心更傷

要奴還戒不能夠 權且留在奴身旁

奴想賢妹能有福 郎才女貌配成雙

唯有姣英多薄命 看來不久一命亡

王生嚇請你且暫住幾日 聽奴吉凶占浙江

日後完英成親日 將奴苦衷告紅妝

若說奴奴終身事 來生與你再成雙

生 應文聽了淒涼話 好言好語勸紅妝

嚇，小姐，聽你說得淒涼，勸小姐切莫自尋，想相爺年邁蒼蒼，倘有不測，那還了得，有道螻蟻尚且惜命，在生一日，勝過千年，嚇小姐

嚇。

勸你不必太傷心 令<sup>182</sup>人聽得也悲疼  
得一日來過一日 暫且權度過光陰  
小姐若還來自盡 相爺年邁怎理論  
莫說應文難捨你 豈可拋撇一日<sup>183</sup>傾<sup>184</sup>  
旦 小姐聽了言和語 難得王生勸我身  
暗想他有戀我意 介勸之言情意深  
越思越想心悲切 啊唷一口鮮血吐埃塵  
生 應文一見心膽驚 好言安慰女千金  
嚇，小姐，看你口吐鮮紅，還須保重身體要緊，請小姐回房去吧。  
旦 小姐無奈關窗門<sup>185</sup> 雙眼含淚進房門  
不表小姐身安息 生 提表應文往外行  
人人都說天有眼 我說蒼天瞎眼睛  
小姐才貌雙全女 爲何弄得這般形  
理該才子配佳人 因何對面不相親  
本該收入<sup>186</sup>回家去 難得小姐留我身  
且在他家住幾日 看其動情再回程  
想起小姐心悲切 相 相爺一見問原因  
嚇，新來，因何在此悲淚？  
生 相爺我想起苦楚，故而悲淚。 相 新來，見你常常悲淚，不像書

<sup>182</sup> “令”，原寫作“另”，今正。

<sup>183</sup> “日”字漫漶不清，待考。

<sup>184</sup> “傾”字，疑“情”之誤，待考。

<sup>185</sup> 窗門，窗戶（《紹興方言研究》第109頁）。

<sup>186</sup> 收入，石印本注云（第21頁）：“收入，收拾。「入」「拾」浙音同。”。紹興方言，“收八”即收拾。完蛋。（《紹興方言》第317頁）。“入”，或疑形近而誤。

童之輩，你到底家住乃裏？姓甚名誰？家中作何事業？細細說來，老夫好幫<sup>187</sup>助與你。 生 相爺容稟：

小人家住浙江省，寧波府，定海縣，爹爹姓王名廷貴，爹娘不生多男，單生小生一人，不幸雙親去世，多虧義僕撫養成人，小生取名應文，在年一十六歲，去年身入鬻門，只為看潮失水，多虧楊媽媽相救，小人句句實言，望相爺恕罪。 相 我道是誰？原來還是賢侄，嚇，賢侄，你令尊在日，老夫與他同庚，情以膠漆<sup>188</sup>，想你那日進府，何不真情說出？隱瞞到今，多多受辱，望勿見責。 生 好說。 相 賢侄你乃鬻門秀士，今年乃大比之年，你可上京赴考？ 生 如此年伯大人在上，小侄拜揖。 相 不敢，請坐。 生 告坐了，既蒙年伯美意，小侄上京赴考，定于明日起程。 相 如此，老夫正端行李，白銀五百刃，家人兩名，衣衿四套，家人。 什 喏。 相 明日服侍王相公上京赴考，得中回來，重重有賞。 什 曉得。 相 來呀。

什 喏。 相 備酒餞行。 什 嗻。 相 賢侄請。 生 年伯大人請。

相 賓主謙遜共談心 故舊相逢喜歡心

生 應文出席來拜別 叩別年伯上京城

中 家人肩挑行李和李 相 相爺送出大垵<sup>189</sup>門

生 不表應文上京城 且 提表閨閣女千金

命中生得犯孤凄，一世終身無靠依，奴家駱氏姣英，只為萬歲為媒，配與沈標為室，如今冤家已到，爹爹去到公館見他，如同廢物，言語

<sup>187</sup> “幫”，原寫作“邦”，以意正。

<sup>188</sup> “漆”，原寫作“泚”，疑為俗字。今正。

<sup>189</sup> “垵”，應為“墻”的俗字，因“羊”與“墻”同音。“大墻門”吳語中即“大門”。疑為俗字，待校。石印本(第22頁)作“相爺送出府大門”；石印本(第27頁)作“已是駱府大墻門”。

冲撞，我爹爹見他形狀如同禽獸，倘若奴與他完姻，總難在人間，思想起，好不傷肝人也。

小姐思想好傷心 可恨廢物到來臨  
紅顏女子多薄命 醜陋女子做夫人  
不如削髮去修行 斷絕紅塵一片心  
倘若貪生留人間 想他怎肯饒我身  
左思右想無了計 不如早早喪殘身  
雙膝跪在塵埃地 拜謝爹娘養育恩  
拜罷一番抽身起 罷罷一根絲帶手中存  
閻王注定三更死 斷然留不到五更  
小姐閨房來上吊 少 七位少夫人進房門  
大家唬得魂飛散 慌忙相救女釵裙  
姑娘蘇醒、姑娘蘇醒。丫 小姐蘇醒、小姐蘇醒。少 丫環快取參湯  
過來。丫 曉得。

旦 嚇苦嚇，姣英女 漸漸醒 哀哀痛哭  
哭一聲 奴苦命 好不傷心  
恨只恨 怨只怨 昏君錯配  
大不該 來作伐 配與廢人  
害得奴 無處訴 尋死短見  
七位嫂 何苦的 相救奴身  
想爹爹 奴終身 難以<sup>190</sup>作主

---

<sup>190</sup> “以”，原寫作“已”，今正。



看起來 小妹我 留着何用  
到後來 他迫婚 奴命歸陰  
千不死 萬不死 總然一死  
可憐奴 女姣英 痛苦萬分  
看後來 我的命 究作何論

少 勸姑娘忍耐纔是，萬事皆有天數，緩緩設計便了，姑娘嚇：

七位夫人勸姑娘 切莫悲傷哭淒涼  
沈標雖然來到此 緩緩拖延婚期長  
姻緣雖是君王定 想定妙計不外揚  
還須加意來保重 靜養身體莫愁腸

不表姑娘閨房事 丑 再表沈標去私訪

奉命來完姻，老賊太欺人，學生沈標，奉阿伯爹之命，到駱府成親，住在公館，勿想老賊，前來拜望與我，爭鬧一場，聽伊口氣，有賴婚之意，我有皇帝阿伯做媒，勿怕偌老賊賴婚，我想老賊，嘔丫環調包來與我成親，我乃會曉得？嘎，有者、有者，我勿如扮作平民模樣，私行到伊個花園，倘若小姐來遊玩花園，撥我看個明白，日後伊想調包，我就可以認出真假，勿錯，仰我獨個人，到伊個花園裏起走走罷者。

沈標想罷就動身 扮作平民一般形

搖搖擺擺勿留定 來此已是花園門

噲，到者，園門還勿關，仰我進去，喂、喂，一臺牢門介小，我人大，一隻腳軋偏者，嘎，還好還好，總算走進帶者，只見樓臺亭閣、秀竹

蒼松，還可看得，且住，我在此觀看，才話撥佢下等人看見，認得我個，因我滿身認號<sup>191</sup>到底，嘎，冇者、冇者，葛里有個秀竹亭帶，不免去躲一躲，偷看一番是者。

沈標進了秀竹亭 專<sup>192</sup>等佳人到來臨

不表沈標亭中等 丫 要表丫環一眾人

前世勿肯修，今世做丫頭，福氣也勿邱，吃個油來穿個綢，住個都是走馬樓，三餐茶飯伸伸手，四季衣衫薄薄周，常常去到花園遊，香花聞聞透心頭，介個福氣也勿邱，下世還要做丫頭、做丫頭。阿姐阿妹噲，我裏個小姐，早要尋死，晚要尋死，虧得七位少夫人，都守在小小姐房裏，勿起遊玩花園，輪流看管小姐吭，早要茶者，晚要燕窩者，真當活撥撥葛吃力殺者，七位少夫人勿起遊玩花園，陪得昏頭搭腦者，咁今朝丫頭要假扮夫人小姐，去遊玩花園。淨<sup>193</sup> 乃葛打扮法呢？

丫 喏，少夫人房裏個丫頭打扮少夫人。淨 打扮小姐要哭個，叫誰來打扮小姐？ 丫 嘔癩頭婆桂香打扮小姐，還有四個，仍舊當丫頭，才話嘔咚勿應，要罰銀子二刃。淨 介末說話要算數個，活帶勿起遊。

死得腳筋抽。 丫 活帶勿起嬉。 淨 死得烏比烏比，大家打扮起來。

一眾丫環偷衣衿 桂香打扮假千金

黃頭髮挽起時新髻<sup>194</sup> 金釵一對左右分

八寶珠環掛兩邊 水粉好像石灰瓶

<sup>191</sup> “認號”，石印本作“認頭”，石印本注云(第23頁)：“容易被人識別出來的特點記號等”。

<sup>192</sup> “專”，原寫作“占”，音同而誤，今正。

<sup>193</sup> 下面四句都沈標的表白，故“淨”字應寫作“丑”。

<sup>194</sup> “髻”，原寫作“吉”，以意正。此句石印本(第24頁)作“黃松挽個時新髻”。

身穿綉花官祿襖 八寸花鞋足下登  
手上戴付黃金鐲 好像一個白吼精  
假裝小姐哭啼啼 丫 來了七位假夫人  
噲，姑娘，佢爲啥哭個？ 丫 我有心事吉<sup>195</sup>。 丫 有道靜坐要生悲，  
何不<sup>196</sup>到後花園桂花樹下去坐坐，也可消愁解悶。 丫 如此，嫂嫂請。  
丫 姑娘請。  
假扮姑嫂出閨門 丫 一眾丫環後頭跟  
一齊來到花園內 觀看花景甚軒昂  
七位少夫人看花景 丫 小姐只是暗傷心  
秋天樹枝多殘敗 梧桐葉落好淒惶  
想到奴的終身事 乃有心思花景賞<sup>197</sup>  
四面八方無心看 暗暗流淚落胸膛  
一齊來到花亭上 丫 假夫人啓口把話講  
嚇，姑娘桂花亭上請坐。 丫 嫂嫂們請坐。 丫 嚇，姑娘，你看桂花  
盛開，請姑娘折幾枝桂花，可做蟾宮折桂<sup>198</sup>。 丫 嫂嫂嚇：  
奴見桂花淚漣漣 唯有奴命苦十分  
有福之人做夫人 蟾宮折桂步步升  
哥哥在朝爲官職 七位嫂嫂受皇恩  
小妹配與廢人身 哪能爲官在朝庭  
奴奴哪有皇恩受 怎做蟾宮折桂人

<sup>195</sup>石印本注云(第24頁)：“吉，語氣詞。”。“吉”或寫作“唧”。唧係紹興方言的語氣詞，有不容別人多加干預語氣(《紹興方言》第26頁)。

<sup>196</sup>“不”，原寫作“必”。據石印本正。

<sup>197</sup>“賞”，原寫作“償”，以意正。

<sup>198</sup>成語。蟾宮，指月亮。折桂，比喻科舉登第。

想到此處心悲切 丫 假夫人重又說原因

嚇，姑娘，你看半天鴻雁飛來，作字成對，倒也看得。丫 嫂嫂嚇：

奴看鴻雁哭啼啼 對對成雙擺字飛

成對可比兄和嫂 孤雁可比薄命人

小妹哪有成雙日 心中思想好孤淒

可憐終身不落意 不如削髮爲僧尼

說罷轉過假山去 丫 夫人啓口把話提

嚇，姑娘，海棠亭上請坐。丫 嫂嫂們請坐。丫 嚇，姑娘，你看海

棠、梨花，倒也好看。丫 梨花乃是粗蠢之花，如何對種？小姑倒要

提詩一首。丫 倒要請教，丫環取筆硯過來。丫 曉得。

詩曰：

二八佳人巧梳妝 紅顏薄命配醜郎

世上多少不平事 可恨梨花對海棠

丫 嚇，姑娘，你不愛梨花，把它砍掉了。丫 喂，阿姐，小姐正當

聰明，海棠姣嫩，比得自者，梨花粗蠢，比得沈姑爺者，梨花看勿入

眼，將伊砍掉，才話沈姑爺看勿入眼，也好砍掉的麼？丫 噲，丫頭

噲，偌道我真當要嫁撥沈標個活畜生者，皆因皇帝阿伯做媒，我出于

無奈，沈標勿來做親，不伊便宜者。丫 才話來做親，乃葛者？丫 丫

頭喏：

無奈與他兩成雙 紅綠牽進入洞房

我竟假裝三分醉 他是酒醉勿防備

我末袖口裏，藏一把尖刀，等伊來洞房，我實格殺殺殺三刀戮伊殺。

丫 咳才活戮殺者，偌小姐要守空房者。 丫 我勿肯守個好嫁撥新來個。

兩邊<sup>199</sup>主婢話談講 言來語去喜非常

遊玩一番<sup>200</sup>進閨房 丑 沈標聽得魂飄蕩

嚇呀，且住，我來到花園察訪，只見駱氏小賤與七位阿嫂遊玩花園，只見小賤，三分像人，七分像鬼，說什麼不肯從我，倒也罷了，還要將尖刀戮死與我，嫁與新來，想新來乃是書童之輩的名字，我不免即速回家，告與阿伯爹知道，將小賤退了是者。

罵聲駱氏賤妖嬈 偌要害我命勾消

我要回轉潼關去 報與阿伯爹得知曉

嘮吶。 什 唷。 丑 我老媽勿討者，與我收入行李，回轉潼關，速速起程。 什 曉得。

什 家人奉命不留停 收入行李下船行

丑 沈標思想怒冲冲 罵聲小賤天不容

可恨妖嬈心太兇 離退小賤心放鬆

幸虧老天來保佑 還可回家見父翁

宣到此處停三回 大聚團圓下回云

千 我兒去完姻，日夜掛在心，本藩沈榮，命我兒去駱府完姻，今日不知何故，心驚肉跳，好生難解。 什 報告千歲，世子爺居來者。 千

<sup>199</sup> “兩邊”，疑有誤。石印本作“西貝”。石印本注云(第25頁)：“西貝，賈字的拆寫。賈，假的同音字。”。

<sup>200</sup> “番”，原寫作“反”，今正。

什麼？我兒回來了？命他進見。 什 曉得，世子爺有請。 丑 只望去完姻，老賊他欺人，千歲阿伯在上，做兒子個拜揖者。 千 兒嚇罷了，你爲何這般光景回來？ 丑 嚇，阿伯爹喏：

那日奉命到他鄉 可恨駱賓太不良  
到我公館來辱罵 他竟與我鬧一場  
聲聲要把婚來退 勿肯與我結鴛鴦  
孩兒打扮去私訪 他家花園去察詳  
來了駱氏不賢女 又比駱賓狠心腸  
他說道若還洞房花燭夜 當夜要撥我見閻王  
還要嫁撥小新來 相貌醜陋不像人  
葛種賤人有何用 還是快快起退婚

阿伯爹噲，看伊相貌醜陋不堪，良心兇狠，還是快去退婚是者。 千 兒嚇，你且進去，爲父與你另配如花似玉之女。 丑 多謝阿伯爹。 千 嚇，駱賓，嚇，駱賓，你有如此大膽，竟敢辱罵世子爺，且住，待我先將小賤人離退，再奏聞聖上便了。

沈榮手執無情筆 字字行行寫情節  
一封退書來寫好 啓口就把家人叫  
家將。 淨 喏。 千 我有書信一封，速往泉州府晉江縣駱府投遞，不要回文，速去速回，不得有誤。 淨 得令。 千 來呀。 什 喏。 千 速備行李，起道進京。

慢<sup>201</sup>表千歲上京城 淨 要表家將在路行

---

<sup>201</sup> “慢”，原寫作“曼”，以意正。下同。

曉行夜宿無耽擱 來到泉州一座城

不日進了晉江縣 到了駱府大牆門

啓口就把門官叫 千歲有信到來臨

交代書信回身轉 淨 門官進內報事情

急忙進內，啓稟相爺，潼關千歲有書信一封呈上，來人去了，不要回

文。相 待我看來。嗚，原來是一封退婚書，且住，待我進內，與賢

者們商議，來至內堂。少 公公在上，媳婦萬福。相 嚇，賢者一旁

坐下。少 未知公公進來有何吩咐？相 非爲別事，今日沈榮有書信

到來，爲公拆書觀看，原來是一張退書，還要爲公上殿面聖。少 嚇，

公公，既是退書，就可爲憑，面聖何妨？相 對，面聖何妨？如此爲

公去也。少 媳婦們候送。相 來。什 唷。相 打道進京嗚。

慢表相爺上京城 且 要表閨閣女千金

聞知沈標婚來退 心中暗暗喜十分

忽然想起梅花戒 要接完英到來臨

回言就把嫂嫂叫 小姑有言告知聞

嚇，衆位嫂嫂，我想完英妹妹，去接他到來，敘談心情，未知嫂嫂，

尊意如何？少 姑娘言之有理，丫環你去叫家人打轎，到楊家接二小

姐到來，不得有誤。丫 丫環曉得。

丫 丫<sup>202</sup>環奉命不留停 將言囑咐衆家人

家人備轎去如雲 來到楊家說分明

標 天標聽了多明白 進房說與女兒聽

---

<sup>202</sup>原無“丫”字，據石印本補。

英 完英姑娘遵父命 腹中暗暗喜十分

拜別爹娘身上轎 一路蹈蹈<sup>203</sup>進府門

丫 丫環急忙來通報 少 姑嫂一齊出來迎

二姑娘請進內堂。 英 衆位嫂嫂請。 旦 賢妹請。 英 姐姐請。

少 姑嫂謙遜坐定身 丫 丫環即便送香茗

八位姑嫂齊動問 在家大小可安寧

英 完英姑娘回言答 嫂嫂姐姐在上聽

爹娘在家都平安 奴奴也是體安寧

少 夫人吩咐忙擺酒 款待二姑女千金

丫 丫環急忙擺酒宴<sup>204</sup> 衆 大家謙遜坐分賓

酒至數杯筵席散 旦 姐妹挽手進房門

打發丫環出房去 關門啓口問一聲

小妹嚇自從姐妹來分別 惟恐日反<sup>205</sup>兩疏情

奴有一對梅花戒 一隻贈與賢妹身

原說姐妹重相會 戒子成對兩安心

奴奴一隻今還在 賢妹一隻可在身

英 完英聽言吃一驚 姐姐問戒爲何因

心中思想生巧計 就把姐姐叫一聲

姐姐嚇只因家父少錢用 戒子兌換雪<sup>206</sup>花銀

旦 姣英聽說怒氣生 賢妹你瞞三瞞四不該因

<sup>203</sup>蹈蹈，石印本(第28頁)作“滔滔”。

<sup>204</sup>“宴”，原寫作“晏”，今正。

<sup>205</sup>“反”字，待考。石印本作“惟恐日遠兩疏情轉”(第28頁)。

<sup>206</sup>“雪”，原寫作“冫”，今正。下同。



怎說令尊少錢用 怎說兌換雪花銀

你今天休得來瞞我 你的戒子在我身

梅花戒子成雙對 請你自己看分明

英 嚇，完英一見魂不在 想奴乃日贈王生

因何落在小姐手 不顧羞愧問一聲

請問姐姐何處得 多少銀子買進門

旦 賢妹嚇你花言巧語來騙我 休想為姐說真情

英 嚇姐姐小妹怎敢隱瞞，實言奉告便了。

勸姐切莫怒氣生 小妹一一告衷情

乃日家母到河邊去 遇見一位小書生

家住寧波定海縣 三字名叫王應文

今年年方十六春 十五歲上入黌門

只為看潮身失水 浸在河中無計生

家母一見將他救 將他留住贈衣衿

小妹與他終身訂 梅花戒子贈王生

爹爹將他來背出 奴奴是望斷秋水無音信

小妹真情來說出 還望姐姐說其情

旦 你說書生王應文 那日路過後花園門

卻被我父來看見 將他留進在府門

送茶露出梅花戒 奴奴見了問其情

他將真情告訴我 為姐才知內中情

後來家父得知情 叫他上京趕功名

奴想賢妹有福份 許配乃稱心如意好郎君

唯有姣英薄命人 不及你賢妹半毫分

英 姐姐嚇你是豪門多情女 相府門第閨千金

郎才女貌閨千金 鳳冠霞帔<sup>207</sup>做夫人

慢表閨閣情由事 皇 再表唐王坐龍庭

河清海晏，國泰民安。淨 億<sup>208</sup>。王 寡人大唐天子是也，自從登基以來，刀槍入庫，馬放青山，風調雨順，國泰民安，此乃一朝之洪福也，今當大朝日期，侍兒，宣放龍門。

內 萬歲有旨，宣放龍門。淨<sup>209</sup> 億。臣<sup>210</sup> 臣等見駕，吾主萬歲。王 眾卿平身。臣 萬萬歲。王 眾愛卿，今乃大朝日期，有事奏上，無事退班。千 臣平西王沈榮，有本啓奏。王 奏來。千 臣啓萬歲，臣子沈標，蒙聖恩作伐駱賓之女，配與臣子爲室，臣子去到他家成親，駱賓不允倒也罷了，反而辱罵臣子，有賴婚之意，望吾皇降旨。

王 大膽駱賓，你女寡人爲媒，配與平西王爲媳，你敢圖賴婚姻，該當何罪？相 臣啓稟萬歲，非是微臣有賴婚之意，乃沈榮將我女離退，今有沈榮親筆退書呈上，請萬歲龍目觀看。王 大膽沈標<sup>211</sup>，你完全是顛倒是非，混淆黑白。帥 當有黑元帥出班奏道，嚇呀，萬歲嚇，沈榮父子有謀叛之心，意欲高麗借兵十萬，殺進中原，要奪取錦繡江山，現有私通反書呈上。王 待寡人看來，呵，可惱可惱，大膽沈榮、大膽沈榮，寡人何等看待與你，你起不良之心，宣武士上殿。

<sup>207</sup> “帔”，原寫作“佩”，今正。

<sup>208</sup> 待校。或改寫“噫”。下同。

<sup>209</sup> 此字原寫在“億”字後面，今以意正。

<sup>210</sup> 原缺“臣”字，據義補。

<sup>211</sup> 沈標，應寫作“沈榮”。

什 在。王 將沈榮父子綁<sup>212</sup>在殿外，本該斬首，念其昔<sup>213</sup>日平西有功，從寬發落，嚴押邊關充軍，永不回中原，立即起程。內 領旨。王 黑元帥出首有功，封爲威鎮將軍，永鎮潼關。帥 領旨。王 駱愛卿過來聽旨。相 臣在。王 待等大典，挑選才貌雙全之人，招爲東床，寡人爲媒，與姣英配完花燭，謝恩退班。

相 謝主龍恩。

駱相父子出朝門 官 再表考期到來臨

考官登堂來坐定 舉 舉子紛紛進場臨

官 奉旨考奇才，舉子進場來，三場文字端，立選狀元郎，老天翰林院吉天祥，奉旨考取天下奇才，來嚇，把貢院門大開。生 嘎嘎，大開貢院門。官 生員各分天地字號。生 生員天字號。丑 學生地地寶。

官 天字號上堂領對。生 請太師出題目。官 風吹馬尾千條綫。生 對就了，日照龍鱗萬點金。官 好奇才，龍虎日看榜。生 謝太師。

官 地字號領對。丑 請太師吃牛肉。官 出題目。丑 才個才個，出題目。官 前面一隻雌雞，後面一隻雄雞，追來以追起<sup>214</sup>，好像一對夫妻。丑 早<sup>215</sup>死者，剛做壽生經一卷，來帶者。前頭一隻雌狗，後頭隻雄狗，好像老太師個娘舅。官 呸，文字下流，趕出貢院。丑 喂，做我實介趕出者，我三年勿來考，考場出青草，還實居起賣大餅

<sup>212</sup> “綁”，原寫作“邦”，今正。

<sup>213</sup> “昔”，原寫作“惜”，今正。

<sup>214</sup> 追來以追起，意謂追來又追去。

<sup>215</sup> “早”字，據義，疑爲“找”之誤。

油條起。官舉子文字好，上殿奏皇朝，來嚇。什唷。官<sup>216</sup>起道上朝。什嘎嘎

官不表考官上朝庭 王要表唐王寫詔<sup>217</sup>照文

萬歲御筆來親點 頭名狀元王應文

榜眼出在山東省 探花出在浙江人

生狀元步入金堦上 臣叩君王萬萬年

臣新科狀元見駕，我主萬歲。皇平身，殿元公見寡人因何不擡頭？

生容貌醜陋，不敢擡頭。皇容貌乃是父母生就，膽大擡起頭來。

生請萬歲龍目觀看。皇妙呀，狀元才貌雙全，寡人龍心大喜，奉旨遊街三天，狀元所奏，寡人俱已明白，愛卿爲看潮失水，多虧楊天標之妻相救，封楊天標七品官帶，義僕王德扶養愛卿有功，欽賜八品官帶，卿妻楊氏完英封爲二品淑德夫人，朕爲媒駱賓之女，駱氏姣英，配與狀元爲室，封爲一品淑德夫人，卿父母身居極品，愛卿祭祖歸家，奉旨完姻，事畢來京受職，謝恩去罷。生萬歲萬歲萬萬歲。

狀元謝恩出朝門 心中歡悅喜非常

多蒙萬歲爲月老 駱氏姣英配成雙

上京得中爲魁首 奉旨祭祖轉家邦

不表狀元回家事 相提表相爺把話講

將情說與衆人曉 淨闔家歡悅喜非常

相內邊家人聽着，你們速備轎子去接楊天標夫婦到來。

什<sup>218</sup>嘎嘎

<sup>216</sup>原缺“官”字，據義補。

<sup>217</sup>“詔”，原寫作“照”。石印本作“君王傳旨宣詔文”（第29頁），今從之。

淨 家人奉命去如雲 來到楊家說原因

標 天標夫婦多歡喜 夫妻雙雙就起程

行來已到相府地 相 相爺即忙出來迎

標 相爺在上，楊天標夫妻叩頭者。 相 不敢，請起。 標 相爺呼喚

楊天標夫婦進府，有何吩咐？ 相 相爺把前後情由細說一遍。 標 天

標夫妻聞言，好不歡悅人也。

難得皇帝做媒人 阿囡配與狀元身

多蒙相爺來擡舉 接我夫妻進府門

揀定黃道並吉日 一同送親去完姻

不表送親情由事 生 再表狀元到家門

淨 報王伯伯，相公得中頭名狀元居來者。 外 胡說。 淨 真當居來

者。 外 有這等事來？真真謝天謝地，待我前去看來，來至高廳，相

公在上，老奴王德叩頭。 生 老人家請起，難得你忠心義膽，老人家

受小生一拜。 外 嚇，這是使不得的，豈非要折死老奴了？

相公作別到如今 老奴在家好傷心

總道今生難相會 誰知今日又重逢

相公嚇何人前來相救你 老奴跟前說仔細

生 狀元即便回言答 就把王德叫一聲

應文就把情由訴 一一從頭說分明

自從看潮來失水 在潮滾入泉州城

多蒙楊媽來相救 與他女完英訂終身

---

<sup>218</sup>原缺“什”字，據義補。

後來進入駱相府 內外出入書童稱  
多虧駱相爺來盤問 我將真情說他聽  
相爺聽了多歡欣 贈我盤費上京城  
考試得中第一名 奉旨祭祖轉家門  
虧你一片忠心義 你是我家大恩人  
不表主僕來談講 什 家人進內報事情  
啓報狀元老爺，外面文武官員齊到，有名帖呈上。生 吩咐下去，叫  
文武官員回衙理事，請定海縣鄭大人進見。什 是，大人吩咐下來，  
文武官員回衙理事，請定海縣進見。生 父台請，晚生有禮。鄭 不  
敢，狀元公呼喚卑職有何貴事？生 請父台潮神殿代爲非心修理，完  
畢之後，待晚生拈香。鄭 如此領命，就此告退。生 候送。鄭 打  
轎。

知縣告別轉家門 吩咐工匠修殿庭  
不多幾日已修畢 生 狀元上殿了還願心  
祝告已畢回家轉 什 家人重又報事情  
報，駱相爺與楊老爺、太太送小姐到。生 大開正門出外迎接。二位  
岳父母請。標 狀元女婿大姑爺請，咳，人人都說狀元生得好，仰我  
來瞧一瞧，喂，葛家主婆，我看葛個狀元老爺好像舊年頭八月裏個鳳  
陽婆呢。丑 佢個老冤家個眼力才好。生 內邊家人聽着，上掛燈結  
彩，下紅毡鋪地，點起龍鳳花燭，傳儂相<sup>219</sup>。

賓 來者來者。我做賓相，喉嚨<sup>220</sup>勿響，看見魚元<sup>221</sup>兩隻眼睛殺亮，伊

<sup>219</sup>儂相”，原寫作“賓相”，今正。下同。

<sup>220</sup>“嚨”，原寫作“龍”，今正。

話半斤，我話八刃，伊話桐瀘，我話浦洋，伊話銅冲，我話烏槍，伊話財神，我話壁牆，大家要硬長<sup>222</sup>硬長，介末我來讚<sup>223</sup>禮者。伏以水上一對金雞浮，鳳凰一對結鸞儔<sup>224</sup>，山水相逢同羅帳，一夫兩婦樂悠悠<sup>225</sup>，賓相好言讚紅妝，三請駙馬入華堂，請拜。

生 四拜天來四拜地 回身四拜祖先堂

再拜堂上老大人 牽紅移步入洞房

光陰迅速容易過 旦 兩位夫人產兒郎

每位夫人生一女 又有兩位公子郎

慢表得子情由事 旦 姣英夫人把話講

嚇，賢妹，想奴萬歲為媒，錯配沈標，總是前世宿債之故，受了多少磨難，如今我看破紅塵，以修來世。完 姐姐，小妹早有此心，不如一同修行。正說之間。生 狀元步入內堂。嚇，二位夫人講些什麼？

旦 嚇，相公，想是為人之苦也。

可嘆為人不肯修 受苦受難變骷髏

為人可比三春草 作惡行兇不到頭

奴今看破紅塵界 奉勸相公早早修

生 狀元即便回言答 下官任滿回家修

狀元任滿歸家，夫妻三人，依歸同修。標 楊天標夫婦，見兒婿們修行，也覺回心轉意，同修佛道，壽數已盡，無疾歸天。生 狀元如親

---

<sup>221</sup>魚元，義未詳。

<sup>222</sup>硬長，義未詳。

<sup>223</sup>“讚”，原寫作“贊”，今正。下同。

<sup>224</sup>“鸞儔”，原寫作“鸞綢”，今正。鸞儔，即鸞鳳儔，指夫妻。

<sup>225</sup>“悠”，原寫作“幼”，疑“幼”之錯字。悠與幼，音近而誤，今正。石印本作“東西謙遜樂綢繆”（第31頁）。

治喪，殯殮安葬歸山，夫妻三人修到三十年後。神 太白星君接到王旨一道，聽喧讀詔曰，今由王應文是文曲星下凡，投入紅塵，駱氏姣英、楊氏完英，是月宮仙女下凡，投入紅塵，勸夫修道，同歸原位，兩位公子，出仕爲官下去公侯之位，蘭桂芬芳，雙英寶卷前後四回，恩怨分明，忠孝雙全，大聚團圓，拜謝皇恩天地也。

雙英寶卷宣完全 月再圓來花再鮮  
應文是個文曲星 大罵潮神有牽連  
兩位夫人月宮女 墮<sup>226</sup>落紅塵受熬煎  
後來勸夫同修道 仍作嫦娥月裏仙  
留下兩位賢公子 也是唐朝伴君前  
駱相後來善心堅 修功圓滿上西天  
王德蒼頭多仁義 壽高歸天好安眠  
天標夫婦後修道 無病無疾升西天  
沈榮父子多陰險 邊關充軍實可憐  
阿彌陀佛多念念 勿費工夫勿費錢  
一言能積無量福 千金難買子孫賢  
不信但聽雙英卷 不成菩薩也成仙  
今日宣部雙英卷 一年四季保平安

---

<sup>226</sup> “墮”，原寫作“隋”，今正。



双英空卷初展开

善男信女虔敬听

恭闻双英空卷名曰梅花戒

出在大唐永徽年间

提表浙江省宁波府定海县却就一人

小生姓王名在文在年二

父亲建贵在日官居首相

少系张氏浩受皇封

不幸双亲去世

单生小生入洪门

这也不在话下

且喜家财豪俊

田园广阔小生立志

学道不能上达

半烦恼想合那

恭请神下降坛前

增福延寿永元灾

恭请双英空卷名曰梅花戒

出在大唐永徽年间

提表浙江省宁波府定海县却就一人

小生姓王名在文在年二

父亲建贵在日官居首相

少系张氏浩受皇封

不幸双亲去世

单生小生入洪门

这也不在话下

且喜家财豪俊

田园广阔小生立志

学道不能上达

半烦恼想合那

妾意欲登斗江边看潮一回叶相公该不去才好想相公未曾  
见过潮况且是日愁闷去房就去看斗也俊得须至早去早  
回当老奴在家悬念这宁自然王兴就家往边一走暗说  
① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿

路上行人多热闹  
王兴书童随后跟  
人挨人挤闹盈  
年少力壮向前行  
老扶杖境走  
不戴香斗大江边  
书童店口把活沱

喂相公江边斗看潮时辰还勿斗倘若潮神度去游玩  
才活潮兴起来者家令来吓诺尔如此你在此等候  
家斗商内去游玩一看便了

应文进了潮神度

现看神前多供奉

潮神菩萨何灵志

内中必定有缘古

法出商祝同既因

商祝那里来者

相公何道出来有何吩咐

回你潮神大王有何灵验

百姓们因何如此敬

相公潮神大王十分灵验

求男得男求女得女故而善男

信女都来叩求许愿

有这寿星来嘎可恼想神

明也贪人愿非是真神也

应文所说气咆哮

只所男女许多言

人许愿与求子

尽是泥塑木雕全

法出商祝同既因

商祝那里来者

相公何道出来有何吩咐

回你潮神大王有何灵验

百姓们因何如此敬

相公潮神大王十分灵验

求男得男求女得女故而善男

信女都来叩求许愿

有这寿星来嘎可恼想神

明也贪人愿非是真神也

应文所说气咆哮

两太阳中火直冒



官府貪極該有罪

小生有日功名顯

管叫泥身未拆毀

正在商中幸：怒

王共老童呼看潮

喂相公：潮未着快：看潮起者

潮以庄：再來訓誨与你

也是无用了

王什双：出看門

不表在文看潮至

手执生死簿坐起攝魂位

何况神聖掌天曹

就將此子查当期

又將大戾火未燒

王共老童呼看潮

那神吓那神待我看

相公伊家沈沈不睡尔

吓狗才多讲家们看潮去也

吓唬海

嫌看潮头層層

提表神聖感冥

王执掌家为光

13

① 站立江边未观看  
② 直又一阵狂风起

③ 远望潮头白如良  
④ 将他吹落江中心

吾看潮神是也奉玉帝勅旨执掌三界上管凡雲雷雨中  
祭水府神祇下淘民間禍福夫妻姻緣这也不在話下今  
有王在文在吾度下：聚凌吾神定才可略若不显圣他那  
晚吾神灵驗吓想王在文乃是文曲星君下凡他的姻緣  
落在福延泉州府不免喚秀直文：直文何在 在 今有  
王在文乃是文曲星下凡你将他吓潮第斗福延泉州府  
看江县地界：多落沙滩不准伤他性命速来复旨 合卷

12

① 第王共任前行  
② 一路啼哭斗江边

③ 一路啼哭斗江边

果然吓的 王伯：办醒……吓不好了  
听得此言魂魄胆惊  
曾记相公托咐家  
不该今日看潮去  
谁知看潮起福端  
王伯：香火何人接  
思想性由心悲泣  
且任想承相公身仍潮中待家去斗江边收其尸首归  
家王共任前行

① 在文子在波浪内

② 王共唬涛魂飞散

吓好者：岸上众位叔：伯：吟：家里相公看落荡里者

被潮水尔涛起者：众位大叔救：若还救起幸有赏

吓介了大江之中涉浪滔：如何救得：救勿起了

吓相公：吓且任：想家在此啼也是枉然还是板与王伯：救

王共啼哭占回是

一轻未斗府门首

王伯：勿好者： 为何 相公看潮板潮水尔涛起者

你待怎讲 相公被潮水尔涛起者 当正 当正 果然

① 波浪远流不知悔

救命：叫连声

王共：叫连声

王共：叫连声

王共：叫连声

王共：叫连声

王共：叫连声

王共：叫连声

王共：叫连声

王共：叫连声

王共：叫连声

王共：叫连声

王共：叫连声

王共：叫连声

王共：叫连声

王共：叫连声

王共：叫连声

王共：叫连声

王共：叫连声

王共：叫连声

王共：叫连声

王共：叫连声

王共：叫连声

王共：叫连声

王共：叫连声

王共：叫连声

王共：叫连声



11 現看戶省元踪跡  
你好：在崇政寺邊

心中好似滾油煎  
早晚看潮傷黃泉

設去塊牌在厅前  
孤單寂寞淚珠連

再表夜叉來復曾

神 潮神大王笑開顏

另表 福延捕魚人

一生元注計 柯莫者生意 但元生意好 勿令傲肚皮 今朝

潮去退 大家柯魚起 大魚柯 大家笑喜 今朝

系叫三唱阿哥 今朝是 一月 十八 大朝 汛

潮去退者何潮去魚起者 好阿哥让来扎個 俚起搖  
船阿哥对面汇水坊里有个大旋窩帶一定有大魚冬  
让家来扎一网 来帶者着力相起来 喂阿哥勿对 勿  
是更是个入 阿哥用落起 阿哥有句话人命关天  
才活好救 伊活来能造福万代 我看伊人手里个脚还  
未第跳来 伊不伊沙滩里起拖起吼 旺家刘过起 伊  
把伊拖起沙滩一定为活个拖来拖起帶者伊还是再柯魚起  
不表親人柯魚起 再表在文来苏醒  
睁开双目来觀看 犹如盤中一般形

而且任 想家明 在早夜看潮 因何来斗沙滩之上

身上尽是咸水泥沙看那旁有依老人家在此 待家前去问  
来 前番老文话了 法了 家借問 此地什么地方  
此地是福延泉冲行增江地界 往这里进去 就是西  
门了 承蒙老文指教 好说 而且任家明 记得在早夜  
看潮 因何来斗福延地界 这有奇了

家在早夜把潮看

莫非家把潮神駕

将家滚斗泉冲地

双膝跪在尘埃地

伴依弟子回家西

因何来斗福延做

难道神至显感灵

神圣护佑命曲存

深 四拜告神明

重修庙宇修塔金

且任想家身上尽是咸水泥沙看前面有架淡水小河看四下  
无人待家将衣衫脱下 趁着想家将衣衫晒在桥上  
等斗晒燥 穿着再走 待家来脱个衣衫便了

应文即使脱衣衫

晒在桥边去洗身

不表在文来洗身

卷中另有不良人

家做偷儿本多交 剪绺挖包勿用刀 偷来良子撒在腰吃  
沈吃肉勿汇筋 自家非别白望光便是 想家爹娘造港  
带家当唯有一票 故总跪起拜此出意来尔 好做反  
九 昨日子又输得一票 故总跪起拜此出意来尔 好做反  
赌本钱 望带过起 百年桥高头 有公族新金新衣裳



一、雨第一定是老天爷菩萨道派童子靴光者。来不做做赌  
 本尔。你家走带过起。斜得伊来是者。吓妙呀好活好快活  
 嗒葛息辰光快活快活。打卷不慌勿快活者。岸上你位仁  
 兄。这套衣服是尔内。你勿动也。晒晒尔穿穿的。做好穿  
 尔也好穿了。你莫非是贼。贼斗勿实贼。不过尔三六手  
 家戏赌输板者。同借借。做。赌本。赢来还借是者。吓不  
 好了。借落勿好。家落曼好。尔地得起来是者。虚  
 望光。抱衣喜欢欣。走斗赌场来反本  
 不表望光。赌输板者。再表在文好仿佳  
 可恨。贼子依良心。害才露体难见人

只见面有河埠。速。前去求救星  
 不表在文河埠浸。号表天标当坊人  
 门前官褂三尺布。靴未靴起抬。顾主。归年做得十况况。斗有九  
 似酸如醋。自家非别。杨天标。便是一向在福建泉州府晋江  
 县讨之。尔家主婆。乃是织兴府山阴县人氏。夫妻两个头指  
 望生个白胖。儿子。母大起来好替家做。厨房。跪。在堂  
 乃晓得个主婆肚皮勿涨气。生得个团并。尔想大家生个  
 团斗勿歪。尔想经济人家。生个团直脚完者。以此尔不  
 仔的团取名叫阿完。尔在路相村隔壁开并饭店生意  
 斗也易息。相府有七位少爷在京里做官。家里有位

少夫人。还有一位小姐。常来逛花园。尔家主婆。嘴口  
 生得活动。问长问短。一至至。相府。梳来走熟者。葛位小姐。见叫  
 阿团。有几分。并正。尚在相府。倍伴。问阿团。有多少年。纪  
 叫舍了名字。叫阿团。话叫阿完。今年有十六岁者。小姐。话者  
 大姑娘。叫阿完。难听了。小姐。话完。字下。底。尔个。名字。呢  
 起。就好听者。小姐。话尔个。名字。叫。阿英。呢。两个。都。是。英  
 变成。双英。不如。姑。拜。姐妹。同。小姐。同。阿。同。住。同。学。针。线。外  
 加。同。学。文。章。尔。里。阿。团。前。日。子。居。住。者。路。小姐。送。伊。满  
 房。摆。设。料。齐。全。真。有。缘。看。得。阿。团。也。斯。文。一。脉  
 者。人品。生。得。越。加。漂亮。者。完。得。人。家。还。勿。许。媒。婆。生

门框。都。歪。踏。断。者。正是。乃。高。米。勿。配。低。米。勿。对。尔。话。阿。团  
 吃。五。不。借。住。大。门。者。闲。话。少。说。天。已。经。醒。者。让。尔。五。做。是  
 时。面。者。呢。个。家。主。婆。淘。米。洗。其。起。者。阿。完。拉。了。娘。吃  
 天。已。经。是。者。借。得。淘。米。洗。其。起。者。尔。个。老。婆。家。尔。刚  
 刚。摆。得。盆。水。来。帮。洗。脚。呢。尔。乃。高。米。洗。起。还是。呢。叫。阿。团  
 起。阿。团。吟。暖。则。舍。阿。团。吟。做。娘。个。刚。高。得。盆。水。来。帮  
 洗。脚。乃。尔。个。家。主。婆。淘。米。洗。其。起。者。尔。一。时。勿。起。借  
 代。娘。个。老。洗。来。女儿。晓。得。吓。甚。吓。借。在。来。帮。在  
 眼。里。水。晚。高。米。常。洗。来。看。呢。咳。尔。好。个。老。吓  
 完。无。尔。个。老。吓  
 手。执。筐。篮。走。为。门



将身未斗河堆  
心中发慌红着脸

只是男儿水中浸  
慌忙回占店堂门

关了房门来立

走了妈问原因

阿因借淘米洗其奈高吹者  
少奈外面有这了  
这了乃个佬河沿天淘米洗其并勿起  
屁股朝河里脸孔红一阵  
白一阵  
实个五带吹  
难道米会淘白了  
其会得清爽了  
少奈外面有  
有舍个东西吹  
做娘个来看  
苦吓  
吓有佬个心贼骨头若来  
白条  
莫别家个河堆头浸带吹  
未吹则念  
难怪吓阿因  
逃进来者  
家个太婆都难看杀者  
吓妈  
小生一言难尽  
阿因未吹  
摸面眼  
吓个言难尽

介借道话看吓妈吓

妈：在上所原因

小生一：告知因

家住浙江宁波村

是海县为王家门

爹：名叫王建贵

官居极品在朝廷

爹娘不生多男子

单生小生一个儿

今年：方十六春

三字名叫王五文

妈：店口未劫问

你光着身体为何因

小生：既惹你是字夜定海县人氏  
又是官家之子  
怎么会来斗箱延呢  
吓妈：有就未知只因家看潮失水洗尽衣服晒在桥上  
被贼手偷去了  
还望妈：发慈悲

相般与友  
日在因报大恩  
介未借来带  
我起抱得衣裳来  
多谢妈  
吓妈：想因老个野猫过世  
究得跟皮个有者  
家有伴古老个  
代了海青吹  
样末究得  
我条布裙  
仰伊  
繁：家还有一双闹堂鞋  
吓伊拖：咳者  
吓阿因  
少奈  
河堆头实个牢相个  
子做娘个  
五起救得起来者  
究得  
救带进来吓伊鞋里生：呢  
少奈房中  
家个房里乃  
爹穿进穿出来  
吹走  
还是斗借个  
房里起坐  
女儿  
房中如何使得  
阿因呀  
做好个怕伊念  
仰家起救得进  
来是者

妈：舒衣外河沿  
抬头个后生面

即店店口把屋叫

吓妈：穿衣进内边

跟小后生吓可劫得冬  
立起来  
实难看各  
吓妈：条布裙  
繁带冬  
海青披带冬  
鞋木拖带冬  
多谢妈：吓妈  
站过一边  
小生上岸来了  
一条布裙身裤繁

同了妈：未行走

进门即使怕施礼

妈：在上小生捧捧相公勿散  
吓阿因里浸得冷  
杀吓者  
快：斗吓阿因房里坐  
个息家搬办饭来  
仰吓吃得  
热落：好走  
多谢妈  
吓妈：说罢到店堂  
王五文移步入内房



只見擺設多精緻  
兩邊四把象牙椅  
上方一張春台高  
西拖溪水把紗繞  
心同醉沈楊貴妃  
一付對聯分左右  
左寫楊花千點  
楠木板台窗前擺  
柱花床若秋羅帳  
良紅夾被錦金段

四面圍三掛斗方  
楠木几分兩旁  
四大美女掛中堂  
錦輝拜月兒好亮  
昭君不塞好邊恨  
古人提詩有名堂  
右寫一舞蝶成雙  
紫松鏡架水磨光  
白銅條句掛香案  
鴛鴦花枕邊芬芳

在文看眼多致  
滿房擺設不尋常  
吓妙吓道平常之家  
沈末擺設如此雅且佳  
有現成不帳在此  
想家身子困倦  
不免待至下帳  
定睡片刻便了  
在文定睡養精神  
半暗喜十分  
再表楊媽呵笑英  
阿因今啞四盤一湯  
沈一壺飯一桶  
催擺得進起  
仰伊吃得  
好走  
女兒不去  
做好了怕伊  
舍  
阿兒賴娘吟快  
未收  
銅錢者  
咂阿國啞快  
搬得進去  
做娘了  
五斗店堂  
里收銅錢起者  
媽說男走每  
先英送飯滿臉紅

無奈推過房中  
只見男像未放下  
奴也不顧羞和耻  
相公起來法用沈飯  
吓大姐小生多失礼了  
好說  
不見老法王相  
想必安睡奴床中  
免媽起口叫相公  
家道是誰  
阮才是一位大姐  
只見大姐美弄顏  
身子困倦在床眠  
又第大姐惹心回  
吓大姐小生厚情  
奴家有礼奉还  
法問相公府居何處  
尊理大名  
乞道其詳  
大姐听道

家住浙江省  
字浪村內  
家貧  
王建貴  
身居極品  
雅生家  
十六春  
取名在文  
只因為  
去看潮  
字浪失水  
蒙蒼天  
親身比  
不傷殘身  
云大姐  
送沈飯  
雅報你恩  
吓大姐雅生多云媽  
相救承蒙大姐送飯  
比恩日後  
因報法問大姐芳名  
方才救我的乃位恩媽  
是你大姐何人  
相公听道  
先英姑娘說因  
說把相公叫一聲



相字：各叫扬天标  
 批你之人非别甲  
 若子问家奴的名  
 应文听说暗思忖  
 系把大姐看灵法  
 头上着丝鸟霞霞  
 眉似看天柳初放  
 小脚金莲长三寸  
 应文正在呆：看  
 系把书生看端正

开并做在过时光  
 就是奴的老魂亲  
 三字各叫扬天标  
 好位大姐伶俐人  
 容貌堂：无批评  
 蟠龙结上放光明  
 一双秋波水淋：  
 九如仙女下凡尘  
 况英偷：看若生  
 一表人才美少年

相貌堂：多英雄  
 天生饱满世无双  
 羞：答：相公叫  
 多谢大姐吓大姐，小生有言不敢忘  
 大姐小生多蒙你们母女相救，志恩非浅，意欲与你结  
 为百年偕伴，望大姐允允。

眉法目秀一书生  
 好似潘安正还魂  
 快活相公沈饭吞

你是官家豪家门  
 相公前程多锦绣  
 森小生不是负心汉  
 大姐若是不信，小生就可对天盟誓也

奴是贫家女奴裙  
 奴家不敢许终身  
 大姐只愿放宽心

双膝跪在地虔诚  
 家与弟莫足终身  
 小生若还负冤莫  
 相公言重了

相公今日你终身  
 奴有一只梅花戒  
 英文撞戒心悲喜  
 小生有日功名就  
 不表私订终身了  
 程表天标呼冤莫

双家无物未相赠  
 送你玉生作为聘  
 多谢大姐许终身  
 风冠霞帔报你恩

过往神在上所  
 海枯石烂不离心  
 五雷击顶不超生

女儿等息未写，咳还莫出此不写做爹心慢，息了  
 等息忘忘了，慌慌墨纸砚，把清来快出来写，笔墨  
 纸砚在女儿房中，待女儿斗房中，看解来，仰家起把起慌  
 脚迷：小葛，跌得跌在的债者，家，你年纪老，还是  
 女儿去解好，仰家起，女儿去，慌慌慌起，家话家起  
 慌了房里有啥了，古羞，宝贝呀，勿许做爹了，走进起  
 家今朝偏，主主带进起，带来，喂着天大白日，帐子为  
 拿勿上起，仰家来上起，喂梯被梯勿折好，还动：来带动  
 家揭帘开来看：带来，吓家道舍西，石晓，还是了  
 二风阳婆介了，小光娘带来，家道葛葛两日，来介勿禁吃者



孽有勿禁燒者，都不為風，陽婆吃光了，家今朝勿  
來打噴也勿來罵，東門外青山高夫老處，來收作札  
仰家來背詩，伊起個老處，起末罷者。

楊天標拉任風，陽婆

上前一把紫，拖

將伊背出房門外

高聲大罵老乞婆

房里美海風，陽婆

偏：做弄家老乞婆

急：忙：背了走

楊媽：見泪如梭

完英此刻難分檢

有口難言沒奈何

暖王法：吓阿因介，許了寧，解了手，不當老場家，步風  
陽婆背斗有山，高夫老處，起者，做娘了，正當肉痛

杀者，倘若傷了性命，家吃去，帶做夢了者，吓以葬  
吓王生暖：

完英姑娘泪紛紛

有口難言說不活

王生若有長短短

奴家終身靠何人

家与王生終身訂

爹娘万里念知情

但愿苍天來保佑

死也死難脫逃生

不表弟莫心悲泣

再表天標上山林

喂斗者：拉若未帶烟老處，家五路少起者

怒与冲下空流

以斗以处行头回

相府家身下回方

14

高別家多有數句 未知何日返家庭

小生王應文，身流是海县人氏，自以乃日看潮失水，漂斗  
此地，誰知衣衫鞋襪被賊人竊去，多言媽：相救与家  
身上穿了女人衣服，坐在公，因与完英大姐訂終身，楊  
天標將家錯認風，陽婆背斗，以此喜得机，美才露，不然  
性命難保，看高，做不，待家下山考吧，吓且住想家身  
无分文，如何是好，只得去斗街坊沿街求乞，待斗有了  
銀子，就可回家，家来此，已是十字街口，前去求乞，便了  
王應文移步回前街 腹中饥饿好難禁  
行走未斗十字街口 只將跪地求善人



喜 升者升厂老洞们  
 伴依 亦门顺利得平安  
 伴依 四面贵人相照应  
 伴依 生意兴隆多获利  
 喜 喜吃素念佛太忙  
 伴依 福也增来寿也端  
 伴依 眼目漂亮脚手健  
 喜 喜求贤良好心大娘们  
 伴依 救：京庄之落难人  
 伴依 早生桂子跳龙门

总财铜钱丢几文  
 顺口跳那得太平  
 八方财宝进门庭  
 一年四考赚黄金  
 慈悲铜钱丢几文  
 寿比南山老寿星  
 沈福满堂雨雨益  
 贤德铜钱丢几文  
 夫妻和睦情义深  
 白头到老福寿增

13  
 喜 读书赶考官们  
 伴依 连科高升步步高  
 伴依 做做中央干下接班人  
 伴依 增福进寿保长生  
 喜 种由下地叔伯们  
 伴依 身伴他康福寿增

加班铜钱丢几文  
 配个老阿做夫人  
 辛苦铜钱丢几文  
 伴依 一年四考赚黄金  
 聪明智慧铜钱丢几文  
 大学考进稳智定  
 新车进步路门庭  
 一家团圆笑盈盈  
 辛苦铜钱丢几文  
 田收年上好收成

今日家讨清铜钱好  
 谢：各位善心人  
 叶家何姓去安身  
 想 卷中另表一公卿  
 不如意了常八九百与人言无二三老夫路安官拜首相  
 执掌朝纲夫人李氏生七子一女孩儿其在朝中为官  
 七位媳妇在家奈女奴英在年三八当初万安为媒许配  
 沈某沈某之子沈标为室如今闻沈标丑陋不堪而  
 且倚势横行夫人不知沈标何人李氏总日  
 啼哭不止一为娘亲七故二为错配婚姻三为欲自尽  
 多言七位贤媳解劝为此老夫无心伴驾告老还乡

12  
 且任家女儿终日烦恼不乐心莫守常去与他解楚清闷  
 思想起来好不忧虑人也  
 相爷问坐在书厅  
 害得夫人身亡故  
 不该将他来错配  
 想 虽然他父是千岁  
 本该将他婚来退  
 幸亏贤者多救核  
 进退两难真无奈  
 心中思想多烦恼  
 有 忽生巧计把话说  
 只为女儿错配亲  
 害得女儿哭悲疼  
 如今改悔也无门  
 恶势横行不成文  
 违逆圣旨罪非轻  
 终日解劝女儿身  
 因此告假占家门



何是三不免叫了环出来与他解愁消闷为妙。众了环乃里  
 ① 来者：太师在上众了环叩头。起末。② 叫了环出来有  
 何吩咐。③ 别了你们进去。叫了环小姐一笑看扇子。④ 一  
 ⑤ 西笑呢。⑥ 就是三五。⑦ 三笑呢。⑧ 三及。⑨ 十笑呢。⑩ 就是十五。  
 若小姐笑将冒口开者。嘴也笑。嘴闭勿弄者。太师横良  
 子多少者。⑪ 促小贱胡说。⑫ 小姐呵妹吟。太师乱  
 者。呀大家还笑。叫小姐起笑起。⑬ 叫大家走。叫  
 一众了环往内行。⑭ 前去叫笑。⑮ 千金  
 不表了环往由。⑯ 提表。⑰ 表。⑱ 表。⑲ 表。⑳ 表。  
 绣阁看深昼日良。佳人无惹绣地。共奴家路内笑。

年方六岁。踏突。拜首相。少来李的不幸去世  
 七位兄长在朝伴驾。嫂：们在家十分贤。这也不在  
 话下。想奴终身由万岁为媒。许配。沈冲。沈冲之子。沈  
 标为室。用薄地相。道。理。全。元。依。势。横。行。奴的  
 终身妙何是好。思想起来。好不伤心人也。  
 奴：命。运。苦。七。分。  
 可恨君王太无理。将奴错配沈家门。  
 沈标为人全无理。况且丑陋不成文。  
 倘若日后来迎娶。叫奴如何做人。  
 本欲早来伤心。七位嫂：劝奴身。

苍天为何作弄人。偏：许配这废人。  
 思想：心。头。闷。眼。泪。汪。好。伤。心。  
 奴：命。运。苦。七。分。夫。人。  
 姑娘：来。见。礼。① 众位：嫂：小姐：有。礼。奉。送。② 沈。冲。吓。娘。  
 见你：闷。不。乐。何。不。去。拜。花。园。③ 沈。冲。吓。娘。况。且。园。中  
 百花：齐。放。桂。花。开。十。分。洋。气。④ 沈。冲。吓。娘。况。且。园。中  
 下。如。何。⑤ 嫂：欲。去。逛。玩。小。妹。当。清。春。信。⑥ 如此：姑娘：话  
 ⑦ 了。环。前。面。引。路。⑧ 沈。冲。吓。娘。况。且。园。中  
 ⑨ 一。众。了。环。往。内。行。⑩ 沈。冲。吓。娘。况。且。园。中  
 ⑪ 一。众。了。环。往。内。行。⑫ 沈。冲。吓。娘。况。且。园。中

七位嫂：观花景。京奴若：是暗悲伤。  
 想身奴：终身了。那有心：思花景。情。  
 秋天：树枝多：残败。梧桐：叶落：好凄凉。  
 将身：行斗：花亭上。夫人：店口：把话讲。  
 吓姑娘：花亭上：话坐。① 嫂：们：话坐。② 吓姑娘：你看：桂花：十分  
 茂盛。③ 吓姑娘：花儿：桂花：可做：蟾宫：折桂。④ 吓嫂：呀  
 如：见：桂花：泪：涟。⑤ 唯：有：奴：命：苦：十分。  
 有福：之人：做：夫人。⑥ 蟾宫：折桂：步步高升。  
 哥：在朝：为：宰相。⑦ 七位：嫂：：要：皇恩。  
 小姑：配：与：废人：身。⑧ 万：能：为：官：在：朝：庭。



奴：乃有皇恩受

怎做蟾宫折桂人

吓姑娘 翻你看半天鸿雁飞来不作字感对身也看诗吓嫂吓

奴着鸿雁哭啼

对感双排字

孤雁可比薄命人

心中思想好孤恻

不如前边为僧尼

夫人店口把话提

吓姑娘河棠身上注坐 吓嫂 想万种花之人好生无理

想河棠乃是妖娆之花 梨花乃是粗豪之花 好何村村 小妹斗五想诗一首 斗五注教了环取笔墨过未 吓诗

世间多少不平事 可恨梨花对海棠

吓姑娘你不爱梨花可以砍掉 喂阿姐阿妹 吓小姐

真身聪明 海棠妖娆比诗自者 梨花粗豪比诗沈

姑爷者 梨花看勿入眼可以砍掉 难道沈姑爷也好砍

掉勿成么 吓贼人胡说 吓唬小姐已至发怒乱者

吓少夫人喂 看小姐心勿守 吓了头斗有了主意未

带 勿如开之园门 外面是条小街 有走索尔 吓吓了

吓且住 本该是使不消的 如今小姐心勿守 你们五去

开了园门看 吓景 吓阿姐阿妹吓得走有诗猜吓

诗笑 大家有诗巧 大家动手

了环忙把园门开 吓嫂移步往外来

吓嫂站在园门口 吓王在文大步走过来

今朝好象恶毒拜 吓了环真笑起来

吓少夫人呆婆来者 吓什么样的呆婆 吓团来者未

吓倒者 吓起者伊立起者 吓呆婆来者 吓大家来看

呆婆来者了吓

吓小姐听说把头抬 吓无意之中笑出来 吓了环一见多欢喜 报与相爷借钱

吓阿姐小妹笑话过者 吓问相爷领钱起 吓大家走吓

未至多厅 吓原相爷小姐被了吓吓了 吓什么报你们

吓笑了 吓笑着 吓样笑的 吓还至还是夫来相爷

吓 吓想小姐心勿守 吓把园来看 吓景小姐仍然知多

吓后来了环开之园门看 吓景勿晓诗未诗了呆婆

吓来者吓斗者 吓起者立起者 吓小姐见其介笑者

吓了环前未领钱 吓少刻领钱 吓赏钱也羞欠了

吓小贼胡说吓却不依 吓家来看了明白 吓一径来斗



花園在位少夫人小姐相爷来看景景者已什么公之来了  
家们迴避了吧姑娘注④ 望之注

不表姑嫂回房去

行来已拜花团门

一見此人心疑

书童⑤ 咱叫那人转来⑥ 咱得叫那人转来家相爷有话

吓且住听他口说相爷凉凉当朝一品想家也是宰相  
公子如此形状倘若真挂说发也不惭愧不如叫他一  
哄来比团门吓相爷叫那人转来有何吩咐⑦ 叫你非  
为别不想你男子扮作女子敢是哄同心是何道理

③ 店原相爷难人一言奉告

相爷却是难人哄人心

将家脚踏贵地

只为玉观来打碎

羞乃姑嫂未释放

难人句：真性活

相爷听了言和语

乃相爷把比人上下打量一番心中暗想他是个男扮女装家  
行功稳重出言吐语文雅老夫十分喜欢便道想你家  
主人气量太小一方玉观打碎就取你一死想别人

只为比步遇榜人

妾与陈陈做书童

主人取家命致生

男扮女装去逃生

还望相爷恕罪名

腹内暗：自思付

道你未为不明老夫斗不怕你的主人家你不如在家村中  
做一老童你道如何④ 难人恩付回话且住想家也是  
宰相公子况且洪门秀才也肯与人当书童但家来  
盘带全元二则衣衫没有待家有了盘带衣衫再作  
计较便了吓相爷就家抬盘元不遵命⑤ 未知家  
多少⑥ 相爷怒稟

相爷你且听分明

妾身文契家不写

相爷听说未死

待家与他取家字把他取家来好从今后就叫你转来

身价不家半毫分

伏望相爷勿怪

好个聪明伶俐人

不分内外进书好生服侍以后老夫重有赏③ 多谢相爷

书童⑦ 命你领书转来书房改换衣衫进内去见过

比位少夫人与小姐⑧ 咱得转来哥过家来⑨ 是来了

书童⑩ 领了进书房 转来即住换衣裳

了环听了多明白 急：回身走得快

将身进了闺房内 一見夫人把话讲

今朝有伴转文了 特来禀告女奴

④ 环有什么转文了 店原夫人小姐方才团门外来尔勿  
是早婆莫尔果公⑤ 什么他是男的吗⑥ 嗯系里相爷  
⑦ 问伊尔伊话是陈家书童只如玉观打碎是得伊衣



彩刺活取伊一似多情焉。相敢解故为门。如今相为留。  
进打中身作书童。勿分内外。住恁使唤。取名称来。就走进  
来叩头。领赏。吹着。此时叫他进来。吹来哥。快。进来  
见过各位夫人小姐。是。吓了各位夫人。是。吓了  
是小姐。吓了各位夫人小姐。吓了各位夫人小姐。吓了各位夫人小姐。吓了各位夫人小姐。

折来即忙跪望

低下头来看

七位夫人

总道宛然容貌

小姐为客多绝色

即见各位夫人

见他们。貌

当年再叩

更比初次几分

未知金莲有几寸

低下头来看

吓来叩头身不切

则叩头清十六个半

五福添起者

七位夫人时

去。吓小姐已

吓来叩头身不切

吓来叩头身不切

吓来叩头身不切

吓来叩头身不切

吓来叩头身不切

吓来叩头身不切

吓来叩头身不切

吓来叩头身不切

吓来叩头身不切

吓来叩头身不切

吓来叩头身不切

吓来叩头身不切

吓来叩头身不切

吓来叩头身不切

吓来叩头身不切

吓来叩头身不切

吓来叩头身不切

吓来叩头身不切

吓来叩头身不切

吓来叩头身不切

吓来叩头身不切

吓来叩头身不切

吓来叩头身不切

吓来叩头身不切

吓来叩头身不切

吓来叩头身不切

吓来叩头身不切

吓来叩头身不切

吓来叩头身不切

吓来叩头身不切

吓来叩头身不切

吓来叩头身不切

吓来叩头身不切

吓来叩头身不切

吓来叩头身不切

吓来叩头身不切

吓来叩头身不切

吓来叩头身不切

吓来叩头身不切

吓来叩头身不切

吓来叩头身不切

吓来叩头身不切

吓来叩头身不切

吓来叩头身不切

吓来叩头身不切

吓来叩头身不切

吓来叩头身不切

吓来叩头身不切

吓来叩头身不切

吓来叩头身不切

吓来叩头身不切

吓来叩头身不切

吓来叩头身不切

吓来叩头身不切

吓来叩头身不切



受爵位不守，未幾何日坐九庭，奉滿沈蔡，奉旨  
平西有功，蒙恩封侯，平西王之子，職承鎮潼關，意心不  
服，欲逐其父，幸有取解，鑄以山，如今差黑九師，拉  
高前備兵十萬，前來攻打，至今借兵未回，好生掛念  
這且不來，本藩單生一子，取名沈標，乃年上為媒，是  
福進泉村，看江是駱賓之，女名曰英，配與家兒  
為妻，想乃駱賓有七子，在朝為官，如何是好  
腹有子，不免叫家兒去，斗他家完其初，日居其  
之時，亦有內助之力，有道自來必顧，自領必抄  
本藩何愁大子不感矣，嗚呼，呼在堂世子布衣未

世子亦有法，未者：忽所堂上呼，眉目別，跳，若還  
未遲到，五吃果多泡，平西王阿伯，在上做佛子，拜  
拜者，嗚呼，累久一勞坐，咳阿伯，發做佛子，向歡喜  
蹲拜子，萬息毛，系簿帶者，阿伯，發做佛子，向歡喜  
未有舍在方，嗚呼，此方，叫保非為別，不，為父，叫保非福  
延泉村，看江縣，與路氏，完姻，可作內助一臂之力，為  
父，不，怕大子不感矣，嗚呼，呼在堂世子布衣未  
才，活，做皇帝，意，做太子者，早，未，信，就，這，家，好，做皇  
帝者，有，這，多，說，先，嗚呼，呼在堂世子布衣未

千笑吩咐此標沈  
千笑重又升書說  
嗚呼，你以去，駱村，招來，他，家，用，五，須，五，苗，意，外，須，五  
謹慎，穿，記，任，有，數，友，家，人，嗚呼，好，生，服，侍，世，子，布  
衣，未，有，價，就，得，阿，伯，發，佛，心，做，佛，子，拜，別，去，者  
嗚呼，呼，板，系，搭，沈，志，五，搭，船，起，者

世子即便就登皇  
吩咐世子好升船  
發起一夫大順  
房在子布，泉村，斗，者，不，覺，未，身，泉，地  
不，覺，未，身，泉，地

嗚呼，嗚呼，呼，前，去，遊，玩，一，番，就，得，嗚呼，呼，泉，村，果，然  
好，一，片，繁，華，景，致，也  
世子布，上，街，坊，圍，進，酒，肉，活，不，定，是，村，村，繁，華，一，片  
走，大，街，穿，小，巷，外，外，井，雨，這，路，忘，年，數，時，似，天，仙  
進，茶，坊，井，沈，樓，合，群，法，天，只，見，名，西，街，上，相，逢，相  
一，路，上，未，行，走，以，吹，柳，舞，有，几，間，高，大，樓，惹，惹，眼  
甚，美，非，此，地，有，几，間，高，大，房，屋，未，知，何，作，能，嗚呼，呼  
不知，給，人，家，了，房，屋，系，世，子，布，意，欲，要，做，小，館，嗚呼，呼  
里，面，可，有，人，公，未，者，你，身，未，何，多，嗚呼，呼，人，家，信，這，几  
間，房，屋，而，省，租，作，小，館，可，以，租，得，你，問，他，什，么



① 家里撞见世子爷在外路村以家传的房屋租用数  
月，每月租金多少。② 既然是在路村，就不必用讲房  
金。法世子爷前未安寓。③ 在世子爷房去言道，路村  
贵客，勿用讲房金。法世子爷安寓好者。④ 吩咐  
将行李搬进起是者。⑤ 吩咐想家未外比也本与  
圣旨拜谒老路。想像无非是了宰相。⑥ 是了世子爷  
难道亦世子爷起拜谒伊。⑦ 且有者：难为伊家了丈人  
所伯。⑧ 亦就用名帖了。吩咐。⑨ 催起通报一声。叫活  
世子爷外者。⑩ 唯老路接亦早比做家拜谒。勿得有  
慢。⑪ 唯晚得者。

家人奉命不遵  
一路行程无相  
手厨名帖往前行  
不常来外路村  
门上可有人在。① 来是是万了。② 望你门催前多通报相爷  
亦奉拜谒。是世子爷之命。前未你路府接系有  
名帖呈上。③ 唯晚得者  
家人接帖时进内  
直告相爷得接  
以斗只处行奉奉  
出我物后下回所

前蒙圣恩作冰人。谁知家女不称心。  
老夫路实只为家女终身错配。闻得沈礼礼之命元相  
相个撞见世子爷外者。任在西街。有老帖呈上。① 待家看  
未吓。他竟不拜谒老夫。好先理且住。待家前去  
看他相貌。情形如何。言之有理。未。② 吩咐。打轿。催  
相爷打轿往街坊。去斗公催看帖常  
行来已斗催首。③ 家人即使报子帖  
门上万不在。是万了。④ 路相爷前未看望世子爷。有老帖  
呈上相催通报。候着。店世子爷外面路相爷前未看



望有各帖呈上。万哈老路斗者做伊话。家世子命本在书未  
迎接。只因路上受了况丞相之苦。唯不能迎接。唯伊有介跪进未  
罢者。晚涛店相爷家里世子命言道。因路上受了况霜之  
苦。勿来迎接。法信自介进者。有这等歹来。真。岂有此理。  
太师无奈。步新。将身进内。抬头一看。大的一惊。免道叫声贤婿。  
贤婿莫非是丈人阿伯。做女婿了。本该拜你一拜。不想  
你必须要面家。一面倘若做你。骨酸带还。多有不便。还  
是大家两折者。唔贤婿。法信。丈人阿伯。你老矣。家  
相来。喜欢喜。椅子了。吓贤婿。路上可平安否。家有  
舍勿平安呢。吓贤婿。在存十三经中。读过几经了。家港

读过几多者。若有三官经。观者。经血。编。受生经。金刚经。  
弥陀经。南无经。莲花经。高王经。华严经。太阳经。心经。  
还有陀罗尼多经。不是十三经吗。不是。不是。不是。是儒家  
之经。乃舍读书叫念经。丈人阿伯。家书勿用读者了。为何  
丈人阿伯。吓

穷人读书富来求  
富人读书贵来求  
想家富也贵也有  
阿伯家在朝千岁做

只为金良满门桂  
只想朝中做一候  
何用读书挂心头  
富贵双全勿用求  
早拔家结并头

相爷听得心大怒  
想你在家。不读书。你做此什么。家大年初斗。首。一息  
都勿空了。你有什么可忙。家以。四景。高。若。未。人  
故。大好。一息。勿。空。了。如。行。为。你。会。身。失。训  
只。怕。你。死。无。葬。身。之。地。也。乃。舍。死。葬。身。之。地。分。明。话。家  
天。勿。空。者。你。直。往。放。了。娘。了。狗。屁。拖。带。来。供。三。佛。四。尊  
勿。活。起。拔。家。成。亲。反。来。咒。骂。家。世。子。命。你。想。相。婿。成  
家。就。相。婿。何。妨。吓。家。世。子。命。你。有。大。空。愧。羞。顶。皇。帝  
阿。伯。作。媒。只。怕。你。了。吃。饭。家。仗。五。按。做。分。家。者  
想。家。媒。人。是。君。皇。勿。怕。相。婿。起。心。娘

倘若连了万安冒  
吓吓真。气死家也  
相爷此刻怒心高  
困时冷眼观螃蟹  
吩咐家人忙打轿  
不表相爷回家去  
有介牛老勿死带未  
太岁头上弄劫土者姆姆  
大出毛竹火梢拖一把把老贼赶出起快摆沈与家消  
气。吓晚涛者  
世子命此刻怒冲  
满门抄斩的刀亡  
听他言语有法况  
看你横行斗几何  
一路之上泪如梭  
家口内骂骂咧咧  
吓家世子命  
吓家世子命  
吓家世子命

吹沈消气宽胸



不表沈标气杀人

再表秋来小古董

埋芒在天罗何日见蚊妖小生王衣文如今在骆府做了书童取名秋来见小姐花容艳色未知才能如何合心上位少夫人与小姐花团饮沈赏月想家内外不忌不如此大胆走斗小姐房中假意送茶偷看小姐的诗词赋就可知道小姐的才学也

在文想罗进房门

偷看诗词便疑怪

心中暗想往前走

小姐后面进房门

吓秋来你在此做什么吓小姐你是送茶来的因何了环不束送呢因大姐们不在以此家代送来的想你

内外不忌亦可代送正是小姐挂用茶

在文得意喜笑

看春送与金

手中露在袖中

吓小姐一見突然你

看着秋来多奇美

为何路

在口便把秋来叫

秋来你

吓秋来你的秋来让家看这是秋来秋来让家看小姐看

待秋来看吟秋来看相爷客看小姐小姐家

秋来秋来是还家的好你去罢少刻还你晚诗

秋来秋来房门口

小姐见我暗疑心

秋来秋来房门口

赠与先英两两分

难道他在假在任

究竟见了喜欢心

梅标秋来私相赠

秋来秋来两相亲

着他来讨梅标秋

向明娃由故家心

不表小姐心疑猜

再表英文进内来

小生英文送茶已毕进向小姐讨还梅标秋来秋来探听小姐的姻亲主意已定走吓小姐小姐的妹妹吟今朝小姐了催命鬼斗者叶叶催命鬼吓三位大姐这句话是什么意思可不对多说吓秋来哥不信所见者傍勿的诗词底了秋来同候讲嗟凉里小姐个秋来身有皇帝所伯做媒了许配璋美沈千岁之子名曰沈标

勿想伊人礼义金元相貌丑陋小姐勿种心难来沈标来

冬者西街上打公催任咳吓秋来相爷担担花烤凉里小姐

前反有话说过了若还沈标秋来秋来秋来秋来秋来秋来

若非是小姐了催命鬼到者吓有这哥了来吟秋来

哥早催秋来勿可也搭人搭起话至是催秋来才话

淘气至做催着了是吓小姐你秋来秋来秋来秋来

知道便了吓可催吓小姐吟秋来秋来秋来秋来

爷到者西街打公催任咳吓有这哥了来吓不好吓

小姐秋来秋来秋来秋来秋来秋来秋来秋来秋来

吓秋来秋来秋来秋来秋来秋来秋来秋来秋来

吓秋来秋来秋来秋来秋来秋来秋来秋来秋来

吓秋来秋来秋来秋来秋来秋来秋来秋来秋来

吓秋来秋来秋来秋来秋来秋来秋来秋来秋来

吓秋来秋来秋来秋来秋来秋来秋来秋来秋来

吓秋来秋来秋来秋来秋来秋来秋来秋来秋来

吓秋来秋来秋来秋来秋来秋来秋来秋来秋来



寫書寄君大元相  
 奴、冤光難伸許  
 推升半宿告明月  
 你是之愛婦娥女  
 怎生學得婢娥女  
 惟有奴英多命苦  
 小姐对月心悲泣  
 为人怎好比明月  
 小姐听了言和語  
 促何人前未多插言  
 奴家實前讲话何人前未插嘴  
 吓小姐是家教来  
 不該將奴錯牽線  
 只將舊債告青春  
 只見月光照窗前  
 明月清風自安然  
 无忧无虑在青天  
 看来妾處死傷黃泉  
 宿外三生泪珠連  
 令人啼得又慘然

就來你在此做什么  
 前前未向小姐討还梅花戒子  
 就來你  
 的戒子何而末不須隱滿細  
 小姐容稟  
 小姐在上所庇因  
 家住浙江宁波府  
 翁、廷貴為極品  
 今年、方十六春  
 看潮失水到泉州  
 楊媽、相救贈衣衿  
 亦与完英終身可  
 小姐听了言和語  
 就來細、告知聞  
 是海县内王家門  
 小人三字王應文  
 去年入泮在洪門  
 洗尽衣服被賊偷  
 完英姑娘送飯臨  
 梅花戒子松相贈  
 死未忘家后代根

吓死是宰相公子奴、失教了、就是官之后何不早、重、小姐吓  
 小志、想回家門  
 腹中饥饿身寒冷  
 行过你府未曲進  
 誰知小姐豪門配  
 進來討还梅花戒  
 不久就五回家去  
 那家小姐未初問  
 小姐听了更心酸  
 即使店口叫王生  
 吓王生听你说来你与楊氏完英結为佳偶、想奴与完英  
 身无分文难起呈  
 无奈只得走街心  
 见了小姐貌超群  
 小生在帶一片心  
 見戒尤如見完英  
 意欲上京求功名  
 小生句、是真性

結拜姐妹胜似同胞、这梅花戒子乃是奴、贈送与的吓  
 小姐此刻泪泣、  
 完英当初也在此  
 那日姐妹未分别  
 梅花戒子分两处  
 但吓姐妹重相合  
 誰知贤妹贈与你  
 吾奴还戒不能够  
 奴想贤妹能有福  
 唯有奴英多薄命  
 悲、切、弄紗窗  
 結拜姐妹伴闺房  
 奴、難舍女奴  
 一只贈他占家邦  
 一对戒子再成双  
 見物思情心更伤  
 权且留在奴身旁  
 郎才女貌配成双  
 看来不久一命亡



挂你且暂住几日日

日后竟成感亲日

若说奴：终身了

应文听了凄凉话

吓小姐听你说得凄凉

倘有不测那还了得

劝你不必太伤心

为一日未过一日

小姐若还来自尽

听奴言以占浙江

将奴苦衷告红妆

未生与你再成双

好言好语劝红妆

相爷在边怎理说

相爷在边怎理说

相爷在边怎理说

相爷在边怎理说

相爷在边怎理说

相爷在边怎理说

相爷在边怎理说

相爷在边怎理说

相爷在边怎理说

相爷在边怎理说

相爷在边怎理说

相爷在边怎理说

相爷在边怎理说

相爷在边怎理说

相爷在边怎理说

相爷在边怎理说

相爷在边怎理说

想该才子配佳人

且在他家住几日

想起小姐心悲切

相爷一见面因

吓小姐因何在此悲泪

见你常悲泪不象老童之辈

家作何可也细说老童夫好帮助与你

小童住在浙江省宁波村定海县

生多思单生小童人不幸双亲去世

取名在年一十六岁去年身入洪门

杨妈：相教小人句：实言说相爷怒罪

原来还是贤侄吓贤侄你令尊在日

以膝承欢你日进府何不真性说

碧勿见责好说贤侄你乃洪门

你可上京赴考如此身伯大人

若坐于既蒙年伯美意小侄上京

老夫正端行李白己五百两家

明日服侍至相公上京赴考

未呀明看况放行

下 冥主深谢英慈心 故旧相逢喜莫心

因何对面不相亲

难得小姐留余身

看其幼性再回程

相爷一见面因

吓小姐因何在此悲泪

见你常悲泪不象老童之辈

家作何可也细说老童夫好帮助与你

小童住在浙江省宁波村定海县

生多思单生小童人不幸双亲去世

取名在年一十六岁去年身入洪门

杨妈：相教小人句：实言说相爷怒罪

原来还是贤侄吓贤侄你令尊在日

以膝承欢你日进府何不真性说

碧勿见责好说贤侄你乃洪门

你可上京赴考如此身伯大人

若坐于既蒙年伯美意小侄上京

老夫正端行李白己五百两家

明日服侍至相公上京赴考

未呀明看况放行

下 冥主深谢英慈心 故旧相逢喜莫心



① 庶女希希未拜别  
 ② 家人看柳行和孝  
 ③ 相爷送书大伴门  
 ④ 不表衣文上京城  
 ⑤ 捏表团圆女子金  
 命申生得孤海，一世终身无靠依，如路凶狡英，只为一  
 万岁为媒，配与沈好为室，如今冤家已斗，套去斗心，信  
 见他如何废物，言说冲撞，空见他形状，如同禽畜，  
 倘若奴与他弟姻，总然难在人间，思想起好不伤肝人也  
 小姐思想好伤心  
 可恨废物斗来痛  
 丑陋女子做夫人  
 不如削发去修行  
 断绝红尘一片心

倘若命生道间  
 左思右想无了计  
 双膝跪在尘埃地  
 拜罢一番相身起  
 问王注定三更死  
 小姐闺房未上吊  
 大家喘得魂飞散  
 姑娘苏醒... 小姐苏醒...  
 哭一声 渐醒 哀痛哭  
 奴若命 好不伤心  
 想他在骨伤多少  
 不如早... 裴珠少  
 拜谢差娘着有恩  
 一根丝带手中存  
 断然留不斗五更  
 七位夫人进房门  
 慌忙相救女解裙  
 了环快取参汤过来 晓涛

恨只恨 怨只怨 昏君错配  
 大不该 来作伙 配与废人  
 虐涛奴 无处诉 寻死短见  
 七位嫂 何苦为 相救奴身  
 想爹： 奴终身 难已作主  
 看起未 小妹家 留着何用  
 斗后未 他迫婚 奴命归阴  
 千不死 万不死 总熬一死  
 可怜奴 女奴英 痛苦万分  
 看后来 李的命 冤作何论

① 劝姑娘忍耐才是 万言皆有天教：设计使了姑娘吓  
 七位夫人劝姑娘  
 沈标虽果来斗此  
 姻缘原是君王定  
 还须加意来保重  
 不表姑娘团房了  
 ② 再表沈标去私访  
 奉命来完姻，老贼太欺人，堂堂沈标，奉命完姻，斗  
 路府成亲，任在公催，勿想老贼前拜堂，与妾争闹  
 一场，听伊口气，有赖婚之意，妾有皇帝前伯做媒，勿信佬  
 老贼赖婚，妾想老贼，呼了环调包，未与妾成亲，妾乃



今晚得唔有者：我勿如扮作平民模样，私行斗伊了  
为因，倘若小姐未游玩花园，撒我看个明白，日后伊想调  
包，我就可以认方真假，勿错。伊系猜了人斗伊个花园里  
起走：罢者。

沈标想罢就切身

扮作平民一艇形

播：摆：勿留定

来由是花园门

冷斗着因门还勿关，伊系进去，慢：一合穿门个，系人大  
一只脚靴偏着，唔还好：总坏走进第者，只几楼台亭阁  
秀竹花板，还可看落，且佳，我在比现看，才话撒呀下  
着人看见，认得家个，因系满身认号斗底，唔有者：

葛里有件秀竹亭，不免去躲一躲，偷看一看是者

沈标进秀竹亭

占等佳人斗来临

不表沈标亭中等

五表了个一众人

前世勿肯修，今世做了头，福气也勿仰，吃个酒来穿个绸  
住个写楼，三名余依伸：手，四季衣衫薄：用，常：  
去个花园逛，看花用：透心头，个个福气也勿仰，下世还  
五做了头：何姐阿妹吟，系里个小姐，早五寻我，晚五寻我  
个得七位夫人，都守在小姐房里，勿起游玩花园，梳洗着  
雀小姐呢，早五茶者，晚五燕窝者，真当活拔，葛吃力来  
者，七位夫人勿起游玩花园，陪得昏头搭脑者，叫今朝

个头五假扮夫人小姐去游玩花园，乃葛打扮法呢，  
少夫人房里个了头打扮少夫人，打扮小姐五哭个，叫谁未  
打扮小姐，呢个头五假扮者打扮小姐，还有四了，仍旧当了  
头，才话唔要勿应，五哥良子三五，个未说话五标数了  
活常勿起逛，死得脚踏抽，活常勿嬉，死得乌比：  
大家打扮起来

一众人环偷衣衫

黄头发挽起时若者

八宝珠环挂两边

身穿绿花官福袄

桂香打扮假千金

金釵一对左右分

水粉好象石皮瓶

八寸花鞋足下登

手上戴付黄金镯

假装小姐哭啼

吟姑娘倦为余哭个

少年后花园桂花树下苦坐，也可消愁解闷，如此

嫂：法：姑娘法

假扮姑娘出园门

一齐来个花园内

七位夫人看花景

秋天树枝多残败

想身奴的终身可

好象一个白乳糕

来了七位假夫人

有道静我生悲，何

如此

一众人环后头跟

现看为果匡轩昂

小姐只是暗伤心

梧桐叶落好凄惶

乃有心思花景恨



四面八方无着

一身未斗花第上

吓姑娘桂芳上法坐

做开法姑娘折几枝桂花

奴见桂芳泪透

有福之人做夫人

哥在朝为官做

小妹配与度年

奴那有皇恩受

想斗比处心慈切

暗流泪落胸膛

假夫人店口把话讲

吓姑娘你看桂芳

可做瞻官折桂

唯有奴命苦分

瞻官折桂步升

七位嫂二皇恩

那能当官在朝走

怎做瞻官折桂人

假夫人重说阮烟

吓姑娘你看半天鸿雁飞来作对斗也看诗

奴看鸿雁悲啼

做对可比儿和嫂

小妹那有双日

可怜终身不落意

说罢转过假去

吓姑娘你看海棠

梨花斗也看诗

梨花乃是粗蠢之花

如何对种小婢

玉捏诗一首

到玉法教了杯

阮烟博命配玉郎

诗曰二佳人巧梳妆

世上多少不平事

可恨梨花对海棠

吓姑娘你不爱梨花

把心砍掉了

吓姑娘你看海棠

梨花斗也看诗

梨花乃是粗蠢之花

如何对种小婢

玉捏诗一首

到玉法教了杯

阮烟博命配玉郎

诗曰二佳人巧梳妆

世上多少不平事

可恨梨花对海棠

吓姑娘你不爱梨花

把心砍掉了

吓姑娘你看海棠

梨花斗也看诗

梨花乃是粗蠢之花

如何对种小婢

玉捏诗一首

到玉法教了杯

阮烟博命配玉郎

诗曰二佳人巧梳妆

世上多少不平事

可恨梨花对海棠

吓姑娘你不爱梨花

伊手话才活嫩未着

吓姑娘你看海棠

梨花斗也看诗

梨花乃是粗蠢之花

如何对种小婢

玉捏诗一首

到玉法教了杯

阮烟博命配玉郎

诗曰二佳人巧梳妆

世上多少不平事

可恨梨花对海棠

吓姑娘你不爱梨花

把心砍掉了

吓姑娘你看海棠

梨花斗也看诗

梨花乃是粗蠢之花

如何对种小婢



① 家要回占滩关去  
② 报与西伯爹得知晚

③ 家人奉命不出行  
④ 沈杯思想怒冲  
⑤ 可恨奴碗心太歹  
⑥ 幸亏老天未保佑  
⑦ 以斗凶姓打三回

收行李下船行  
骂声小贼天不容  
离退小贼心放粉  
还可回家见父翁  
大家团团下回云

① 家要回占滩关去  
② 报与西伯爹得知晚  
③ 家人奉命不出行  
④ 沈杯思想怒冲  
⑤ 可恨奴碗心太歹  
⑥ 幸亏老天未保佑  
⑦ 以斗凶姓打三回

那日奉命斗他多  
斗家公催来辱骂  
声至把婚未退  
孩儿打扮去私访  
未了路氏不贤女  
可比路氏不贤女

① 他道  
② 左还洞房初婚在  
③ 当在路氏初婚在

④ 还玉嫁梳小彩  
⑤ 相貌丑陋不象人  
⑥ 还是快些退婚  
⑦ 西伯爹哈看伊相貌丑陋不堪  
⑧ 良心死眼还是快些退婚  
⑨ 是者儿吓你且进去为父与你另配如花似玉之女  
⑩ 爹吓路氏吓路氏你有如此大胆竟敢辱骂世子爷  
⑪ 且住待家先将小贼离退再拿闻圣上便了  
⑫ 沈某手执无怪笔  
⑬ 字一行写信布  
⑭ 一封退书未写好  
⑮ 店口就把家人叫  
⑯ 家将有一封退书未写好  
⑰ 店口就把家人叫

① 不退回文迷去速回不得有快  
② 曼表千岁上京做  
③ 晴行在宿元担担  
④ 不日进了晋江县  
⑤ 店口就把门官叫  
⑥ 交代书信回身占  
⑦ 门官进内报子信  
⑧ 急往内店禀相爷  
⑨ 潘美千岁有书信一封呈上  
⑩ 潘美去不  
⑪ 退回文待家看未嗅  
⑫ 原来是封退婚书  
⑬ 且住待家进  
⑭ 内与贤者们商议  
⑮ 来至内堂  
⑯ 分在上媳妇万福  
⑰ 吓  
⑱ 贤者一旁坐下  
⑲ 未知公进未有何吩咐  
⑳ 非为别至



今日沈某有书信来为公折书观有，原来是一张退书  
 还至为上殿面圣，吓公：既是退书，就可为凭，面圣何妨  
 对面前何妨，如此为公去也。<sup>①</sup> 媳妇们候送，<sup>②</sup> 打直进京，<sup>③</sup>  
 皇表相爷上京城。<sup>④</sup> 皇表国舅女千金，  
 闻知沈林婿未退，心中暗：喜十分  
 忽然想起梅槐戒，<sup>⑤</sup> 迎接完英身未临  
 因言就把破：叫，<sup>⑥</sup> 小姑有言告知周  
 吓众位嫂：我想完英妹：去接他身来叙谈心挂，未知嫂  
 尊意如何。<sup>⑦</sup> 姑娘言之有理，了环你去叫家人打轿斗杨  
 家接二小姐身来，不待有候。<sup>⑧</sup> 了环晓得

① 环奉命不出行  
 家人各翰去如云  
 天标听了多明白  
 完英姑娘遵定命  
 拜别爹娘身上轿  
 了环急忙来通报  
 二姑娘进内堂，众位嫂：  
 姑娘请进坐定身  
 一位姑娘并切问  
 完英姑娘回言答  
 将言嘱咐众人  
 未斗杨家说分明  
 进房说与女儿听  
 腹中暗：喜十分  
 一路溜：进府门  
 姑娘一齐出来迎  
 了环即使送香茗  
 在家大小可安身  
 嫂：姐：在上听

① 夫人吩咐忙摆沈  
 了环急忙摆沈是  
 加至数杯建席散  
 打发了环出房去  
 自从姐妹未分别  
 奴有一对梅槐戒  
 压说姐妹香相合  
 奴：一只今还在  
 完英所言之一惊  
 奴：也是体安身  
 款待二姐女千金  
 大家谦逊坐分宾  
 姐妹携手进房门  
 关门后口问一声  
 惟恐日改，两疏挂  
 一只赠与贤妹身  
 戒手成对两安心  
 贤妹一只可在身  
 姐：问戒为何因

9  
 心中思想生巧计  
 姐：只因家父少钱用  
 ① 妹英听说怒气生  
 怎说今尊少钱用  
 你今休得未暗系  
 梅槐戒手成双对  
 ② 完英一鬼魂不在  
 因何落在小姐手  
 ③ 就问姐：何处得  
 ④ 完英你知言巧语来骗家  
 就把姐：叫一声  
 戒手为换口花良  
 ⑤ 三端四不接因  
 怎说为换口花良  
 你的戒手在在身  
 ⑥ 法你自己看分明  
 想奴乃日赠王生  
 不願羞愧回一声  
 多少良子买进门  
 休想为姐说真话



吓姐：小妹怎敢陈晴，笑言奉告便了

功姐切莫怒气生  
乃自家身外河边走  
家住牙波定海县  
今年：方十六春  
只为看潮身染水  
家弟一見将他救  
小妹与他故牙打  
爹：将他来背出  
小妹真性未说出

小妹：苦衷性  
遇见一位小书生  
三字名叫王左文  
十五岁上入洪门  
浸在河中无计生  
将他苗住赠衣衫  
梅花戒子赠王生  
望断秋水无音信  
还望姐：说其性

②你说书生王左文  
却被家爹全看见  
送茶露出梅花戒  
他将真性告诉家  
并未家父得知情  
奴想咱妹有福份  
唯有奴爹薄命人  
③你是家白多佳女  
部才女貌同千金  
遇春园谢性由心

那路过后花园门  
将他苗进在村门  
奴：见了问其性  
为姐才知内中情  
叫他上京赶功名  
许能  
称心如意好郎君  
不及你贤妹半毫分  
相村门第同千金  
以恩报德做夫人  
④再教唐王坐宝座

河清海晏国泰民安。德。官人大唐天子是也。自从来  
基心来刀枪入库马放青山雨调雨顺国泰民安此乃  
一朝之洪福也。今为大朝日期侍儿三放虎门。万岁有旨  
三放虎门。臣等见驾喜主万岁。众卿平身。万万岁  
众爱卿。今为大朝日期。有奏上无万退班。臣平西王沈  
荣有本启奏。奏来。臣唐万岁。臣子沈荣。蒙圣恩作  
伐。骆宾王之配。与臣子为宝。臣子去外他家。蒙圣恩不  
允斗四。累。反而辱骂臣子。有赖婚之意。臣等呈降旨  
大胆駁案。你女寡人为媒。配与平西王为媳。你敢图赖  
婚姻。该当何罪。臣唐万岁。神是微臣有赖婚之意

乃沈荣将家女高悬。今有沈荣。亲笔呈上。说万岁  
龙目观者。大胆沈荣。你完全是颠倒。是并。混清黑白  
者。有黑无帅。岩班。奏道。吓。吓。吓。沈荣父子有谋叛  
之心。意欲高丽。借兵十万。杀进中元。五。存。取。锦。绣。江。山  
现有私通反。右呈上。待。待。人。看。来。呵。呵。可。怪。大胆沈荣。  
寡人何等看待与你。你起不良之心。兵。武。士。上。殿。在。将  
沈荣父子。帮。外。本。斩。首。念。其。惜。日。平。有。功。从  
肯。发。落。多。押。边。差。元。年。永。不。回。国。臣。等。起。程。领。旨。  
黑。无。帅。首。有。功。封。为。威。镇。将。军。永。镇。潼。关。  
7。领。旨。臣。等。过。来。所。旨。臣。在。待。等。大。典。把。选。才。就



双全之人 托为东床 房人为媒 与奴共配 完花婚 谢恩  
退班 谢主恩

驸马父子 书朝门

考官登堂 未坐定

奉旨考奇才 洋子进场来

老夫翰林院 吉天祥 奉旨考取 天下奇才 来吓

把首隔门 大开 哇 左首院门 右首院门

生员天字号 学土地 宝 左字号 上座 领对 法太师

右题目 风吹马尾千条线 对就 日照龙鳞万点金

好秀才 龙虎日看榜 谢太师 地字号 领对 法太师

再表考期 拜拜 拜

洋子 进坊 临

老夫 文才 端立 造状元 部

老夫 翰林院 吉天祥 奉旨 考取 天下 奇才 来吓

把首 隔门 大开 哇 左首 院门 右首 院门

生员 天字 号 学 土地 宝 左字 号 上座 领对 法太师

右题目 风吹 马尾 千条 线 对就 日照 龙鳞 万点 金

好秀才 龙虎 日看 榜 谢太师 地字 号 领对 法太师

吃牛肉 出题目 才子 出题目 前面 只准 雄鸡 追来 以道 起 好意 一对 夫妻 早起 刚做 秀才 经

一卷 未带 者 前天 一只 雄狗 后头 一只 雄狗 好象 是 夫

师 个 娘舅 吐 文字 下流 狂 出首 隔 做家 定

赶 去者 忘 三年 勿来 考 考 坊 有 有 来 还 是 居 起 更

太 解 湖 柴 起 举子 文 定 好 上 殿 奏 皇 朝 来 有 响

起 进 上 朝 不 表 考 官 上 朝 走 皇 后 王 后 文

万 岁 御 笔 来 来 来 夫 居 状 元 王 后 文

榜 眼 亦 在 东 床 榜 榜 亦 在 浙 江 人

状元步入金塔上

臣叩君王万万年

臣科科状元见驾家主万岁 臣身殿元公见寡人因何不

拾头 容貌丑陋不敢拾头 容貌乃是父母生就胆大拾起头

来 法万身龙目观看 状元才貌双全寡人存心大喜奉

旨 陛 下 三天 状元 书 寡人 俱 已 明白 爱 卿 为 看 潮 失 水 多

有功 钦 赐 八 品 官 常 卿 妻 杨 氏 完 英 封 为 二 品 淑 法 夫 人 朕

为 媒 朕 寡 之 女 朕 氏 姣 燕 配 与 状 元 为 室 封 为 一 品 淑 法 夫

人 卿 父 身 居 极 品 爱 卿 祭 祖 归 家 奉 旨 完 姻 百 年 未 京

受 职 谢 恩 去 罢 万 岁 万 岁 万 岁

状元谢恩出朝门

多蒙万岁为月老

上京得中为魁首

不表状元回家了

将话说与众人听

内边家人听着你们速备轿子去接杨天祥夫妇来

家人奉命去如云

天祥夫妇多欢喜

行来已斗相府地

心中欢喜非常

驸马姣燕配成双

奉旨祭祖归家那

捏表相爷把话讲

合家欢喜非常

未斗杨家说虎因

夫妻双双就起呈

相爷即传出来迎

相爷在上杨天祥夫妻叩头者 不敢话起 相爷呼唤杨



天好夫妇进府有何吩咐 相爷把前后情由细说一通 天好  
夫妻闻言好不欢悦人也

难消皇帝做媒人

多蒙相爷来接拜

揀选黄道吉日

不表送亲情由了

① 报王相：相公海中央名状元居津者 胡悦 ② 其当居津者

③ 有这等才来真：谢天谢地 待京前去看来 未至方厅

相公在上老奴王法叩头 ④ 老人家法起 难消你忠心义胆

老人家受小生拜 ⑤ 吓这是使不消的 岂非折死老奴了

⑥ 即因配与状元身

接家夫妻进府门

一同送亲去完姻

⑦ 再表状元家门

相公作别斗如今

总道今生难相会

⑧ 何人前不相教你

状元即便回言答

⑨ 在文就把性由许

自从看潮来失水

⑩ 多蒙杨妈来相救

后来进入路相村

⑪ 多方路相爷来盘问

相爷听了多欢欣

老奴在家好伤心

⑫ 谁知今日又在津

老奴跟前说仔细

⑬ 就把王法叫一声

⑭ 一：从夫说分明

在潮流入毫霸城

⑮ 与他女儿来订婚

⑯ 内外出入书童称

⑰ 亲将真信说他听

⑱ 赠金盘上京做

考试海中第一名

云你一片忠心

⑲ 不表主仆来谈讲

⑳ 家人进内报王佳

⑳ 奉旨祭祖转京门

你是京家大恩人

⑳ 报状元老爷外面文武官员齐拜有名帖呈上

⑳ 吩咐下

⑳ 叫文武官员回衙理

⑳ 法定海县知大人进见

⑳ 是左

⑳ 吩咐下

⑳ 文武官员回衙理

⑳ 法定海县进见

⑳ 不合法

⑳ 晚生有礼

⑳ 不敢状元公呼喚卑职有何贵至

⑳ 法定海县

⑳ 神殿代为非心修理

⑳ 完果之后待晚生括息

⑳ 就比告退

⑳ 候送

⑳ 打轿

⑳ 知县告别转京门

⑳ 吩咐二匠修殿庭

不多几日本修毕

⑳ 状元上殿了还愿心

⑳ 家人至又报王佳

⑳ 报路相爷与杨老爷太

⑳ 送小姐斗

⑳ 大开正门出外迎接

⑳ 二位新父也送

⑳ 状元女婿大姓各法

⑳ 咳今都祝状元生得

⑳ 好 仰意素瞧一瞧

⑳ 喂 家主要家看富了

⑳ 状元老爷

⑳ 好多旧年头

⑳ 月里个风阳进呢

⑳ 借了老冤家个眼力才好

⑳ ⑳ 因边家人所着上棚灯结彩

⑳ 下红毡铺地

⑳ 点起龙凤彩

⑳ ⑳ 婚 传宴相

⑳ 来者

⑳ 家做宴相

⑳ 候龙响

⑳ 看见真元

⑳ 丙只眼睛

⑳ 亮

⑳ 伊活半斤

⑳ 伊活八斤

⑳ 伊活相

⑳ 伊活神

⑳ 伊活神

⑳ 伊活神



忘话壁墙大嘉要殿长...介未承来赞礼者  
伏以水上对金鸡浮凤风一对结鸾绸山水相凝  
同罗帐一夫西相东切...冥相好言赞红妆...  
附焉入竿堂法拜

③ 四拜天来四拜地

回身四拜祖先堂

再拜堂上老大人

拜红移步入洞房

光耀迅速容易过

两位老人多儿郎

两位夫人一生一誓

又有两位公子郎

曼表冯子性由多

皎英夫人把话讲

吓贤妹想奴万岁为媒 错配沈标 总是前世宿债

之故受了多少磨难 如今要看破红尘 以修来世  
① 姐小妹早有此心 不如同修行 正说之间 状元步  
入内堂 吓三位夫人讲些什么 吓相公想是为人之苦也

可敬为人不肯修

受难受难受难

为人可比春草

作表新就不斗天

② 如今看破红尘界

奉劝相公早修行

④ 状元即侯回春谷

下官任满回家修

状元任满回家 夫妻二人 依归同修 杨天标夫妇 见  
儿婿们修行 也觉回心转意 同修佛道 寿数  
已尽 无疾归天 状元如亲治丧 葬在空葬归山

夫妻二人修到三千年后 太白星君接拜玉旨一道  
听此读福音 今由王英文是文曲星下凡 投入金  
路氏妹 杨氏兄弟 是月宫仙女下凡 投入红尘 功  
夫有成 修道同归 两位公子 出仕为官 下去分  
候之位 共桂香 双英宝卷 前在四回 恩怨  
分明 忠孝双全 大聚团圆 拜谢皇恩 无他也

双英宝卷 卷之九

夜夜是中文曲星

两位夫人月宫女

后奉劝夫同修道

目得团圆 永无分离

大驾南神 有奉送

隋洛红尘 遇熬煎

仍作常娥月里仙

留下两位贤女子  
踏相后未善心空  
王德卷头多仁心  
天标夫妇后修道  
沈菜父子多阴险  
阿弥陀佛多念  
一言能积无量福  
不信但听双英卷  
今日立部双英卷

也是唐朝伴君前  
修功圆满上青天  
寿高归天好安眠  
无病无疾升西天  
边关九军实可恨  
勿费工夫勿费钱  
千金难买子孙贤  
不成菩萨也成仙  
一年四季保平安